

時代をLEADする公立大学

公立大学の将来構想に向けての議論の方向性と可能性

公立大学の地域貢献機能

地域貢献プログラムの“LEAD”による事例分析

■ 2018年1月

一般社団法人 公立大学協会

はじめに

公立大学は地域からの強い要請を受けて、地方公共団体が自ら設置した大学です。開学以降その使命に即し、地域に密着した教育研究活動を通じて有為な人材を輩出する責任を果たしてまいりました。2017年現在89大学となった公立大学は、地域特性、設置形態、理念、規模、学問分野等のどれをとっても多様性に富んでおり、これらすべての大学を、ひとつの“公立大学”として、その特徴を一般論で議論することは非常に難しい状況にあります。

公立大学協会では、昨年度「公立大学の在り方に関する検討会議」を設置し、公立大学の将来構想を考えるための議論を開始し、その結果を『時代をLEADする公立大学』(2017.5)という冊子に取りまとめました。その中で、公立大学の機能、特に地域貢献機能を分析するために4つの指標を設定することを提案するとともに、それぞれの頭文字をとって“LEAD”としてアピールすることにしました。

事例集には、全ての公立大学の地域貢献の取組事例及び事例の機能分析を掲載しております。冒頭には、地域貢献に対する学生の役割を探求し交流を深めている、全国公立大学学生大会(LINKtoposと呼ばれています)を紹介し、公立大学ならではの取組みを示しています。

ここに掲載したものは、多岐にわたる取組みのうちのほんの一部ですが、ご高覧いただき、公立大学の地域貢献に関する取組みについて、ご理解賜りたく存じます。

公立大学協会会長 郡 健二郎
(名古屋市立大学長)

1. 公立大学の学生交流を通じた地域貢献

(1) 学生ネットワークと全国公立大学学生大会 (LINKtopos)

地域貢献における学生の活躍は、ボランティア活動やイベント活動に対する貢献を指すことがほとんどで、大学や地域での活動における本来のあり方は、いまだ模索の段階にあり、今後、大学の教育・研究の継続的な取組みの中で、そのあるべき姿を求めていかなければならない課題です。

公立大学では、2011年の東日本大震災に対する復興活動にボランティアとして参加した学生達がネットワークを組織し、“LINKtopos”と呼ばれる学生大会を実施してきました。この組織名は、LINKという英語とToposというギリシャ語による造語ですが、公立大学の学生達が、“つながり”による力を発揮できる場を作ろうという願いから命名されました。

全国大会は2泊3日で、100名規模の参加者により行われています。そこでは、メインテーマに関連するシンポジウムの後に、少人数のグループで時間をかけてワークショップが行われます。自分の考えを語り、仲間の考えを聞きながら、設定された課題を解決するための方策を見つけていくプロセスは、学生の“気づき”を促すことから、教育的効果の高い取組みとなっています。

メインテーマには、地域貢献において「学生にできることは何か？」あるいは「大学で学生・職員・教員が協働できることはなにか？」といった視点が盛り込まれるなど、公立大学の機能と役割を踏まえた議論が行われています。



学生大会のワークショップ
ディスカッションの様子と作業パネル

全国公立大学学生大会(LINKtopos)の開催地とメインテーマ

1	2013年	岩手県立大学	大学／学生と地域コミュニティの協働をデザインする
2	2014年	兵庫県立大学	大学・地域における学生・教員・職員の理想的な協働を考える
3	2015年	名古屋市立大学	地域を考える学生・教員・職員の理想的な協働体系と地域課題の解決に向けた取り組み
4	2016年	北九州市立大学	地域につながる。未来につなげる。
5	2017年	大阪市立大学	地域と出逢い、私と出逢う。「地方の知を、結集させよ。」

現在、全国大会の成果を受け止めて、それぞれの大学で LINKtopos 関連のサークル活動やイベントが行われるようになっていっています。さらに活動範囲を地域に広げ、近隣の公立大学とのネットワークを強めることも試みられています。公立大学協会では全国を6つの地区に分けて、地区ごとの学長会議を行っておりますが、その地区に応じた学生大会が計画されるようになっており、大学の地域貢献における学生達の役割を考え、広げていく、重要なものとなっています。

(2) 学長会議との連携

全国大会は、10月に行われる公立大学の学長会議と並行して開催され、学長と学生が一同に集まって同じテーマで議論する「合同セッション」を実施してきました。全国の学長が集まる中に学生達が参加し、学生と学長が直接話し合い、交流できることは、学生にとっても、学長にとっても大きなインパクトとなっています。

LINKtoposは、特定の成果を目標にしたプロジェクトではありませんが、大学における教育プログラムに関連付けながら、社会的・歴史的に意味ある活動に高めていくために、学生、教員、職員の協働作業の中で公立大学の地域貢献のあり方を継続的に考えていきます。



学生・学長合同セッションにおけるポスター発表とランチ交流

学生・学長合同シンポジウムにおける学生発表



2. 公立大学の地域貢献プログラム事例

(1) L・E・A・Dによる機能分析

公立大学協会では、平成28年度に「公立大学の在り方に関する検討会議」を設置して、将来構想に関する問題に取り組み、会議における議論の結果を、『時代をLEADする公立大学』として報告しました。この中で、多様な公立大学の特徴、特に地域貢献プログラムの機能を分析するために、「サステイナブル（既存の価値を守る）／クリエイト（新たに価値をつくりだす）」の軸と、「地域からの要請型／大学からの提案型」の軸を設定することで、“地域のいのちを守る”働き、“地域の価値をつなげる”働き、“地域の財産を発展させる”働き、“地域の可能性を開発する”働きの4つの要素を抽出しました。

公立大学の地域貢献機能の分類

	サステイナブル	クリエイト
地域からの要請型	Assure 地域のいのちを守る	Enhance 地域の財産を発展させる
大学からの提案型	Link 地域の価値をつなげる	Develop 地域の可能性を開発する

この4つの要素を、Assure、Link、Enhance、Developと名付け、分析項目を作りました。順序を並べ替えると、下記のとおりL・E・A・Dとなります。この分類に基づき、各大学が実施している地域貢献プログラムの機能を分析する調査を行いました。

公立大学の地域貢献機能における得意分野の例と機能の内容

	機能	得意分野の例	機能の内容
L	LINK 地域の価値をつなげる	地域政策系 環境系 社会科学系	地域内、地域間にある価値・知恵をつなぎ、持続可能な社会をつくる
E	ENHANCE 地域の財産を発展させる	芸術系 人文系 農学系	それぞれの地域が有する財産や価値を育て、さらに飛躍させる
A	ASSURE 地域のいのちを守る	医歯薬系 看護医療系 福祉系、栄養系	地域の命を守るためのsafety netをしっかりと確保する
D	DEVELOP 地域の可能性を開発する	情報系 理工学系 国際系	これまで地域に存在しなかった新たな価値を創造し、地域を開発する

提供された資料とその分析（目次）

札幌医科大学	1	愛知県立大学	46
釧路公立大学	2	愛知県立芸術大学	47
公立はこだて未来大学	3	名古屋市立大学	48
名寄市立大学	4	三重県立看護大学	49
札幌市立大学	5	滋賀県立大学	50
青森県立保健大学	6	京都府立大学	51
青森公立大学	7	京都府立医科大学	52
岩手県立大学	8	京都市立芸術大学	53
宮城大学	9	福知山公立大学	54
秋田県立大学	10	大阪府立大学	55
国際教養大学	11	大阪市立大学	56
秋田公立美術大学	12	兵庫県立大学	57
山形県立保健医療大学	13	神戸市外国語大学	58
山形県立米沢栄養大学	14	神戸市看護大学	59
福島県立医科大学	15	奈良県立医科大学	60
会津大学	16	奈良県立大学	61
茨城県立医療大学	17	和歌山県立医科大学	62
群馬県立女子大学	18	公立鳥取環境大学	63
群馬県立県民健康科学大学	19	島根県立大学	64
高崎経済大学	20	岡山県立大学	65
前橋工科大学	21	新見公立大学	66
埼玉県立大学	22	県立広島大学	67
千葉県立保健医療大学	23	広島市立大学	68
首都大学東京	24	尾道市立大学	69
産業技術大学院大学	25	福山市立大学	70
神奈川県立保健福祉大学	26	山口県立大学	71
横浜市立大学	27	下関市立大学	72
新潟県立看護大学	28	山陽小野田市立山口東京理科大学	73
新潟県立大学	29	香川県立保健医療大学	74
長岡造形大学	30	愛媛県立医療技術大学	75
山梨県立大学	31	高知県立大学	76
都留文科大学	32	高知工科大学	77
長野県看護大学	33	九州歯科大学	78
長野大学	34	福岡女子大学	79
富山県立大学	35	福岡県立大学	80
石川県立看護大学	36	北九州市立大学	81
石川県立大学	37	長崎県立大学	82
金沢美術工芸大学	38	熊本県立大学	83
福井県立大学	39	大分県立看護科学大学	84
敦賀市立看護大学	40	宮崎県立看護大学	85
岐阜県立看護大学	41	宮崎公立大学	86
情報科学芸術大学院大学	42	沖縄県立芸術大学	87
岐阜薬科大学	43	沖縄県立看護大学	88
静岡県立大学	44	名桜大学	89
静岡文化芸術大学	45		

大学名	札幌医科大学
事例	地域医療機関への医師派遣について

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link	
Enhance	
Assure 地域のいのちを守る	北海道の地域医療を支える高い志をもった医療人の育成に努め、地域への医師派遣を通じて北海道の医療・保健・福祉の充実に寄与し、医学研究を通じて先端医療の開発に貢献している。 また、広大な北海道の地理的状況などから、医師・医療者が偏在しているという現状を受け止め、大学の使命として、地域における安心・安全な暮らしを支える医療の提供に資するために、道や、道内の医療機関からの要請に応じて、医師派遣に取り組んでいる。
Develop	

＜札幌医科大学＞地域医療機関への医師派遣について



医師確保が困難な地域への医師派遣を積極的に推進

北海道の地域医療提供体制の確保を図るため、医師確保が困難な市町村立等医療機関に対し、道からの要請に基づき、本学の教員の派遣を行う「教員派遣制度」を実施しています。また、緊急的な医師派遣要請や地域医療機関からの診療支援要請に、迅速かつ円滑に対応するため、本学の医師派遣機能を一元化し、「札幌医科大学地域医療支援センター」の下に「札幌医科大学地域医療支援センター」を設置し、積極的に医師派遣に取り組んでいます。

札幌医科大学 教員(医師)派遣制度

北海道の地域医療の現状

〔医師の状況〕
道内の人口10万人あたり医療施設従事する医師数は、平成12年の調査で初めて全国平均を上回ったが、平成22年に再び全国平均を下回っている。

〔二次医療圏別医師数(平成26年末)〕
札幌圏に全道の医師の約半数が集中しており、地域偏在が著しい。

区分	全国	北海道				
		全道	市部	町村部	最大圏域	最小圏域
医療施設従事医師数	296,845	12,431	11,549	882	札幌圏 6,626	南稚山圏 29
		100.0%	92.9%	7.1%	53.3%	0.2%
人口10万対医師数	233.6	230.2	263.5	88.4	上川中標 320.5	宗谷圏 95.3
		100.0%	114.5%	38.4%	139.2%	41.4%

(単位:人)

札幌医科大学 教員派遣制度

平成13年度から地域医療の確保を目的に、札幌医科大学の教員(医師)を医師確保が困難な地域に常勤医師として派遣する教員派遣制度を実施しております。

この制度は、市町村からの派遣希望を北海道が取りまとめ、札幌大へ要請を行い「札幌医科大学地域医療支援センター」で選定した医療機関に、原則、1医療機関に対して1年間(4年まで延長可)教員(医師)を派遣しております。

〔派遣期間等〕

- ・ 派遣期間 原則1年間(4年まで延長可)
- ・ 対象医療機関 市町村立医療機関、地域センター病院
- ・ 派遣枠 20名(年間派遣数上限)

〔派遣状況〕

- ・ 9名(平成28年度実績)

〔教員派遣決定までの流れ〕

札幌医科大学における医師派遣の取組み

教員派遣制度とともに、緊急的な医師派遣要請や地域医療機関からの診療支援要請に対して、札幌医科大学は積極的に医師派遣に取り組んでおります。

道からの要請

[教員(医師)派遣]
市町村立医療機関

⇄

教員派遣

地域医療機関からの要請

札幌医科大学
(地域医療支援センター)

⇄

医師派遣

⇄

[医師派遣]
地域医療機関

大学名	釧路公立大学
事例	くしろ応援ファンド～くしろの新たな価値の創造を応援～

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	産学金官の関係機関が連携し、地域一体となって、くしろ応援ファンドを推進することで、新たな価値を生み出す事業者と関係機関、当該事業者と釧路市内外の応援者をつなぐ。
Enhance 地域の財産を発展させる	くしろ応援ファンドを通じて、釧路の地域資源を活用した事業を推進することで、さらなる地域資源の発展を図る。
Assure	
Develop 地域の可能性を開発する	くしろ応援ファンドを通じて、釧路市内外から資金面等の応援を受け、地域資源を活用した事業を推進することで、くしろの新たな価値を生み出す。

釧路公立大学 地域経済研究センター

くしろ応援ファンド ～くしろの新たな価値の創造を応援～

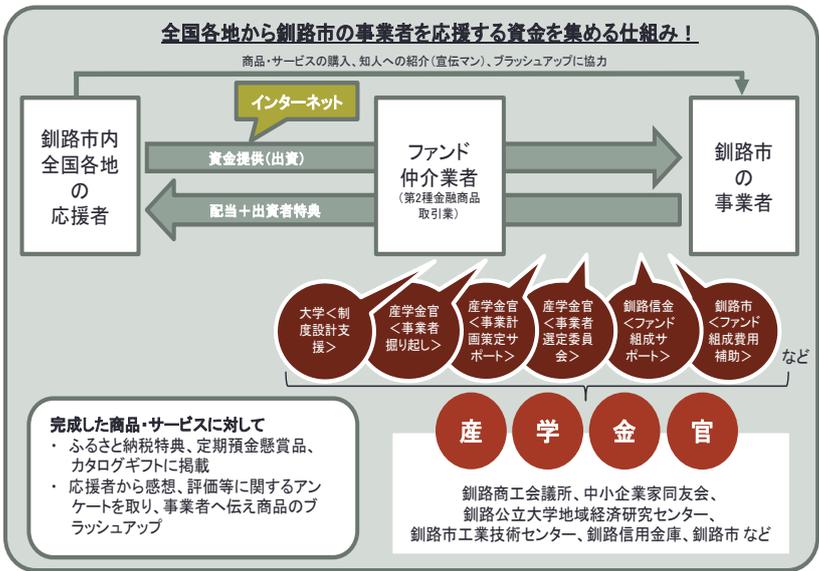
釧路市が策定した都市経営戦略プラン「政策プラン」が示す自立的発展を目指すまちづくりを展開する仕組みの一つとして、釧路市の地域資源を活用した事業を応援するために釧路市内外から小口の資金を募る「市民ファンド」について、釧路公立大学、釧路信用金庫、釧路市の学金官が共同研究を行い、地域一体となって取り組む「くしろ応援ファンド」の仕組みを構築しました。

目的

釧路市の中小企業等が取り組むくしろの新たな価値を創造する事業への応援資金を、釧路市内はもとより全国各地の方々から集める仕組みを設け、産学金官が一体となって、地域資源を活用したくしろの新たな価値の創造を図ります。

<効果>

- ファン増加
- ファンが宣伝マンになることによる販路拡大
- 応援者の声による商品のブラッシュアップ
- 補助金や融資に依存しない資金調達



実現事例 (株) Flanders

北海道 新スイーツブランドNファンD



国内外から高い評価を受けている釧路地域の生乳からつくる生クリーム等を使用した、北海道らしく魅力的なデザインのスイーツの開発資金を応援

大学名	公立はこだて未来大学
事例	函館市 IoT 推進ラボ

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link	
Enhance 地域の財産を発展させる	情報系大学として、これまで蓄積してきた研究成果、及び最先端の AI 研究を活用して、IoT 関連企業や IT 企業の研究開発拠点等が集積する地域を目指すとともに地域の人材育成に貢献する。
Assure	
Develop 地域の可能性を開発する	大学の持つ情報技術力を活用し、地域の他の高等教育機関と共同して IT 企業誘致・未来につながる新事業創出を目指すとともに、情報技術人材の育成に取り組む。

函館市IoT推進ラボ

北海道函館市

事業の内容

事業目的・概要

- [目的] 高等教育機関が集積している地域の強みを活かし、公立はこだて未来大学の最先端のAI研究、函館高専のものづくり技術等を活用し、地域内外から製造業、IT企業を呼び込み新産業の創出・雇用の拡大を図る。
- [概要] 市の魅力度や公立はこだて未来大学のAI研究およびマリニIT,メディカルIT等の研究や函館高専のものづくり技術、北大水産学部の水産・海洋分野に特化した技術等を最大限活用し、IoT関連企業やIT企業の研究開発の拠点等が集積する地域を目指す。

重要業績評価指標 (KPI)

- IT・IoT関連企業誘致数：6社(H31まで)

今後の展開

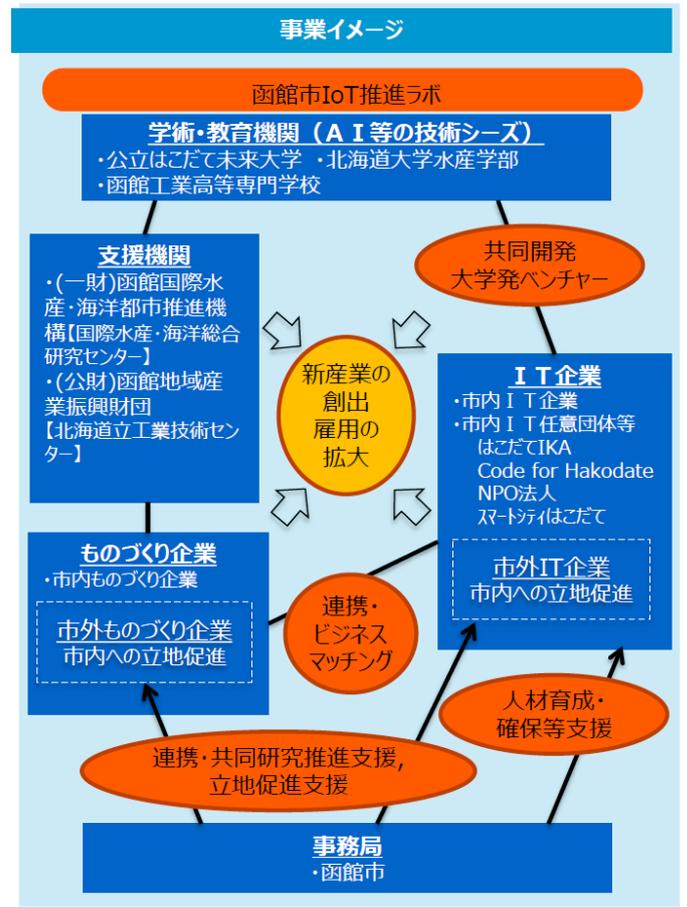
- 産学官が連携し、市内製造業・IT企業の振興はもとより、市外のIoT関連企業やIT企業を積極的に誘致し、未来につながる新事業の創出を図る。あわせて、IoT推進の核となるIT人材の育成・確保についても地域をあげて推進する。

事務局

- 函館市

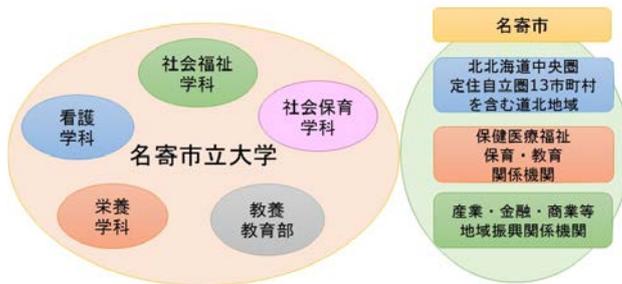
参加プレイヤー

- ものづくり企業ほか
- IT企業・IT任意団体等ほか
- 高等教育機関等(公立はこだて未来大学,函館高専,北大水産学部ほか)
- (公財)函館地域産業振興財団
- (一財)函館国際水産・海洋都市推進機構



大学名	名寄市立大学
事例	コミュニティケア教育研究センター設置による地域連携

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	本センターを設置し、道北地域における保健・医療・福祉・教育・保育等の充実発展、地域並びに産業の振興に地域住民との連携を図っている。
Enhance 地域の財産を発展させる	本学は、名寄市が進める冬季スポーツ振興事業の推進のため、名寄市、周辺自治体、北海道との連携・協力を図っている。 本センターは、本学と関係機関との連絡調整を担い、地域の価値を高める事業に貢献している。
Assure 地域のいのちを守る	本学は、保健、医療、福祉、教育、保育に従事するケア専門職を養成する大学であり、ケア専門職の地域定着や継続教育により地域のケア力向上を図ることが使命の一つである。 本センターは、地域が必要としているケア専門職の研修事業等を主催し、地域の保健医療・福祉の働きをサポートしている。
Develop 地域の可能性を開発する	本センターは、教育・研究と実践との「橋渡し拠点」として、地域課題の発見・解決、地域の新たな価値開発に向けた研究や、先駆的実践に取り組むための「課題研究費」の配分を行っている。



- 【主な取組み】
- ・市民公開講座
 - ・商店街あそびの広場
 - ・東風連真冬の大運動会
 - ・子ども食堂

- 教育**
 - ・★ 地域社会の教育的活用を行う拠点
 - ・★ 教育・研究資源を地域社会に開放し、地域住民の生涯教育、専門職の継続教育と教育・研究・実践の連携を行う拠点
- 研究**
 - ・★ 地域住民や地域自治体・企業、医療機関・福祉施設等とともに、地域社会、特に道北地域の課題解決に資する研究活動を行う拠点
- 地域貢献**
 - ・★ 教職員および学生による地域交流や地域活性化の活動を支援し、その成果について積極的な情報発信を行う拠点



【産官学連携事業：商店街あそびの広場】

- ・昔ながらの「あそび」を通じて、駅前商店街の空き店舗利用と賑わいある街並みを創出する。



- ・商店街連合会
- ・商工会議所
- ・社会福祉協議会
- ・観光まちづくり協会
- ・北星信用金庫
- ・名寄市教育委員会
- ・名寄市立大学 他

【産官学連携事業：東風連真冬の大運動会】

- ・廃校となった小学校を利用することで、地域コミュニティの形成と冬期間の健康増進、生活習慣改善等を目的とする。



東風連 真冬の大運動会
Winter sports festival
in Higashi-furen

【日時】
2017年2月5日（日）13:30～

【会場】
旧東風連小学校体育館

【主催】
東風連地区町内会

【共催】
名寄市スポーツ振興・会館課
名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター

- ・東風連町内会
- ・障がい者指導者協議会
- ・ミズノ㈱
- ・㈱竹山
- ・アルケア㈱
- ・名寄市
- ・名寄市立大学 他

大学名	札幌市立大学
事例	ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	地域を教育のフィールドのひとつにすることによって、地域に目を向けたことがなかった学生と地域とを出会い、学生という人的資源と地域とをつないでいる。
Enhance 地域の財産を発展させる	「まちの先生」、「街の談話室」などの企画の中で、才能ある市民が持つ知識を他の市民に伝える公開講座や音楽会等を展開し、地域の人財を掘り起こしている。
Assure 地域のいのちを守る	「健康応援室」を開設して行政と連携を進めるほか、健康相談を行って市民の健康意識の醸成に貢献している。
Develop 地域の可能性を開発する	閉校した小学校の跡地を大学の教育、研究、社会貢献の場として活用することによって、地区の活性化の一翼を担っている。

ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業

■ 本事業の概要

多世代・多セクターによるウェルネス×協奏型地域社会

地域の魅力ある顔づくり
高齢者のウェルネス支援
多世代・多セクター型コミュニティの再構築
協奏型地域社会の担い手

札幌市立大学
協奏する能力
専門性を
実社会に
活かす力

札幌市
南区
子ども未来局
まちづくり政策局
等
地域の皆様

学び舎
まちの学校
COCキャンパス
(旧真駒内小学校)

学生

■ 本事業の実施の場

包括地域として「札幌市全域」、集中地域として「札幌市南区」を設定し、活動を行う。平成27年5月9日にまこまる(旧真駒内小学校跡地)に「札幌市立大COCキャンパスまちの学校」をCOC事業の「学び舎」として開設した。

COCキャンパス

札幌市立大学

● 異分野連携による地域課題への取組

	H28年度 1年生	H29年度 2年生	H30年度 3年生	H31年度 4年生	大学院 研究プロジェクト
COC事業に関わる授業のスケジュール	スタートアップ演習	学部連携演習	学部連携演習	卒業研究	研究科連携プロジェクト演習 地域プロジェクト演習
教育目標(地域と教育)	地域を知る	地域の課題を抽出	課題解決の方法を知る	地域で試みる	地域に貢献する
教育の内容	地域に出かける	地域について調べる	地域についての提案を創る	プロジェクトを地域で企画・実施する	地域貢献度の高い課題は研究へシフト
教育・研究・地域貢献	地域の各種団体との交流	ニーズの探索	課題解決 コンセプトの生成	地域の現実性の理解(プレ研究)	地域プロジェクト(研究)

人材育成目標
● 修得した看護やデザインの能力を発揮し、地域固有の課題発見や解決に能動的に取り組むことのできる人材

● 地域を対象とした特色ある視点

札幌市を対象としてウェルネス×協奏型地域社会に向けた研究を推進

高齢者の健康に関するニーズ調査
平成25年度に実施した「ニーズ調査」の分析を進め、「まちの教室」公開講座の企画立案に活用した他、分析結果を学会等にて発表。

COC共同研究
札幌市南区を対象とした研究を推進。
※平成26年度5件、平成27年度3件、平成28年度2件の研究を採択

● 「まちの学校」を拠点とした地域住民との交流と学び

SCU まちの教室

本学の教員が、地域住民に大学の知見を還元。
※SCUまちの教室公開講座/大学院授業公開等

SCU まちの先生

地域住民が講師となり、学びあう場を生み出せるように地域住民と共に企画運営を実施。
※SCUまちの先生運営委員会/SCUまちの先生企画等

SCU まちの談話室

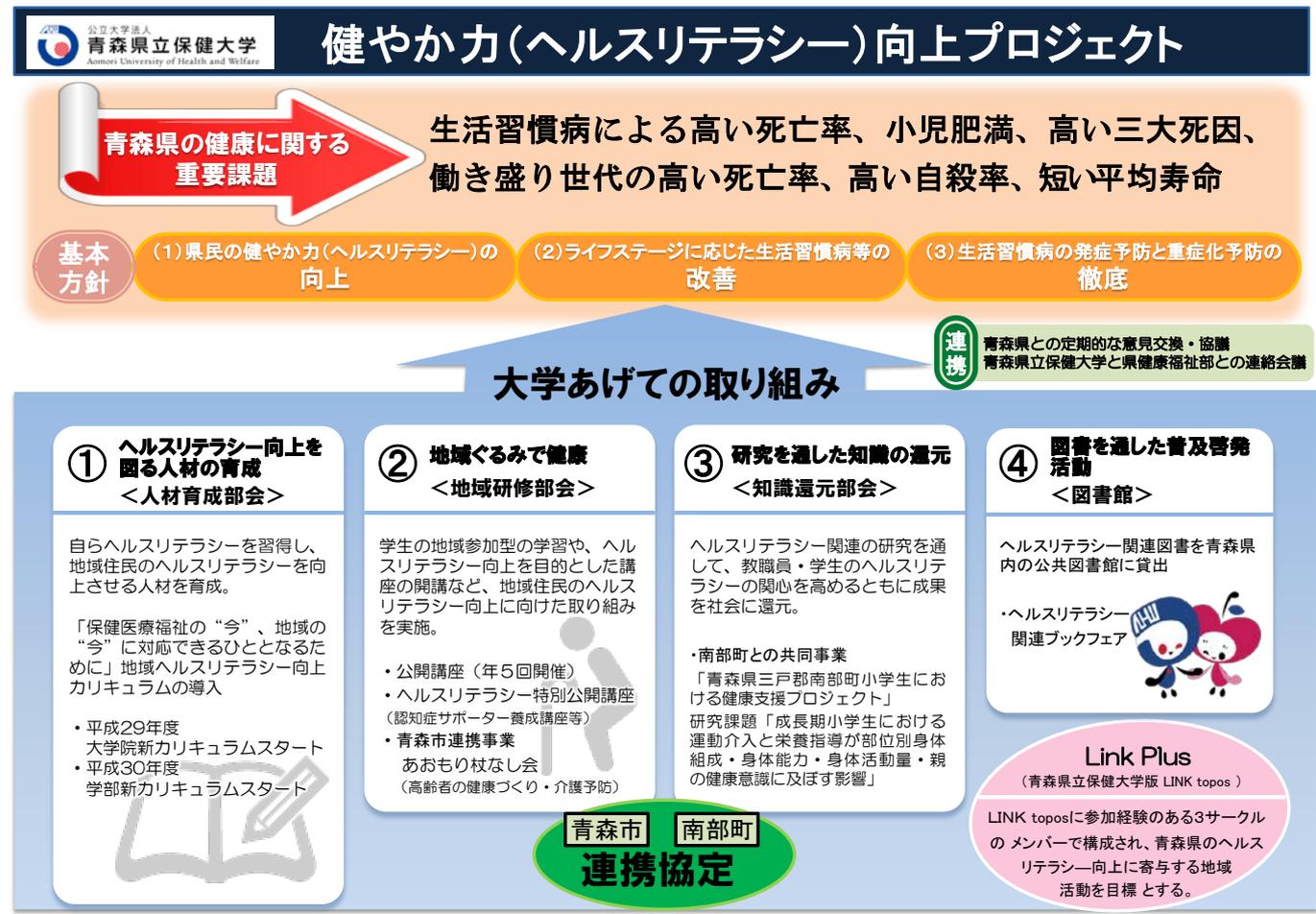
多世代・多セクター間の交流を活性化するイベントを企画、実施。
※SCUまちの図書室・談話室/SAPPOROハロウィン等

SCU まちの健康応援室

地域の看護師、保健師などの有資格ボランティアと看護学部教員が無料で健康相談・健康チェックを実施。
※SCUまちの健康応援室/出張SCUまちの健康応援室等

大学名	青森県立保健大学
事例	健やか力(ヘルスリテラシー)向上プロジェクト

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	県健康福祉部と情報交換を定期的に行い、保健医療福祉に関連する教員、大学院生らの研究成果を地域の保健医療福祉政策に還元すると共に、政策に貢献する研究開発に取り組んでいる。
Enhance	
Assure 地域のいのちを守る	地域が抱える健康に関する課題解決のために、県の政策課題をリンクさせ、県民のヘルスリテラシー向上だけでなく、人材育成(学部カリキュラム改定)、研究(大学院の再構成と研究推進)、社会貢献(地域におけるヘルスリテラシー向上活動支援)に取り組んでいる。
Develop	



大学名	青森公立大学
事例	産学官連携による地域貢献産業交流事業

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link	
Enhance	
Assure	
Develop 地域の可能性を開発する	大学自らが「地域社会の諸問題」について積極的に情報を収集し、地域社会の現状と未来に対して、地域と共に考え、行動し、地元産業のための新しい価値を創造・開発している。

産学官連携による地域貢献産業交流事業

【本学の理念】地域に開かれた大学として、地域の発展に貢献
【本学の教育目標】経営経済の専門性を備えた教養人の育成

地域貢献 4つの柱

教 育

- ◆ 地域志向のフィールドワークの全学的取組
- ◆ 地域社会の幅広い年齢層や職業の方々の学びへの貢献

研 究

- ◆ 地域プロジェクトとしての研究推進
- ◆ 広域的な地域研究の拠点及び市民・企業・行政との共同研究の場

コンサルテーション

- ◆ 学生のアイデアをまちおこしに
- ◆ 地域の諸活動への情報提供

インキュベーション

- ◆ 地域社会における新しい活力・事業・活動の誕生に支援・協力

青森まるっとよいどころ祭り

場所: 新町通り商店街
2016年度来場者: 10,000人(新町商店街発表)

2014年度から開催している県内の産品を取り扱う物産展。開催に際して、本学と連携協定を結んでいる自治体を初めその他の県内自治体からも出展。香取薫研究室の学生が中心となり企画・運営を実施。
新町商店街と連携し、同商店街が主催するハロウィンパレード&セール等と同時開催することにより集客力の向上を図っている。

<参加自治体・団体>
青森市、鱒ヶ沢町、今別町、おいらせ町、風間浦村、佐井村、七戸町、外ヶ浜町、田子町、南部町、西目屋村、公立はこだて未来大学

大学名	岩手県立大学
事例	ふるさといわて創造プロジェクト

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	自治体の協力のもと、初年次から地域で学び、将来、地域を担う若者(学生)を育成することで、大学、自治体、地域住民の連携を深め、地域の価値をつないでいる。
Enhance 地域の財産を発展させる	産学官が連携することで、震災復興などの地域課題に向き合い、観光や産業などの地域資源を活用して課題解決に取組み、地域にある価値の発展に寄与する。
Assure 地域のいのちを守る	総合大学の特色を生かし、多分野が共同して教育研究を行うことで、地域の健康や福祉サービスの向上など、地域の看護や福祉の充実を実現する。
Develop 地域の可能性を開発する	高度な ICT 技術など、多彩な分野の研究を融合させて地域産業を活性化し、地域の可能性を展開させる。



大学名	宮城大学
事例	自治体との協働による被災地域の復興・再生・発展を担う人材育成プログラム

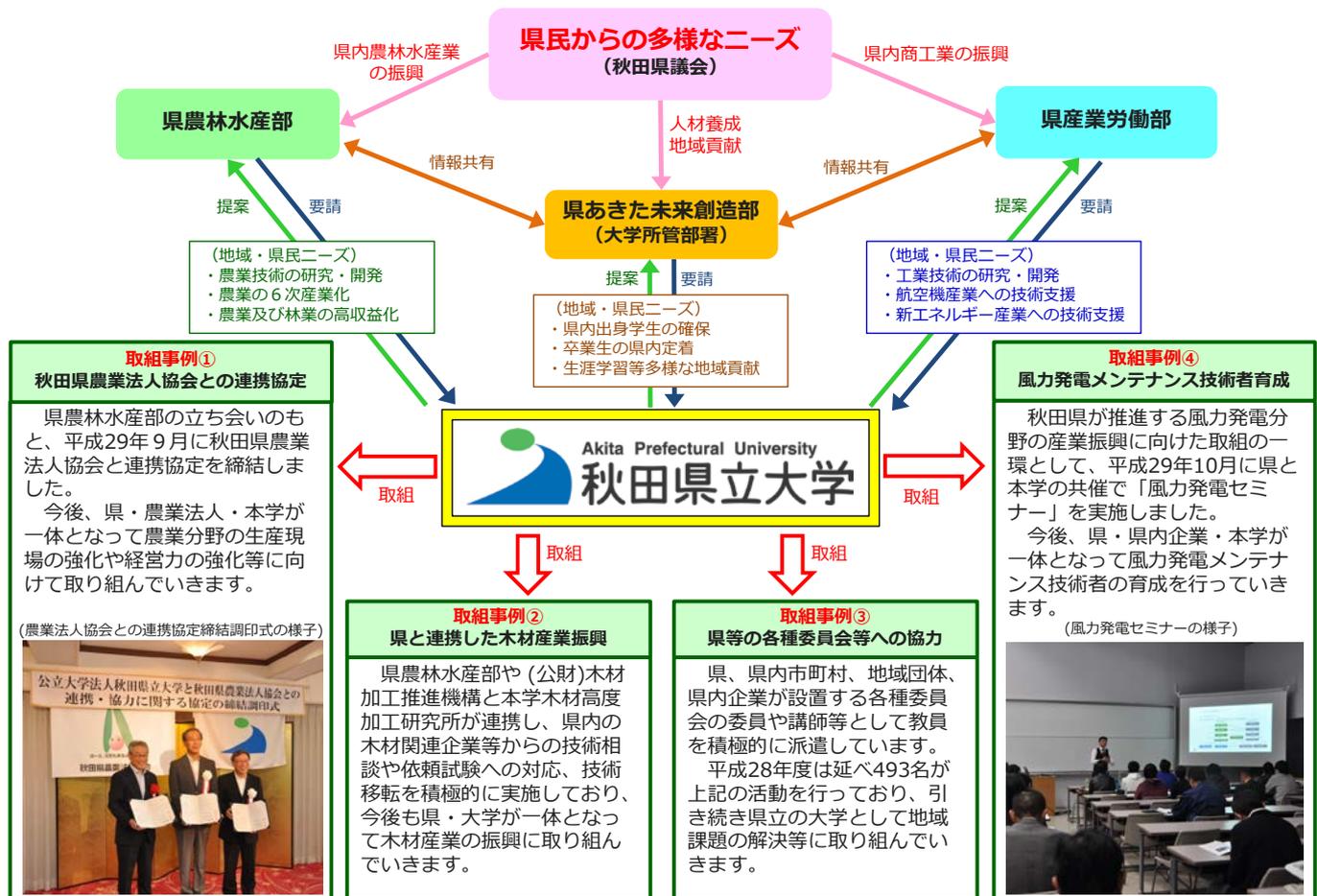
「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	県内自治体や被災経験のある他地域の大学と協働でのプログラムを開発・構築するなど、被災地域の復興・再生・発展を担う人材の供給のために関係諸機関と連携している。
Enhance	
Assure 地域のいのちを守る	被災地の公立大学として、地域コミュニティの復興・再生とそれを担う人材育成に取り組んでいる。
Develop	



大学名	秋田県立大学
事例	秋田県との連携による「地域の持続的発展」への貢献

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	大学の持つコーディネート機能とシンクタンク機能を発揮し、地域の持続的発展を推進するために自治体・企業・団体・高等教育機関が一体となるための役割を担う。
Enhance 地域の財産を発展させる	秋田杉を用いた新たな木質部材の開発とその利活用方法の研究など、地域の財産に新たな価値を生み出し、本県の林業・木材加工業の振興に寄与する。
Assure	
Develop 地域の可能性を開発する	工学・農学の両分野において地域特性を踏まえた研究・開発を推進するとともに、研究成果の地域の企業等への積極的な技術移転を図るなど、地域産業の振興を図る。

秋田県との連携による「地域の持続的発展」への貢献



大学名	国際教養大学
事例	国際教養大学ティーチャーズセミナー

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link	
Enhance 地域の財産を発展させる	地域の教育現場がこれまで培ってきた高い指導力を、更に英語・外国語活動教育にも活かすことができるよう、本学の「英語で英語を学ぶ」取組における独自のノウハウを還元し、支援している。
Assure	
Develop	

国際教養大学ティーチャーズセミナー

国際教養大学では、秋田県内外の小中高等学校の英語教員を対象に、ティーチャーズセミナーを開講しています。

セミナーでは、「英語で英語を教える」ことの原理的理解、実践的教授法、クラスマネジメントなどについてのワークショップを実施。

本学がこれまで培ってきた英語教育の実践的方法論を社会に還元し、初等・中等教育の現場でグローバル人材の育成を促進することを目的とした、リカレント（学びなおし）教育としての役割を担っています。

○小学校外国語活動教員研修事業

ティーチャーズセミナーの一環として、秋田県教育委員会と連携し、「小学校外国語活動教員研修」を開催しています。秋田県の小学校外国語活動のリーダー的教員を育成するため、夏季休業中の5日間、集中的に外国語活動の指導方法及び英語コミュニケーション能力（英語運用能力）の向上を図るための研修を実施し、秋田県の小学校における外国語活動の改善・充実に資することを目的としています。

・受講者：秋田県内の小学校（秋田市を除く）で、各市町村教育委員会が推薦する教員40名

・研修内容：

次の2タイプのワークショップを通して、外国語活動の指導方法及び英語コミュニケーションにおける不安を軽減し、積極的に英語を用いた指導を行うことができるようにする。また、外国語教育に関わる今後の国の動向についても触れる。

(1) 外国語活動の指導方法に関するワークショップ

(2) 英語コミュニケーション能力（英語運用能力）向上に関するワークショップ

・講師：国際教養大学教員、県教育委員会担当指導主事等

<ワークショップの一例>

- ・外国語不安概観
- ・英語と日本語の発想の違い
- ・授業打合せ及び運営に使う英語表現
- ・効果的なチームティーチング
- ・ネイティブ・スピーカー（本学留学生を活用）との模擬授業 等



大学名	秋田公立美術大学
事例	大学がある新屋地域における連携事業

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	地域で課題となっている空き家の捉え方を転換し、美大の視点から活用方策を見出すことで、新しい地域の価値を創出しようとしている。交通結節点である駅に、本を貰った人が本を寄付するという仕組みの図書館を設置し、地域の人と人とのつながりを生み出す試みを行っている。
Enhance 地域の財産を発展させる	年間数十万人が訪れる動物園と大学がコラボすることにより、動物園の価値を高めながら本学の取組を発信している。
Assure 地域のいのちを守る	空き家を改修することによって、地域住民と学生が交流する拠点が生まれ、高齢化が進む地域で新しい人的交流が生まれている。
Develop	

大学がある新屋地域における連携事業

芸術を通じた多様な取組により、本学の特性をいかした地域団体や企業との連携を深めている。

大森山動物園との連携事業「大森山 Arts&Zoo 2017」

大森山動物園をギャラリーに見立て、秋田公立美術大学の学生が動物をモチーフとしたアート作品を制作・展示する。



JR東日本秋田支社と連携した「新屋駅の小さな図書館」

大学近くの駅舎に図書スペースを配置することで人の交流を生み出し、新屋地域の活性化につなげる。



新屋地域の空き家レジデンス化事業

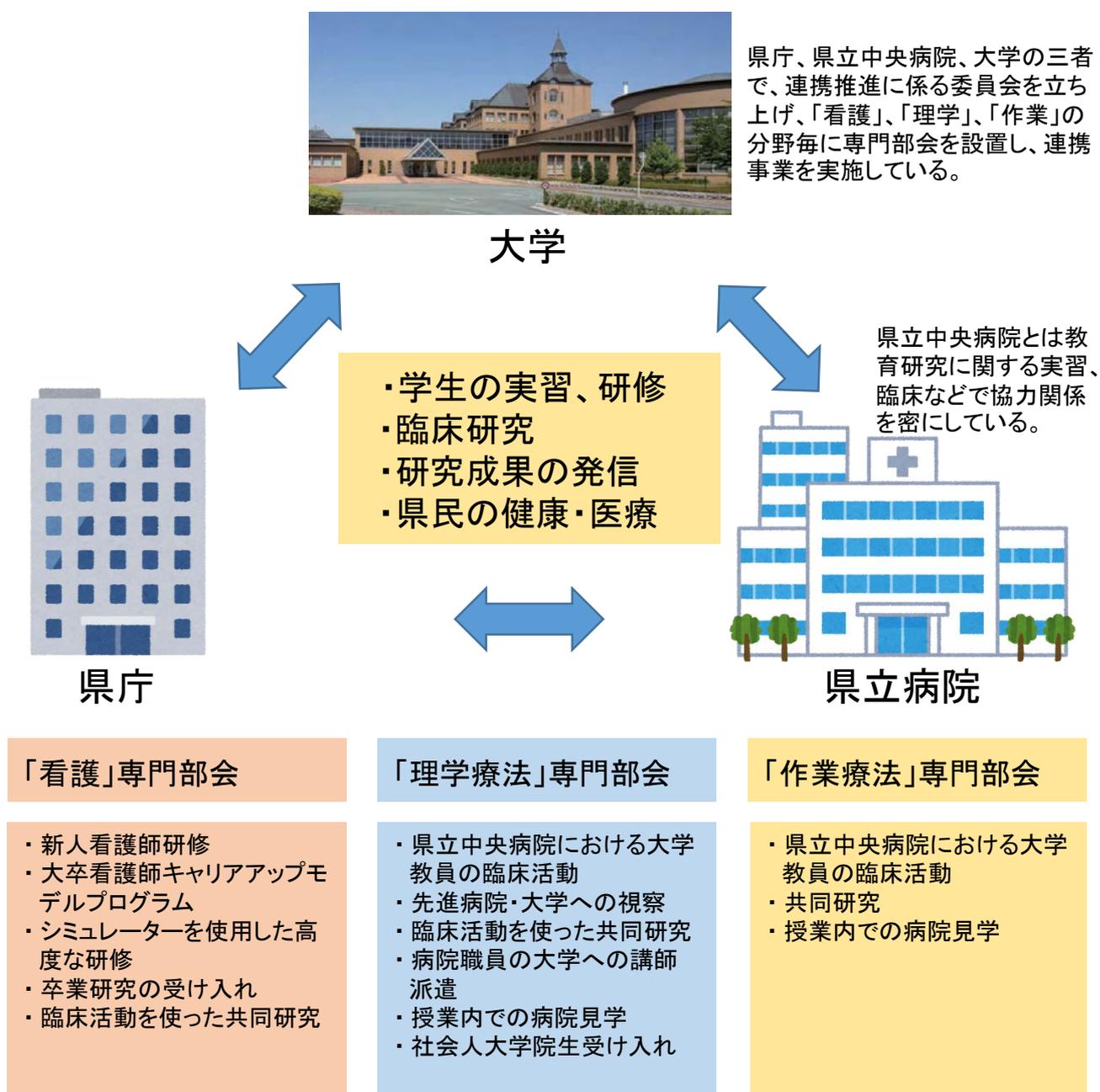
地域的な課題となっている空き家を美大の視点でレジデンス施設や展示施設に改修して活用している。



大学名	山形県立保健医療大学
事例	県立病院との連携

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	大学がこれまでに蓄積してきた看護やリハビリテーションに関する研究成果を具体的に地域に還元するために、自治体、県立病院との連携を深めている。
Enhance 地域の財産を発展させる	大学の人的資源や設備などを地域で活用し、地域が持っているポテンシャルを上げるために貢献している。
Assure 地域のいのちを守る	大学の人的資源や設備などを地域で活用し、地域住民の健康維持・促進のために貢献している。
Develop	

山形県立中央病院との連携プログラム



大学名	山形県立米沢栄養大学
事例	減塩プロジェクト事業

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	市町村や事業所等で、「健康プログラム」に関する成果発表会を開催し、減塩啓発やプログラムを活用した健康教室の実施を呼びかけるなど、地域の諸機関と連携を深める。
Enhance	
Assure 地域のいのちを守る	「健康的な食事」を選択できる食環境の整備を行うべく、減塩に関する情報提供や、「やまがた健康食」見本献立の開発とイベントでの適塩の啓発を行っている。また、スーパーマーケットと連携した適塩弁当や総菜の商品化、栄養表示等、減塩を選択できる環境整備の推進により、県民の健康を守る働きを進める。
Develop 地域の可能性を開発する	働きざかり世代(40歳代)を対象とした事業所でのモデル事業を実施し、減塩効果の高い「健康プログラム」を開発する。

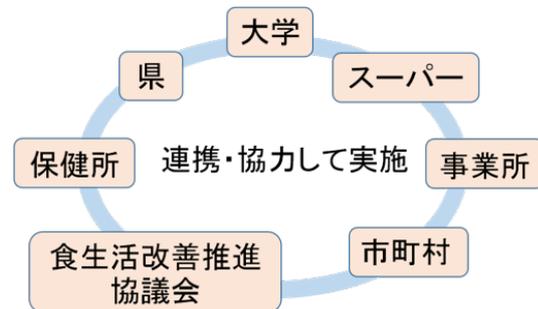
減塩プロジェクト事業

山形県は、

- ① 脳卒中の大きな要因となる高血圧の患者数が多い
 - ② 減塩への関心が低い
 - ③ 食塩摂取量が高い
 - ④ 減塩するための情報提供や環境作りが不十分
 - ⑤ 外食、惣菜、弁当の利用頻度の高い人は減塩が難しい
- これらの問題を、本学と山形県が連携協力して各種事業を実施。

『健康プログラム』の開発と普及啓発

- ・ 働きざかり世代(40歳代)を対象とした事業所でのモデル事業を実施し、減塩効果の高い「健康プログラム」を開発
- ・ 市町村、事業所等に「健康プログラム」の成果発表会を開催し、減塩啓発やプログラムを活用した健康教室の実施の呼びかけ



『健康的な食事』を選択できる食環境整備

- ・ ホームページによる事業のPR、減塩の情報提供
- ・ 「やまがた健康食」見本献立の開発とイベント
- ・ スーパーマーケットと連携した、適塩弁当や総菜の商品化や、栄養表示等、減塩を選択できる環境の整備を推進



「山形適塩弁当」と「おいしい適塩惣菜」

～山形県内のスーパーとのお弁当開発～

- ・ 外食、惣菜、弁当を高頻度で利用する人に、減塩するための情報提供や食環境づくりの一環として、『適塩弁当』、『適塩惣菜』の開発に取り組む
 - おいしい減塩(適塩)弁当(食塩相当量3g未満)
 - 山形県ならではの新鮮な香味野菜を使用する
 - 塩分、エネルギー控えめなのにボリュームがあるもの
 - 野菜は1日分の1/3以上(120g以上)を使用
 - 春、夏、秋、冬と季節感のある4種類の献立
 - 減塩なのにもっとおいしい」をテーマに

大学名	福島県立医科大学
事例	ふくしま国際医療科学センター ～福島復興を健康の面から支える～

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link	
Enhance 地域の財産を発展させる	医産連携を推進して医薬品の開発支援を多面的に行うことで、医療産業や雇用の創出、地域復興につなげる。
Assure 地域のいのちを守る	原発事故後の県民の健康を長期にわたり見守ること、最先端医療機器による病気の超早期発見と高度専門的な治療の提供を行うことで、病気の予防と県民の健康増進、更には健康寿命を延伸することをめざしている。
Develop	

福島復興を健康の面から支える

先端臨床研究センター
国内で初めて導入したPET/MRIや中型サイクロトロンを駆使して、早期治療や新薬開発に貢献する。

医療・産業トランスレーショナルリサーチセンター
医産連携を推進し医薬品の開発支援を多面的に行うことで、産業と雇用の創出、地域復興をめざす。



放射線医学県民健康管理センター
原発事故後の県民のこことからだの健康状態を長期的に把握し支援する。

健康増進センター
科学的根拠に基づき、健診や介護等のデータの評価・分析を行い、効果的な健康増進活動の企画・推進を行う。

教育・人材育成部門
災害、緊急被ばく医療、地域医療に資する次世代の医療人を育成する。

先端診療部門
「こども医療センター」「災害医療・高度救命救急センター」等を設置し、先端医療技術・機器を活用した各疾病の早期診断・早期治療を提供する。

甲状腺・内分泌センター
外科、内科、泌尿器科、脳外科の四つの診療科の総合窓口として、甲状腺内分泌系疾患の患者さんに最適な治療を提供する。

ふたば医療支援
双葉地域の二次救急の確保と総合医療支援を行い、住民の安全安心の取組みを推進する。

大学名	会津大学
事例	イノベーション・コースト構想の実現と東日本大震災・原発事故からの福島県の復興・再生への貢献

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link	
Enhance	
Assure	
Develop 地域の可能性を開発する	ICT 専門の大学としての強みを活かしたロボット開発の技術支援を行うことにより、会津 IT パレーと浜通りロボットバレーの連携によるイノベーション・コースト構想の実現に貢献するとともに、東日本大震災・原発事故からの福島県の復興・再生に寄与している。

ソフトウェアによる付加価値 Robot Dev't

-  大型災害対応ロボット「援竜」 Large-Sized Outdoor Disaster Response "ENRYU"
-  小型電動災害対応ロボット「スパイダー」 Small-Sized Indoor Disaster Response Robot: "Spider"
-  鳥瞰視点カメラロボット「ドローン」 Drone
-  「ドロネット (Dronet)」 (有線) Drone with cable
-  虫瞰視点カメラロボット「ゴロン」 GORON Worm's-Eye View Robot
-  知的画像処理、クラウドロボット2DCDP, Video Slice Method, Cloud ...
-  研修用教材・ロボット Kobuki, EV3, ... Training

ロボットソフトウェアの標準化 Robot SW

ロボットソフトウェアライブラリ「RTCライブラリふくしま」 Robot Software Library:

ソフトウェア Robot SW

再利用・高品質 Reuse/ Quality
産総研OpenRTM-aistによる標準化

会津大学 先端ICTロボ LICTiA

ロボットテストフィールド Robot test field

県内企業等 company

研究機関等 research labo.

大学・高専等 university

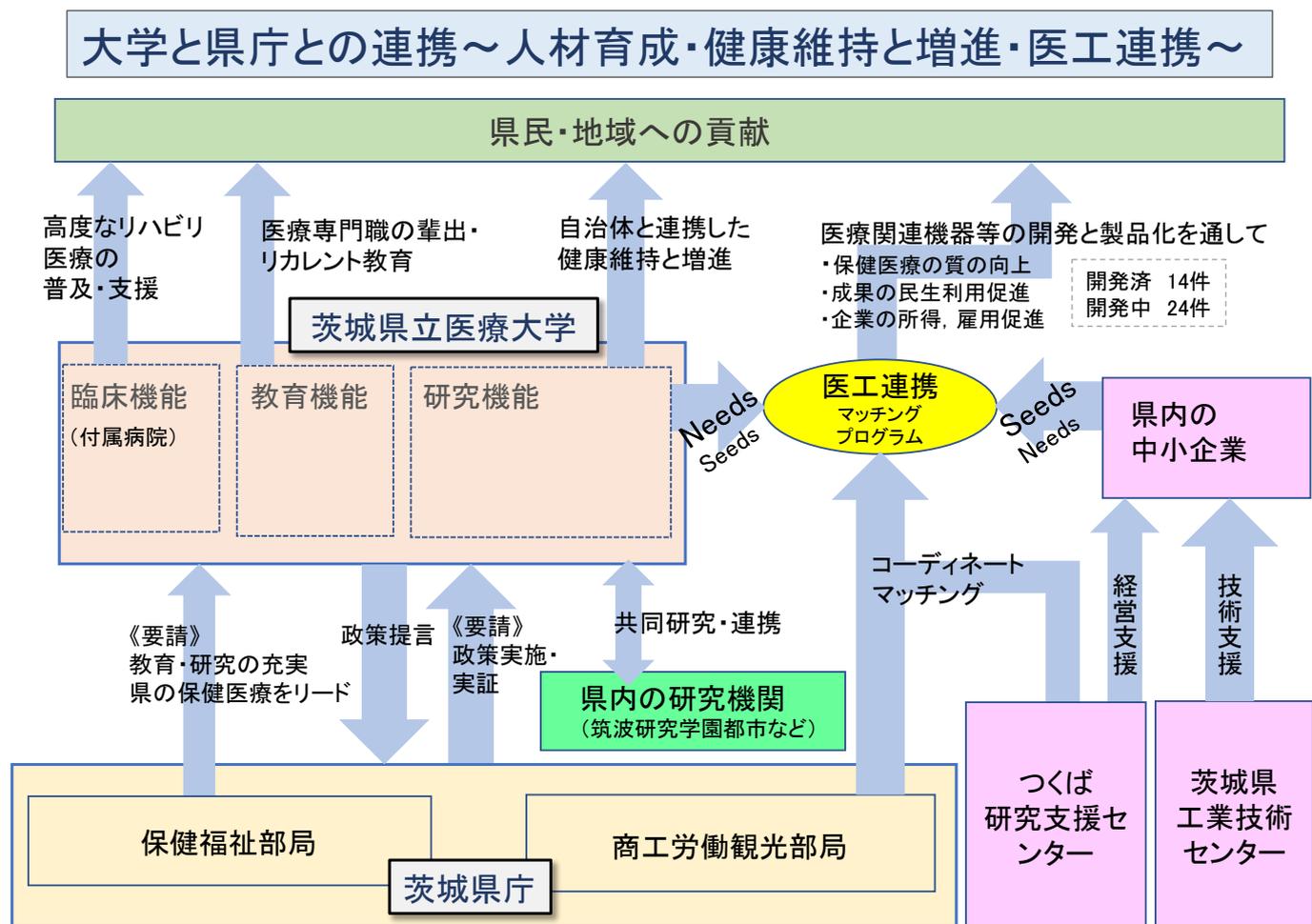
イノベーションコースト 浜通りと会津の連携 Collabo w/ Coast area

ソフトウェア部品 (Robot Technology Component RTC)

駆動系 move	制御系 control	センサー系 sensor	操作系 operation	シミュレータ simulator
無線通信系 wireless	有線通信系 cable	画像処理 image	表示系 display	クラウド cloud

大学名	茨城県立医療大学
事例	大学と県庁との連携～人材育成・健康維持と増進・医工連携～

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	県民の保健医療に貢献するため、自治体や他大学、研究機関との連携を図り、調査・研究・開発を通して双方が持つ価値をつなげている。
Enhance 地域の財産を発展させる	大学と地域産業との医工連携によって医療サービス向上に資する製品開発を行い、地域の保健行政を先導して、地域のポテンシャルアップに貢献する。
Assure 地域のいのちを守る	大学に期待されている基盤的機能として、地域のニーズに対応できる医療人材を育成し、さらに付属病院で地域密着型医療を展開することで、地域住民の保健医療の充実に貢献する。
Develop 地域の可能性を開発する	健康維持・増進活動や地域リハビリテーションなどを通して、保健医療の面から地域の発展を支援するとともに、県庁各部局との連携を強化し、保健医療政策に関する「シンクタンク」機能を果たすことにより、地域に必要な新しいシステムを開発する。

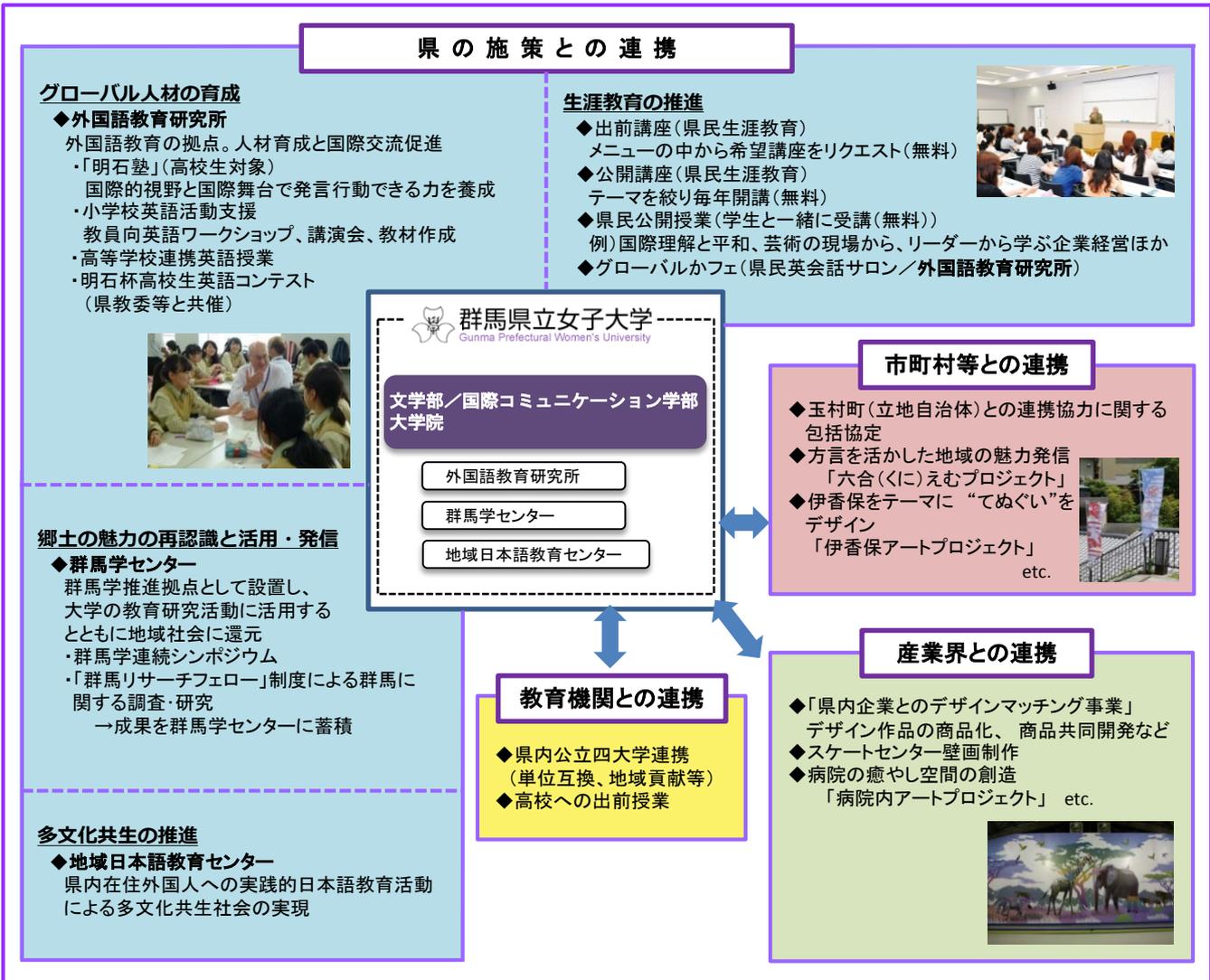


大学名	群馬県立女子大学
事例	地域における多様な人づくり・群馬の魅力発信

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	多様な価値観を認め合う多文化共生への取組みや、郷土に関する調査・研究成果の地域還元により、地域の価値を共有する働きを果たしている。
Enhance 地域の財産を発展させる	郷土の文化・風土等を多角的・総合的に見つめ直し、その成果を発信している。
Assure	
Develop 地域の可能性を開発する	グローバル人材の育成や日本語教育、生涯教育の推進等により、地域の活力を生み出す多様な「人づくり」に貢献している。

～地域における多様な人づくり・群馬の魅力発信～ (設置団体:群馬県)

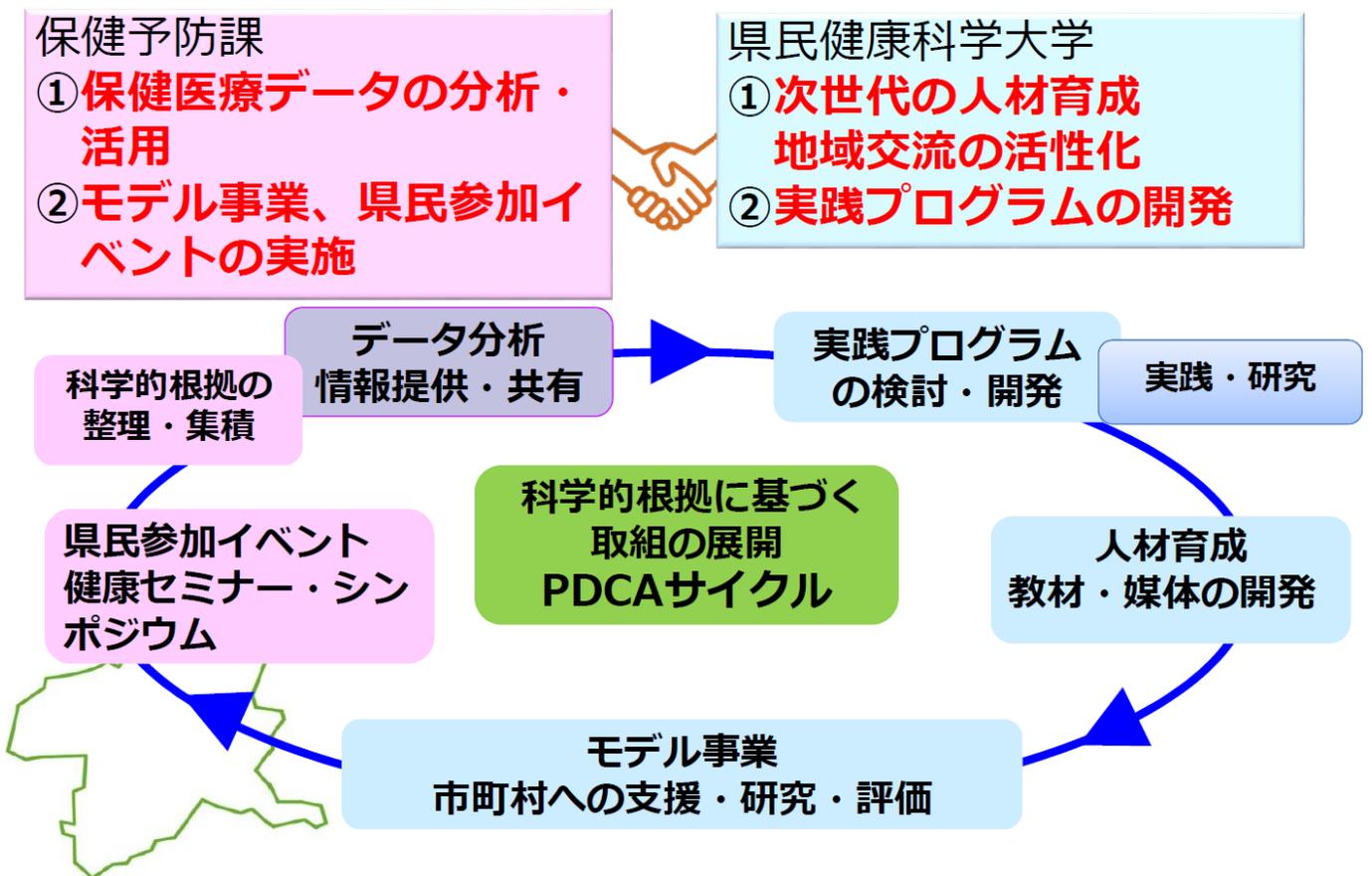
- 本学設置者である群馬県の行政施策との連携
- 市町村・産業界・教育機関との連携による地域課題解決への貢献



大学名	群馬県立県民健康科学大学
事例	健康寿命延伸プロジェクト

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link	
Enhance	
Assure 地域のいのちを守る	保健医療系大学としての知識や研究能力を活かして、県、市町村が持つ保健医療のデータを分析・活用し、科学的根拠に基づいた実践プログラムの開発、人材育成や、市町村への支援等を行うことを通して、県民の健康寿命の延伸を実現する。
Develop	

「健康寿命延伸プロジェクト」



大学名	高崎経済大学
事例	コミュニティカフェ「cafe あすなろ」の運営

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	かつて「市民の文化の拠点」として親しまれた名曲喫茶「あすなろ」を、高崎経済大学の学生により復活させ、コミュニティカフェとして運営することで、地域の拠点としての役割を果たしている。
Enhance 地域の財産を発展させる	学生が積極的に地域に溶け込み、「cafe あすなろ」を、「地域交流活動の場」、「文化活動支援の場」、「情報発信の場」として発展させ、地域の財産としての価値を高めている。
Assure	
Develop 地域の可能性を開発する	学生が自ら考え、経営することの難しさや地域社会とのかかわり方などを学ぶ「学生の実社会体験の場」を創り出している。

そのきつかけを
あすなろで

名曲喫茶「あすなろ」の誕生

1957年、「郷土を美しい詩と音楽で飾ろう」という理念のもと誕生したあすなろでは、群馬交響楽団の演奏会や詩の朗読会などが開催され、市民の文化拠点として親しまれていましたが、高度経済成長の潮流と社会環境の変化などから、惜しまれつつも1982年に25年間の幕を下ろしたのです。

高崎市と大学、そして学生の手による復活へ

時代のうつろいとともにあすなろの復活を望む声は大きくなっていきました。そして、その声に応え、高崎市が大学にその運営を依頼し、NPO法人の立ち上げという形で、2013年、ついにコミュニティカフェ「cafe あすなろ」が復活したのです。

Management of the students

「cafe あすなろ」での活動のすべてが、社会に出て役に立つ実践的な勉強であると考えています。ここでの活動を通じて、大きく成長していきたいと願っています。

多様性を認識し、コミュニケーションのできる学生
経済に通じ、地域を見る目をもって国の内外において活躍できる学生

「cafe あすなろ」は学生が中心となって運営していますが、その運営資金は、高崎市及び大学からの支援となっています。

Management by the students

高崎市
支援、サポート

高崎経済大学
まちなか教育活動センター
運営委員会
(教職員、NPO役員、
学生代表)

運営会議
(職員、店長副店長、
学生代表)

企画班
イベント企画
イベント運営

経営班
メニュー開発
売り上げ分析

広報班
記録、発信
広報活動

Management for everyone

わたしたち学生は、高崎市や地域の方がたに勉強の場を提供いただいています。その思いに応えるため、積極的に地域に溶け込み地域の活性化に貢献したいと考えています。

市民団体等への施設貸出
文化発信拠点としての充実

地域イベントへの参加協力

cafe あすなろ

自主イベントの開催

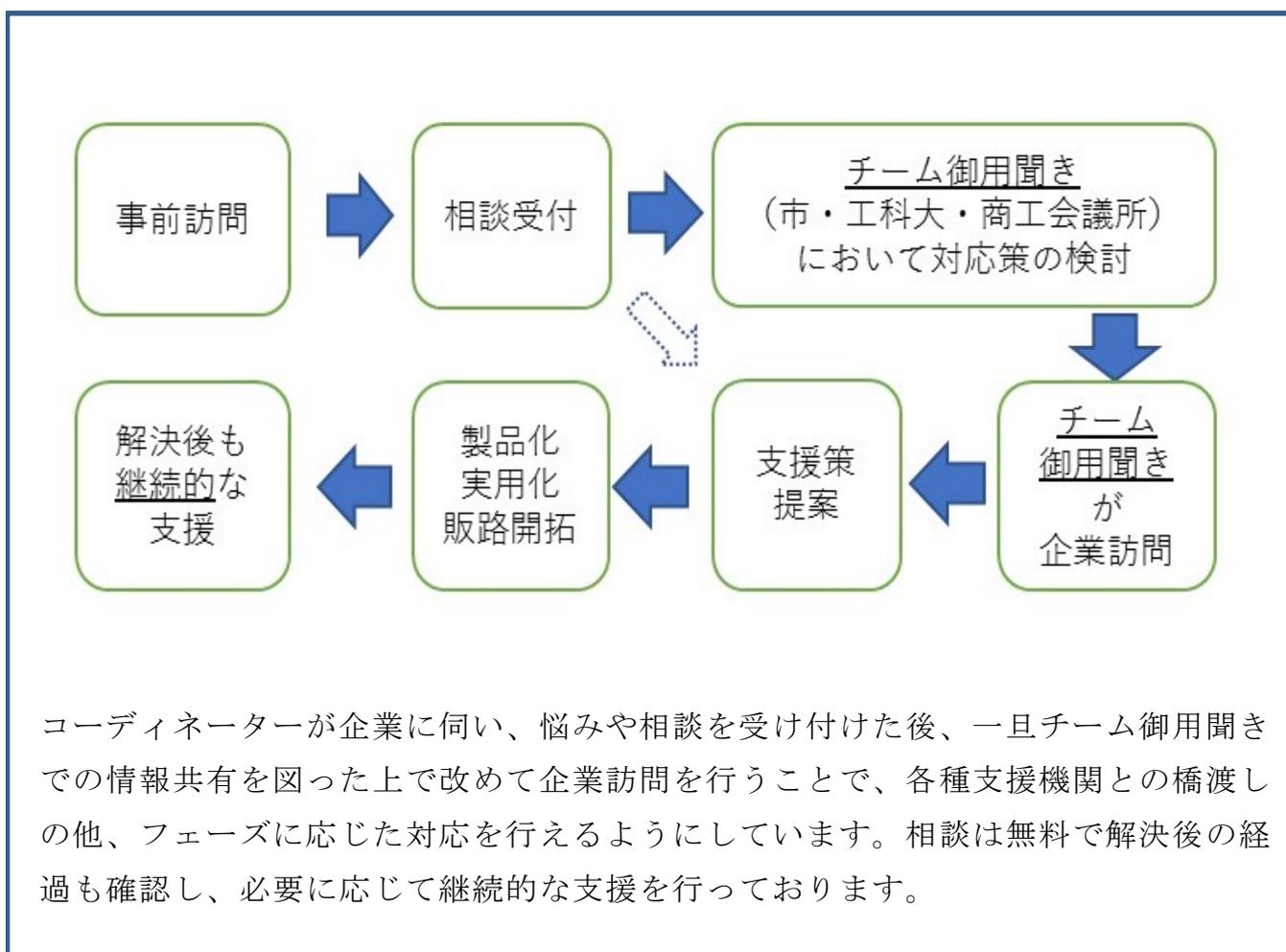
学生の成果発表の「場」

高崎市の活性化のために

大学名	前橋工科大学
事例	『御用聞き型』企業訪問

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link	
Enhance 地域の財産を発展させる	市内企業が抱える問題を解決するための提案を行い、また、問題解決後も継続的に支援していくことで、地域の発展を目指す。
Assure	
Develop 地域の可能性を開発する	市内企業の相談に対して、各支援機関と連携することで、前橋の新たな芽を発掘・創出する。

『御用聞き型』企業訪問



大学名	埼玉県立大学
事例	彩の国大学連携による住民の暮らしを支える連携力の高い専門職育成

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	専門職同士、また専門職と地域住民との「連携」の必要性やその価値を埼玉県内に広めている。
Enhance	
Assure 地域のいのちを守る	本学を含めた4大学と設置自治体が連携し、教育研究成果を生かして政策の推進を支援することで、地域住民のよりよい暮らしに貢献している。
Develop 地域の可能性を開発する	複数大学と県との協働による科目開発・社会貢献活動を行うことにより、高等教育機関同士の連携による地域の発展を促している。

取組名称：彩の国大学連携による住民の暮らしを支える連携力の高い専門職育成
取組大学：埼玉県立大学、埼玉医科大学、城西大学、日本工業大学

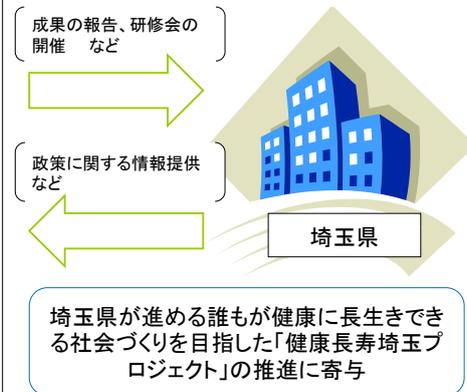
- 背景**： 少子高齢化、孤立死などの社会問題の顕在化、在宅医療・介護の推進。
- 事業の基本理念**： 4大学共通で育成する人材を通じ、地域住民の質の高い暮らしを実現。
- 育成する人材像**： 他分野と連携し、課題発見、解決方法を考えることができる人材。



連携大学の学部(学科)構成

埼玉県立大学 保健医療福祉学部(看護学科、理学療法学科、作業療法学科、社会福祉子ども学科、健康開発学科)
 埼玉医科大学 医学部(医学科)
 城西大学 薬学部(薬学科、医療栄養学科、薬科学科)
 日本工業大学 工学部(機械工学科、ものづくり環境学科、創造システム工学科、電気電子工学科、情報工学科、建築学科、生活環境デザイン学科)

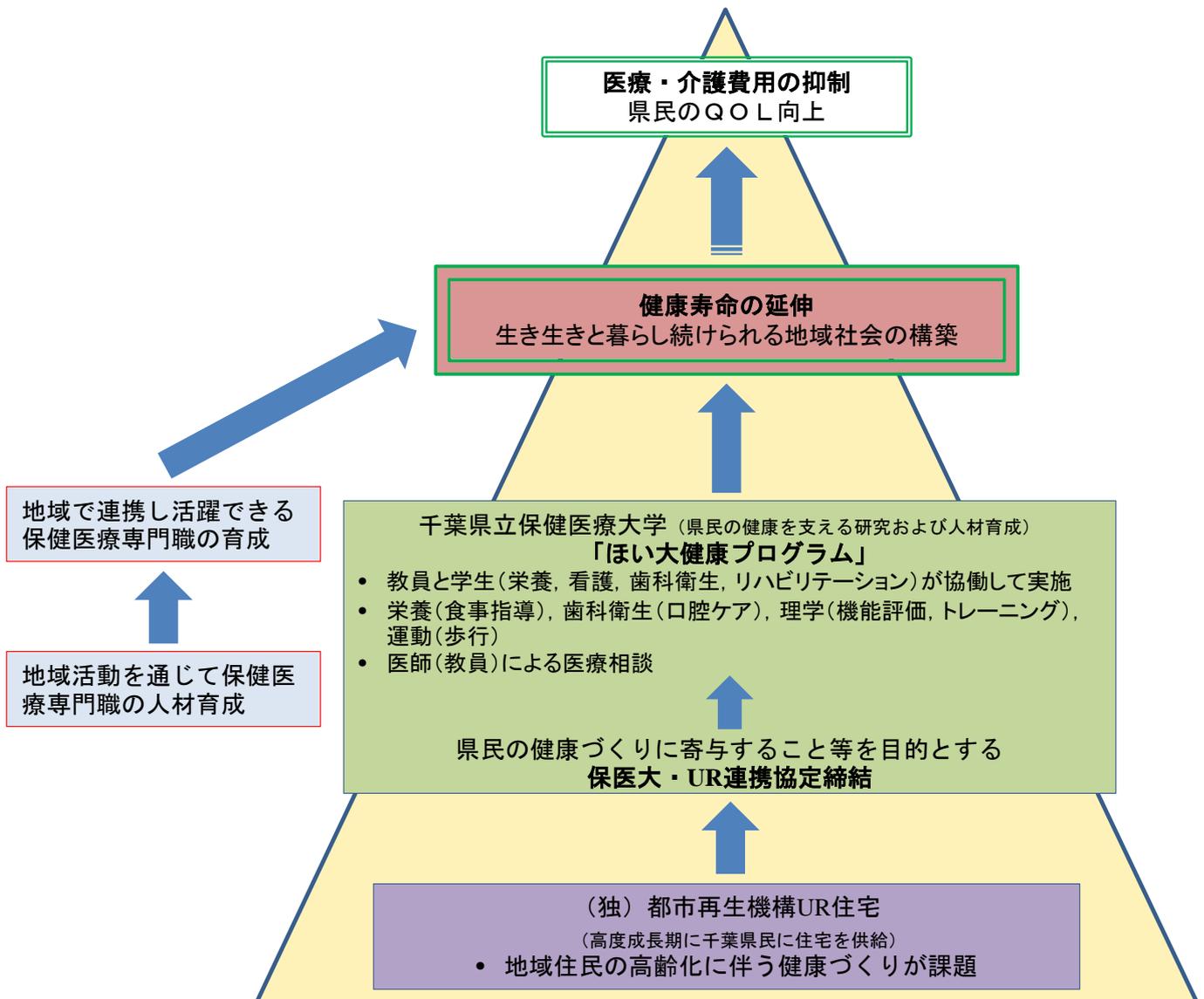
4大学の学生が共に学ぶ連携科目の共同開発・共同開講	埼玉県立大学が実施しているIPW実習に、埼玉医科大学や城西大学、日本工業大学の学生が参加するなど、連携科目の共同開発・共同開講を実施しています。 ※IPW実習とは、学科横断的に学生がチームを組み、病院等の現場で、職員や患者等の協力による実習を通じ、最適なケアについて学生が考える埼玉県立大学の全学生必修科目です。
学生の主体的な学習機会の創出	4大学の学生が相互に学びあえるようなプログラムを創り、主体的学習を支援しています。
教育や地域に還元する学際的共同研究の実施	連携力育成教育プログラムの効果検証を目的とした卒業生調査等を実施するための体制を4大学で整備しています。
地域の専門職や他大学など社会への還元	教育研究の成果を生かし、地域の専門職の連携力向上に関する研修会の開催などを実施し、地域に還元しています。また、保健医療福祉系の大学と工業系の大学という先進的な連携事例を他大学等へ広報しています。



大学名	千葉県立保健医療大学
事例	高齢者を対象とした地域のための健康づくりモデルプログラム

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link	
Enhance	
Assure 地域のいのちを守る	学生が地域の活動に参加することで、地域の健康づくりのプロとしての育成を行うと共に、大学の持つ健康づくりに関する力を地域の健康づくりに活用している。
Develop 地域の可能性を開発する	高齢者の健康づくりに寄与する調査・研究成果に基づいて、自治体の保健医療政策策定に協力し、地域の健康づくりに役立つ製品の提案と作成支援を行っている。

高齢者を対象とした地域のための健康づくりモデルプログラム



大学名	産業技術大学院大学
事例	首都東京に根差し世界に発信する専門職大学院大学の取組

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	アジアの産業発展を担う大学間ネットワーク「APEN(Asia Professional Education Network)」の設立や、APEN を活用した「オンリーワン中小企業ミッション」による中小企業の海外進出支援、高度専門職人材を育成する大学院大学としての教育ノウハウを生かした勉強会「マンスリーフォーラム」の開催による交流の場の提供など、東京都や近隣地域だけでなく、アジア各国とも交流の輪を広げている。
Enhance 地域の財産を発展させる	東京都との連携事業「東京の中小企業の現状」による都内中小企業の特徴ある取組の紹介や、近隣自治体等との連携による講座の提供、地域信用金庫との連携による女性のキャリア再開のための奨学金の創設など、地域の要請に応える取組を実施している。
Assure	
Develop 地域の可能性を開発する	国内外の中小企業が海外進出する際の一指標となる中小企業信頼性指数(CIS:Credibility Index for SMEs)の開発や、東京都との連携事業「東京の中小企業の現状」による中小企業分析など、東京都や近隣地域のみならず、アジアの産業振興にも寄与している。

首都東京に根差し世界に発信する専門職大学院大学の取組



社会人リカレント教育の推進による地域産業界への貢献

マンスリーフォーラム

- 学内外の方が自由に参加できる勉強会・交流会
- 本学が専門とするICT分野、ものづくり・デザイン分野の最新のトピックスや関心の高いテーマを取り上げる。
- 企業で活躍されている方や専門家の方を講師として招聘



マンスリーフォーラムの様子

<平成28年度実績>

概要	実績
InfoTalk ○ ICT分野における最先端の技術や活用等を題材として開催 【テーマ例】 「ビッグデータ・IoT時代のバイオメトリクスにおけるプライバシー保護」「人工知能(AI)技術の進展に伴う産業・社会動向」	平成28年度：全12回 参加者総数：468名
AIITイノベーションデザインフォーラム ○ ものづくり・デザイン分野に関連した最新の事例等を題材として開催 【テーマ例】 ・「生活インタフェースとリビングラボ」 ・「バーチャルリアリティと身体の未来」	平成28年度：全6回 参加者総数：351名

高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム (文科省補助事業 ～平成29年3月)



プログラムイメージ

- 事業アーキテクトコースを新設し、「戦略+技術」を学ぶ専攻横断型の教育プログラムを提供
- 成長分野(観光・医療・物販等)で、IT・マネージメントを活用し、生産性、付加価値を高めるための事業の起業・開発・改革・再生・新陳代謝を促進する。

➔ 修了生の内、3名が実際に起業もしくは新規事業を立上げ

文部科学省 研究拠点形成費等補助金事業 enPIT

産学協働の実践教育ネットワークを形成し、PBL等の実践的な教育を推進・普及することにより、高度な情報技術人材の育成し、産業界に輩出。

<平成28年度参加者数>

区分	産技大	琉球大	社会人		合計
			産技大関係	一般	
スクラムによるWebアプリケーション開発	10	6	8	11	35

国際的な取組を通じた地域貢献

APEN (Asia Professional Education Network)

アジアの産業発展を担う高度専門職人材育成等のための大学、企業、団体を結ぶ教育プラットフォームとして設立されたネットワーク組織として2011年6月に設立



調印式(設立時)の様子

構成<正規会員> 理事 (13大学)

- 産業技術大学院大学 (日本)
- 上海交通大学 (中国)
- カンボジア工科大学 (カンボジア)
- タマサート大学 (タイ)
- ヤンゴン工科大学 (ミャンマー)
- ラオス国家大学 (ラオス)
- フルネイ・ダルサラーム大学 (ブルネイ・ダルサラーム)
- 浦項工科大学校 (韓国)
- ベトナム国家大学 (ベトナム)
- バンドン工科大学 (インドネシア)
- マレーシア工科大学 (マレーシア)
- グジャラート大学 (インド)
- テラサル大学 (フィリピン)
- 他 (理事以外20団体)

地域貢献に関する事業実績

■ **オンリーワン中小企業ミッション**

本学とアジア諸国とのネットワークを活用し、首都圏の製造・建設・IT・製薬・食品といった幅広い分野において“オンリーワン”の優れた技術や製品を誇る中小企業の積極的海外進出を支援

訪問国	ベトナム	カンボジア	ラオス	マレーシア	ミャンマー
実施期間	2011年12月	2013年1月	2014年3月	2015年3月	2016年3月
参加企業/参加者数	10社・3団体/19名	12社/15名	15社/22名	11社/12名	5(6)社/5名

■ **JAIFプロジェクト (Japan-Asean Integration Fund : 日ASEAN統合基金)**

- 中小企業信頼性指数 (CIS : Credibility Index for SMEs) の開発
- 中小企業の信頼性を図る物差しとなる信頼性指数を開発
- 海外中小企業の信頼性を定量化することにより、国内中小企業の海外進出時の1つの指標となる。

自治体等との連携

東京の中小企業の現状 (東京都との連携事業)

- 東京都産業労働局商工部が平成18年度から実施しており、都内中小企業の人材・事業戦略及び経営方針・戦略策定の一助となるよう、経営実態や経営課題を明らかにするため、持続的・発展的な経営に向けて取り組んできた企業の現状を分析・公表
- 平成22～24年度分について、東京都から受託。
- 平成25年度以降、調査分析に係る専門有識者として本学教員を派遣



区民・市民向け公開講座

- 近隣自治体(品川区、大田区)、三鷹市と連携した公開講座の提供

<平成28年度実績>

連携先	講座名	テーマ等	のべ参加者数
品川区	しながわ学びの社	人工知能時代に人らしく生きる。クリエイティブに生きる。学ぶ。	25
品川区	品川区連携セミナー	シナリオプランニングによるロードマップ作成 他	48
大田区	おおた区民大学	「モノづくり」こそ、未来を拓く!	46
三鷹市	三鷹ネットワーク大学	クリエイティブな学び～人工知能時代を人らしく生きる。～	36

地域信用金庫を通じた地域貢献

金融機関との連携

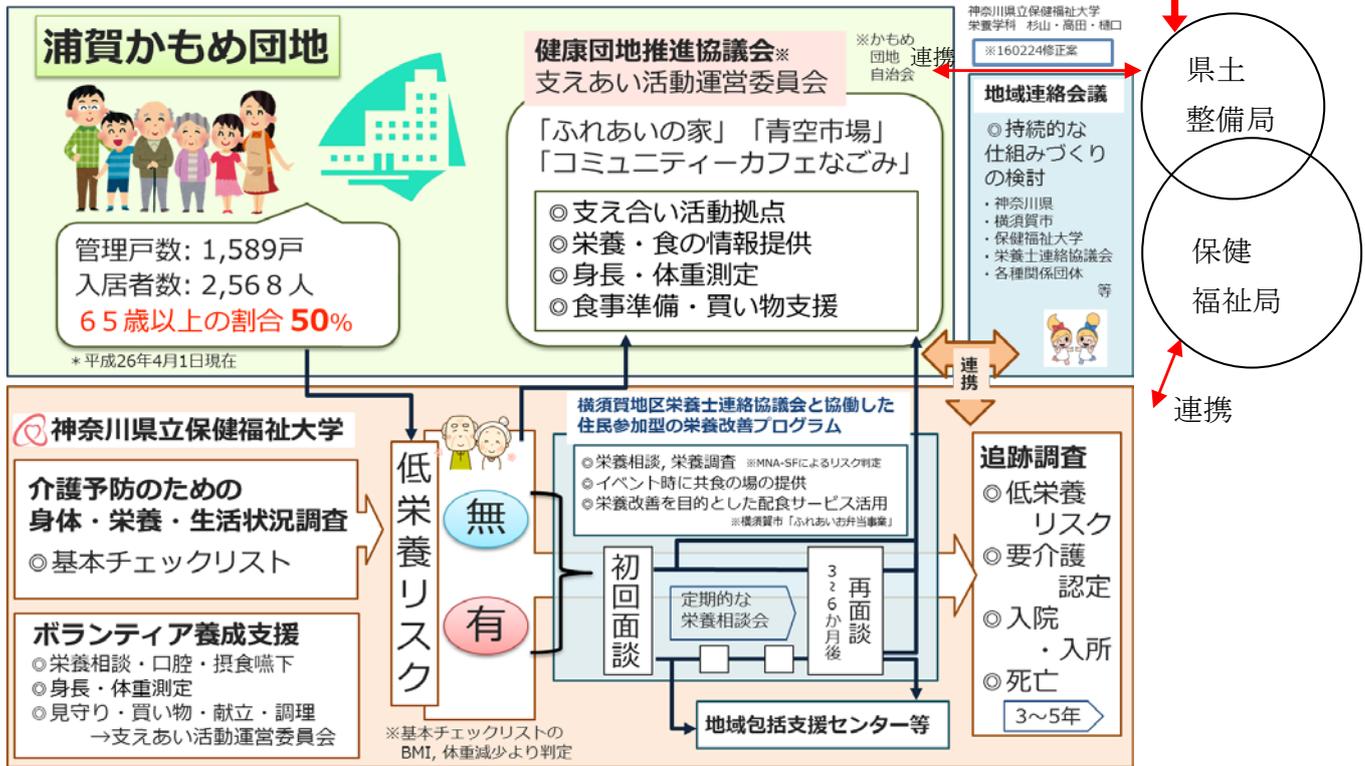
- 城南信用金庫・さわやか信用金庫との協定締結
- ➔ さわやか信用金庫からの寄附による奨学金「さわやか信用金庫就学奨励金」を創設
- 金融機関主催イベントへ出席
 - ビジネスフェアへの参画(さわやか信用金庫)
 - よい仕事おこしフェアへの参画(城南信用金庫)

大学名	神奈川県立保健福祉大学
事例	健康団地未病(低栄養)対策事業

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	大学が学生とともに地域の専門職、自治会、県等の関係機関をつなげる核となることで、地域全体の活性化を図る。
Enhance	
Assure 地域のいのちを守る	地域の専門職、自治会、県等の関係機関と連携し、大学の専門性を活用した栄養調査・栄養相談等を実施することで、県営団地に居住する地域高齢者の栄養状態の改善を図る。
Develop	

神奈川県県営団地再生計画

<健康団地未病（低栄養）対策事業>



大学名	横浜市立大学
事例	横浜市内医療機関における化学療法で治療を行うがん患者の実態把握

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link	
Enhance	
Assure 地域のいのちを守る	救急需要の予測は救急体制構築のために極めて重要な課題である。 設置自治体である横浜市と協力して消防局に蓄積された救急出場データを大学が統計解析し、将来の救急需要の予測や救急隊の適正配置の推定などを行い、行政課題の解決に役立てることで、地域住民のための医療を充実させる。
Develop	

(1) 横浜市・横浜市立大学の協働による医療ビッグデータ研究

1. 研究テーマ	横浜市内医療機関における化学療法で治療を行うがん患者の実態把握
2. 研究の概要	<p>①研究の必要性</p> <p>がん患者が必要とする支援につながる医療政策を検討・立案するためには、がん患者の現状を精緻にとらえたデータに基づき検討する必要があるが、横浜市域広域を捉えたデータは過去に存在せず、実態把握が不可欠となっている。</p> <p>②研究内容</p> <p>レセプト情報・特定健診等情報データベース（NDB）を用い、横浜市内医療機関で外来化学療法施行中のがん患者数を明らかにするとともに、生産年齢（15歳～64歳）での外来化学療法による通院頻度の実態等を把握する。</p> <p>③利用データおよび成果報告（予定）</p> <p>横浜市内医療機関に通院する全がん患者の全レセプトデータ（抽出期間：平成26年4月～平成28年3月）の分析により「第7次医療計画(平成30年度)」の横浜市版である、「よこはま保健医療プラン」策定に向けた検討会での資料として活用する。</p>

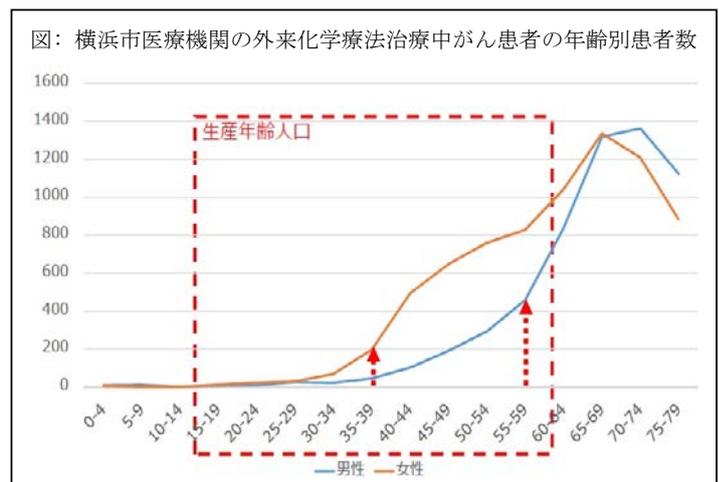
(2) 主要ながん種データによる分析結果概要

1) がん種別外来化学療法の治療実態

横浜市内医療機関に通院するがん患者のうち、外来化学療法治療を行っている人数は2年間で合計14,607人であった（男性：6,547人、女性：8,060人）。女性では30歳代から60歳代にかけて外来化学療法の治療患者数が増加傾向であり、男性と比較して若い世代で外来化学療法を受けている者が多かった（右図参照）。

がん種別では、男性では肺がん（1,587人）が、女性では乳がん（3,437人）が最も多く、AYA*世代での患者総数は全体の3.0%（443人）であった。

※AYA: Adolescent and Young Adult の略で、思春期と若年成人期の世代（15歳～39歳）を意味する



2) 外来化学療法の通院頻度および看取りに関する実態

外来化学療法のために通院している患者の推移を検証した結果、2年の間に顕著な増加傾向がみられている（平成26年4月：3,651人 ⇒ 平成28年3月：4,205人）。

全患者のうち1か月に1回通院した者が51.8%、2回が34.4%、3回が10.7%、4回以上が3.0%となり、月2回以上外来化学療法により通院している患者（1年間で24回以上）は5割弱（48.1%）いることが明らかになった。横浜市内で2年間のうちに在宅で看取られたがん患者は少なくとも2,629人いることが推計された。また、9割以上が在宅治療に移行後1か月以内で看取りが行われているという現状が明らかとなった。

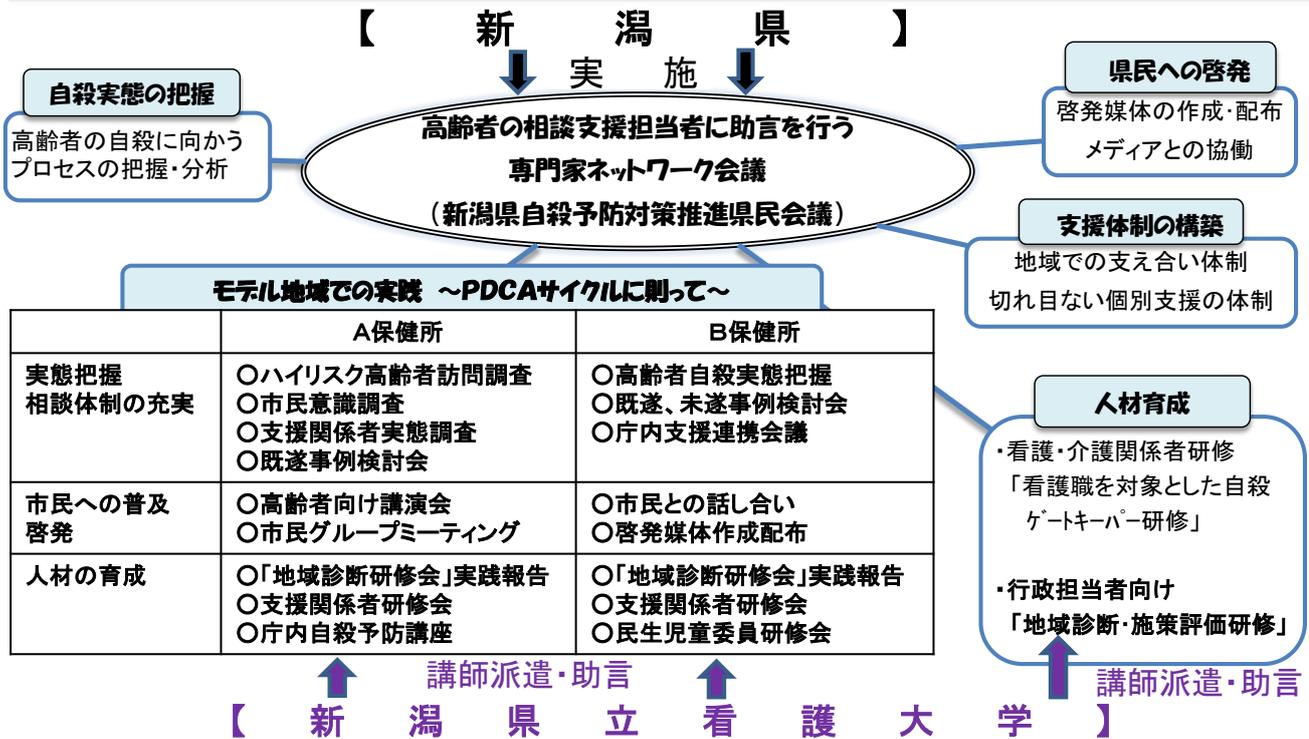
大学名	新潟県立看護大学
事例	新潟県高齢者自殺対策事業

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link	
Enhance	
Assure 地域のいのちを守る	大学が行政の自殺対策担当者へ研修企画の助言や指導を行うとともに、自殺防止対策の研究を行い、自殺対策地域保健活動への助言、高齢者支援従事者への研修を行うことで、自殺死亡率の低減に寄与している。
Develop	

平成29年度 新潟県地域自殺対策強化事業「地域特性重点特化事業」 **新潟県高齢者自殺対策事業**

目指す姿：高齢者と家族を孤立させない(高齢者の自殺を予防する)。

- ◆ 高齢者自殺の実態や、住民・支援者の意識を把握する。
- ◆ 自殺予防に関わるゲートキーパーを増やし、支援者間のネットワーク構築のあり方を考える。
- ◆ 市民との協働、庁内外関係者との協働、メディアとの協働のあり方を考える。
- ◆ 自殺対策に係る地域診断・施策評価により、効果的な施策や市町村自殺対策計画策定を推進する。



大学名	新潟県立大学
事例	グローバル競争下での新潟県の産業を考える

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	産業界の経験、産業活動を支援する機関の情報に、産業政策官庁や大学・研究機関が有する産業関連の知見を「LINK」し、地域産業力を高めている。
Enhance	
Assure	
Develop 地域の可能性を開発する	グローバル化する社会経済の中で、優れた付加価値を生み出して雇用機会を拡大し、持続的に成長する地域産業の可能性を考えている。

グローバル競争下での新潟県の産業を考える

グローバル化する社会経済の中で、産業が優れた付加価値を生み、成長し、雇用機会が広がり、豊かな地域が実現することが課題とされている。

新潟県立大学は、新潟県などが出資する「公益財団法人にいがた産業騒動機構」及び第四銀行が設立した「一般財団法人新潟経済社会リサーチセンター」との産学官連携の下で、地域産業力を高める上での取り組みを議題とする報告会・シンポジウムを開催した。

経済産業省地域政策研究官・細谷祐二氏による基調講演Ⅱ 加えて、「グローバル競争下での新潟県の産業を考える」と題した討論会を開いた。

- 基調報告：「企業の輸出・生産性と人材教育」
若杉隆平（新潟県立大学学長）
- 基調報告：「グローバル・ニッチ・トップ企業が
生み出す地域産業力」
細谷祐二氏（経済産業省地域政策研究官）
- 討論会：「グローバル競争下での
新潟県の産業を考える」
登壇者 細谷祐二氏（経済産業省地域政策研究官）
木山 光氏（新潟経済同友会幹事）
目黒正義氏（にいがた産業創造機構経営支援グループディレクター）
尾島 進氏（新潟経済社会リサーチセンター理事）
モデレータ 石塚辰美（新潟県立大学国際産業経済センター教授）

グローバル競争下での
新潟県の産業を考える

新潟県立大学国際産業経済研究センター シンポジウム

グローバル化する社会経済の中で、産業が優れた付加価値を生み、成長し、雇用機会が広がり、豊かな地域が実現することが課題とされています。
このたび新潟県立大学では、にいがた産業創造機構、新潟経済社会リサーチセンターとの産学官連携の下に、地域産業力を高める上での取り組みを議題とした報告会・シンポジウムを公開講座として開催することになりました。経済産業省地域政策研究官・細谷祐二氏による基調講演に加えて、「グローバル競争下での新潟県の産業を考える」と題した討論会を行います。参加者も交えた活発な意見交換を予定しております。

2017年

11月27日(月)

13時30分～16時30分

アートホテル新潟駅前
4F 湯沢の間
新潟市中央区笹口1-1

参加無料



基調報告 「企業の輸出・生産性と人材教育」
若杉 隆平（新潟県立大学学長）



基調報告 「グローバル・ニッチ・トップ企業が
生み出す地域産業力」
細谷 祐二氏（経済産業省地域政策研究官）

討論会 「グローバル競争下での新潟県の産業を考える」
登壇者 細谷 祐二氏（経済産業省地域政策研究官）
木山 光氏（新潟経済同友会幹事）
目黒 正義氏（公益財団法人にいがた産業創造機構経営支援グループディレクター）
尾島 進氏（一般財団法人新潟経済社会リサーチセンター理事）
モデレータ 石塚 辰美（新潟県立大学国際産業経済研究センター教授）

お問い合わせ・お申し込み

○参加ご希望の方は、電話またはEメールでお申し込み(住所、氏名、電話番号)下さい。
新潟県立大学 教務学生支援部企画課 〒950-8680 新潟市東区海老ヶ瀬471
TEL:025-368-8224 Email: kikaku@unil.ac.jp

主催 新潟県立大学
共催 公益財団法人にいがた産業創造機構 一般財団法人新潟経済社会リサーチセンター
後援 新潟県 新潟市 新潟日報社

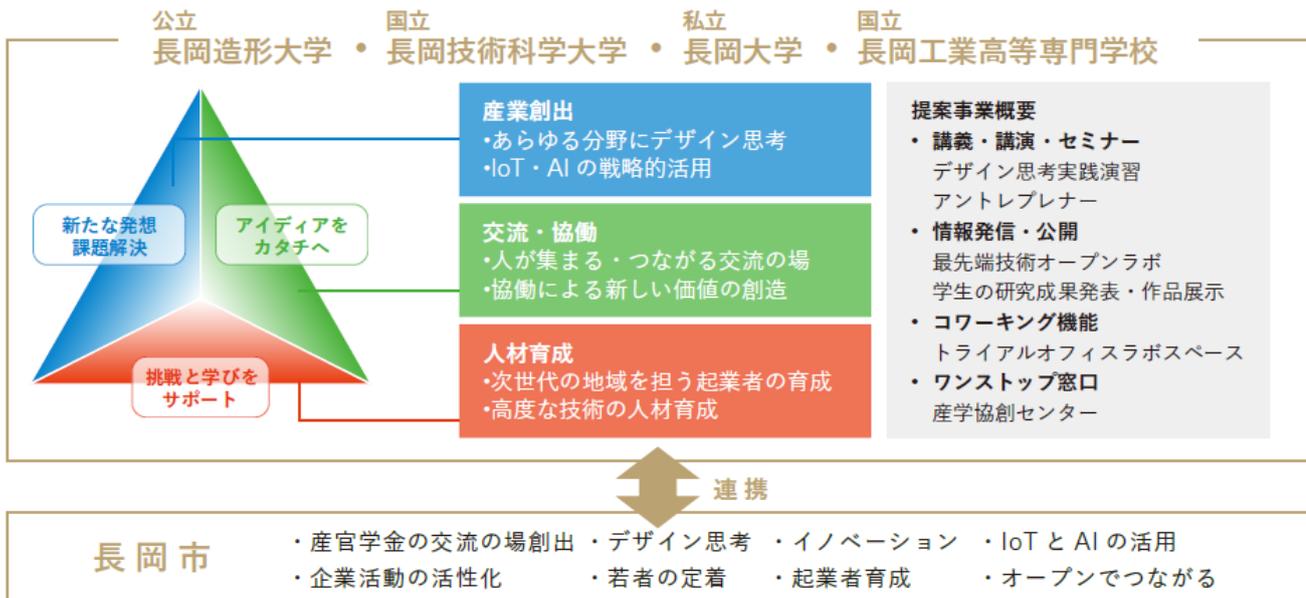
本シンポジウムは、公益財団法人二十一世紀文化学術財団による支援を受けて開催します。

大学名	長岡造形大学
事例	長岡市と市内3大学1高専の連携による「NaDeC 構想」の実現

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	「米百俵」のまち・長岡に立地する長岡造形大学、長岡技術科学大学、長岡大学、長岡工業高等専門学校が、運営主体や専門領域の違いを生かしながら連携し、市民の幅広い生涯学習機会を創出するとともに、自治体・産業界と協働した産業振興やまちづくりを進めている。
Enhance	
Assure	
Develop 地域の可能性を開発する	高等教育機関の特色を最大限に生かして、オープンイノベーションの拠点施設の設置やデザイン思考の普及・活用等により、自治体や商工会議所とも連携して地域社会の新たな価値を創造し、新しい技術の開発を進めている。

NaDeC 構想

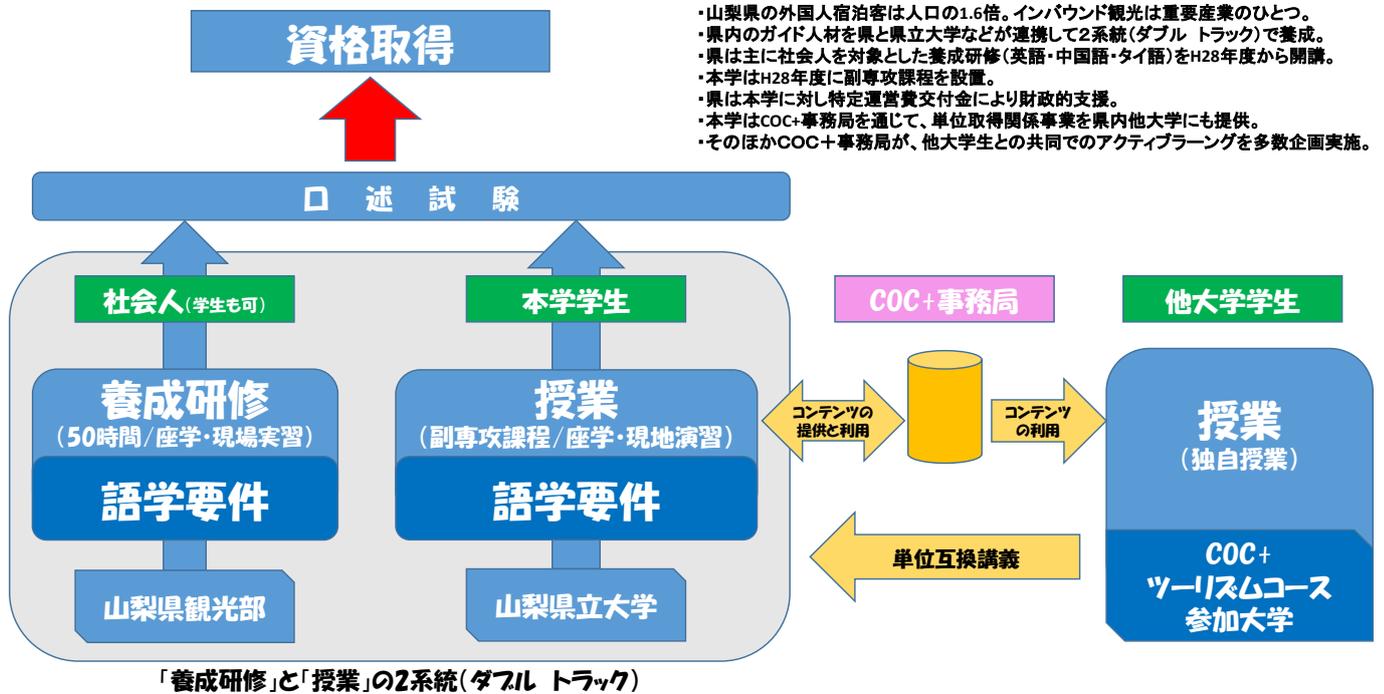
長岡市と市内3大学1高専は、多様な分野で相互に協力する包括連携協定を締結。この協定に基づき、産業界、地域社会、行政と連携し「NaDeC 構想」を実現していく。



大学名	山梨県立大学
事例	山梨県と大学との連携による「若手」地域限定特例通訳案内士の養成

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	地域限定特例通訳案内士資格の取得を目指す学生の育成を通じ、県内各地に点在する様々な観光資源の価値が再発見され、それらを相互につなげる役割を担うことで、魅力あるインバウンド観光を推進する。
Enhance 地域の財産を発展させる	有資格者の実際のガイド活動と資格取得を目指す学生の地域での学修活動を通じ、地域に所在する観光資源が外国人観光客などの人々の目に新たに、そしてこれまで以上に頻繁に触れることになり、地域経済への波及効果を生み出す。
Assure	
Develop 地域の可能性を開発する	地域に精通した観光人材育成のための取組を通じ、ガイド対象となる新たな観光資源の発掘や観光コースの開発が進み、学生の目を通じた従来とは異なる視点からの地域振興の可能性を開く。

山梨県と大学との連携による「若手」地域限定特例通訳案内士の養成



- ・山梨県の外国人宿泊客は人口の1.6倍。インバウンド観光は重要産業のひとつ。
- ・県内のガイド人材を県と県立大学などが連携して2系統(ダブルトラック)で養成。
- ・県は主に社会人を対象とした養成研修(英語・中国語・タイ語)をH28年度から開講。
- ・本学はH28年度に副専攻課程を設置。
- ・県は本学に対し特定運営費交付金により財政的支援。
- ・本学はCOC+事務局を通じて、単位取得関係事業を県内他大学にも提供。
- ・そのほかCOC+事務局が、他大学生との共同でのアクティブラーニングを多数企画実施。

大学名	長野県看護大学
事例	看護実践国際研究センター

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	企業・大学、行政機関、臨床現場等と連携して、事業や研究に取り組んでいる。
Enhance	
Assure 地域のいのちを守る	実践的な活動及び研究を実施し、県民の疾病予防や健康増進等に寄与している。
Develop	

学部や大学院の教育に加えて、研究、実践活動を推進している組織

看護実践国際研究センター



国際看護・災害看護活動研究部門

異文化、国際看護と健康、災害看護に関する教育研究を支援

- USF/SMU 学術交流
- カンボジア等(東南アジア地域)交流
- サモア国立大学学術交流
- 中国医大/揚州大学学術交流
- 外国籍市民の健康支援



ネパールポカラー行本学研修

認定看護師教育部門

認定看護師の育成
認知症看護分野



認定看護師教育課程開講式



キャリア形成支援部門

卒業生・修了生への支援
教育・研修機会の提供
研究活動の支援・相談



「卒業生あつまれ！」企画

看護地域貢献活動研究部門

地域貢献・出前講座・研究審査

- 看護職者の教育・支援
- 災害看護支援
- 地域医療介護連携 ICT ネットワーク
- 終末期看護研究
- 在宅医療と家族のための移行看護
- 子どもと家族への支援
- 女性の健康づくり



高齢者水中運動講座

学外機関連携部門

行政、企業等との共同研究
事業協力

看護ユニフィケーション
産学官連携・自治体連携



看護ユニフィケーション研修会

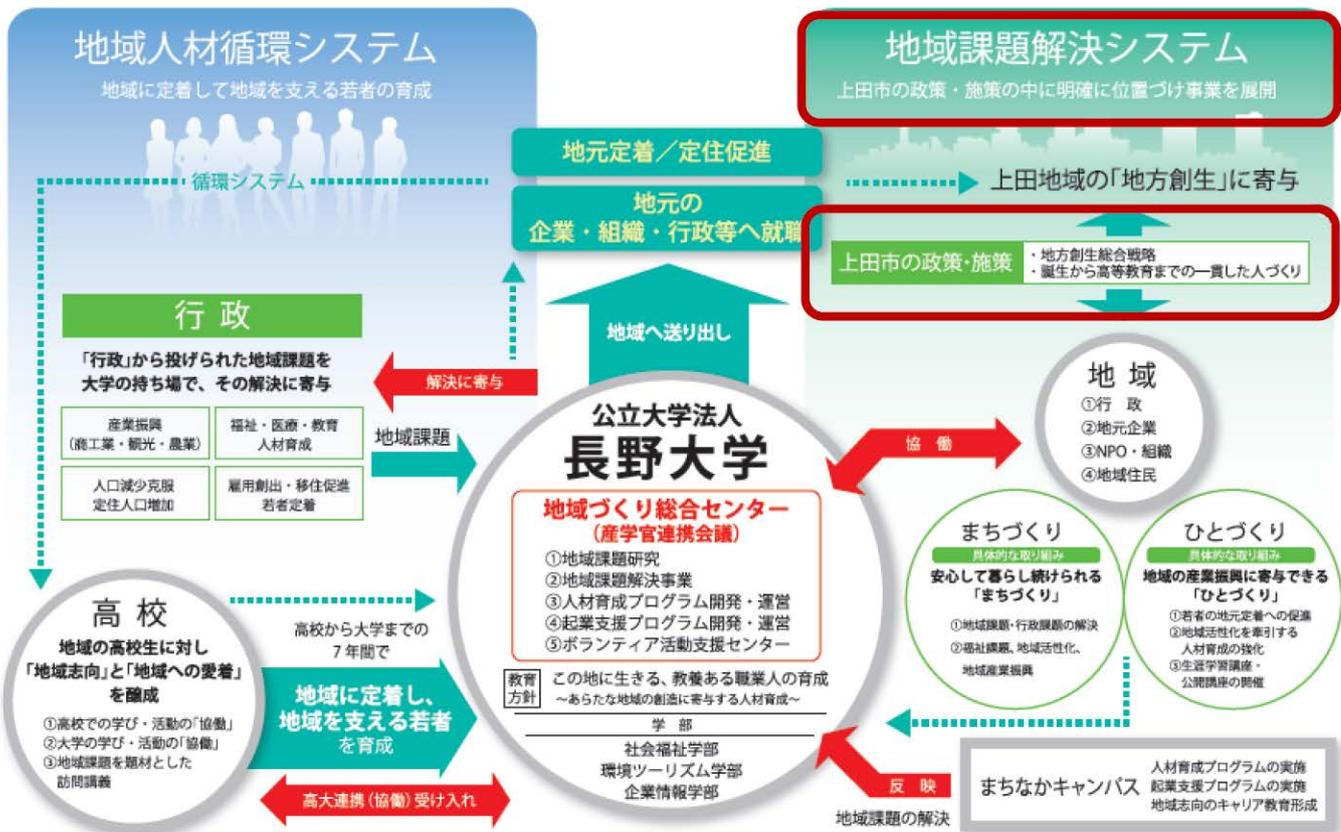
大学名	長野大学
事例	地域を支える人材育成モデル

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	地域人材循環システム(地域に定着し地域を支える若者の育成)と、地域課題解決システム(地域の政策・施策の中に明確に位置づけ事業を展開)により、関係機関と協働し、設置自治体の地域創生・人材育成に寄与している。
Enhance 地域の財産を発展させる	行政が抱える地域課題に対して、大学の持ち場で寄与し、その解決を図っている。
Assure	
Develop	

長野大学が考える公立大学法人化後の大学像 「地域を支える人材育成」モデルの概念図



「地域人材の循環システム」と「地域課題の解決システム」の構築による地域力の向上



大学名	富山県立大学
事例	「くすりの富山」未来創造・人材育成コンソーシアム(仮称)

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link	
Enhance 地域の財産を発展させる	大学と医薬品産業界、県の三者が密接に連携協力し、医薬・バイオ分野等の研究開発の推進と、首都圏等の学生対象の実践的な教育プログラムを提供することで、地域が持つ医薬品に関する産業と関係機関の集積という財産をさらに発展させる。
Assure	
Develop	

「くすりの富山」未来創造・人材育成コンソーシアム(仮称)

平成29年4月3日
 第4回「地方大学の振興
 及び若者雇用等に関する
 有識者会議」資料

医薬品に関する産業と関係機関の集積を活かし、県内の大学と医薬品産業界、県の3者が密接に連携協力して、**医薬・バイオ分野等の研究開発の推進と、首都圏等の学生を対象にした実践的な教育プログラムの提供**に取り組む



大学名	石川県立看護大学
事例	グローバルに学び、地域に貢献する

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	地域の保健・看護が連携する核となる。
Enhance 地域の財産を発展させる	地域で働く看護職者の課題解決や能力向上を支援する。
Assure 地域のいのちを守る	教育・研究を通して地域における安心・安全な暮らしを支える。
Develop 地域の可能性を開発する	地域の課題を受けとめ、地域社会と協働して、人々が健やかに過ごせる社会を開発する。

グローバルに学び、地域に貢献する

継続教育の府
看護キャリア支援センター
(H25年 設立)

認定看護師教育課程
看護管理者教育課程

認
知
症

感
染
症

看
護
部
長

地域貢献の府
地域ケア総合センター
(H12年 設立)

人材育成
地域活動
国際貢献、国際交流

健康
づくり

まち
づくり

ひと
づくり

計画
づくり

連携
交流
づくり

子育て
支援

学生の学びに
組み込まれた地域貢献 LEA

- グローバル人材の輩出(奥能登、米国、タイ、韓国で研修・民泊)
- 看護師と保健師のダブルライセンス保持者の輩出
- 大学院における高度看護実践者輩出(4種のCNS育成)
- まちの賑わいづくり参加、ボランティア活動から学ぶ(単位化)
- 被災地支援を通じて学ぶ、教員の地域活動ゼミに入って学ぶ
- 超少子高齢化地域での先進的がん医療人材の輩出(北信がんプロ)
- 地方創生時代にマッチする助産師輩出(大学院)

教員の研究・社会活動に
組み込まれた地域貢献 EAD

- 健康調査等による課題発見、課題整理、エビデンスの提供
- 臨床看護師との事例検討による現職者の支援
- 行政の審議会、委員会の委員として時代の課題に見合った提案、協働
- JICA日系研修の受け入れ

大学名	石川県立大学
事例	地域イノベーション戦略支援プログラム

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	産官学連携を進め、それぞれの特徴を生かした役割を果たすように促している。
Enhance 地域の財産を発展させる	地域の自然環境、希少生物の実体を解明することで、保全のためのノウハウを提示するとともに、観光資源としての活用、過疎地の活性化につなげている。
Assure 地域のいのちを守る	医薬原料やサプリメントの効率的生産方法を開発し、地域住民はもとより、人々の健康寿命延伸に貢献している。
Develop 地域の可能性を開発する	地域独特の農産物・農産廃棄物・未利用資源等の機能性・有用性を顕在化させ、新しい健康機能食品や新しい商品の開発を行っている。

地域イノベーション戦略支援プログラム
【都市エリア型：一般】(石川県央・北部エリア)
課題名：「伝統的発酵食品に学ぶ新規発酵システム構築と高機能発酵食品の開発」



事業の概要

- 石川県央・北部エリアでは、豊かな農産・海産資源を活かした発酵食品が伝統的に多種製造されており、これらの食品の生理活性機能が明らかにされつつある。しかし、この機能性発現に関与する微生物の菌種や発酵過程でのその消長は把握されていなかった。
- 平成21年6月、石川県央・北部エリアで石川県や石川県立大学、金沢大学の提案が文部科学省の本事業として採択された。産学官が一体となって①伝統発酵食品の機能性発現に関与する微生物の菌種同定や発酵過程での消長、菌種の分離、②免疫学的な機能性発現機構の解明と迅速評価技術の確立について検討した。これらの成果を活用して、有用微生物を用いた新規発酵食品の開発研究を実施した。
- その結果、大学、公設試験所、産業界が親密な関係を築き、企業は数多くの研究成果を活かして新規商品の試作に取組んだ。



カブラ寿司



いしり(魚醤油)

事業成果等

1. 研究開発成果 (特許出願13件(国内)、論文2件、試作品29件)

- 地域伝統発酵食品(かぶら寿司、あじなれずし等)について発酵過程における菌叢の遺伝子レベルでの網羅的解析を行い、菌種を同定した。さらに主発酵菌である乳酸菌について高い機能性を有する菌株を確認・選定し、最適発酵条件の検討を行い、乳酸菌を添加した漬物、ジェラートなどの新規発酵食品の試作を行った。



あじなれずし由来乳酸菌

2. 産学官連携体制構築の効果

【連携の概要とその特徴】

- 参画企業数は事業開始時(H21年度)の10社から21社(H23年度3月)に拡大するなど、本事業の実施を契機として地域の大学、公設試、産業界が一体となった産学官連携基盤が構築された。

【連携体制によってもたらされた具体的な効果】

- 産学官連携による研究開発の進展に伴って、既存の伝統発酵食品の中から300株以上の乳酸菌を分離した。そのうち約60株について機能性を検討し、約50株の機能性乳酸菌をライブラリーとして構築することができた。さらに、特徴ある数株を微生物特許として出願した。



ブルーベリーフロア ズンヨーグルト 能登いか野菜 詰め 豆乳のパンナコッタ 小豆ソースかけ

機能性乳酸菌を用いた試作事例

3. 事業化の成果

- 研究成果の一つである生理活性機能に優れた乳酸菌を用いて、県内企業が新たな発酵食品の商品化に向けた検討を行った。本研究の事業化の成果となりうる乳酸菌発酵甘酒(ANP71)とフロアズンヨーグルト(3種)が異なる企業で製品化され上市されている。



乳酸菌発酵甘酒

4. 地域への波及効果(地域資源が再認識され、資源を守り育てようとする機運を醸成)

- 伝統発酵食品から分離した生理活性機能に優れた乳酸菌を用いて新たな発酵食品を創出することで新商品のPRを図るとともに、分離源(たとえばあじなれずし)である伝統発酵食品や地域資源を見直すことで、伝統発酵食品の新たな需要の拡大に繋げることができる。
- 企業シーズを基に新たな商品化づくりに向けたコーディネータ育成に関する人材育成プログラムを構築し、今後の若手人材育成に繋げることが期待される。



あじなれずし

(特筆すべき事項)

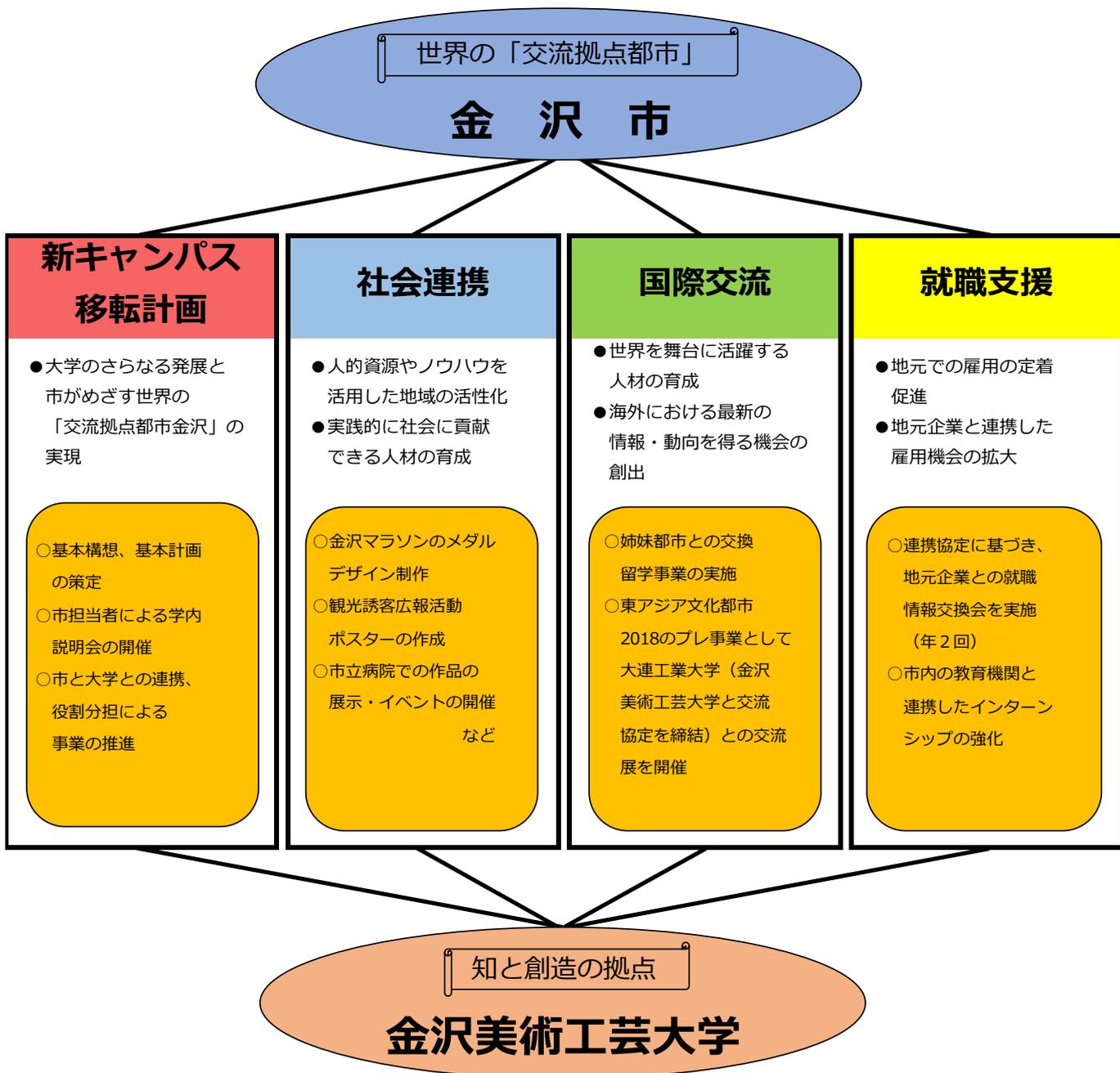
- 特許出願、学術論文などの多くの研究実績を上げ、また、(財)石川県産業創出支援機構を中心に、産学官連携による研究開発や機能性食品開発に関する人材育成、新事業展開のための基盤が構築された。

大学名	金沢美術工芸大学
-----	----------

事例	金沢市と連携した総合戦略事業の推進
----	-------------------

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	姉妹都市との交換留学等を通じて国際的な交流・連携を深め、地域の国際交流を担う人材を育成する。
Enhance 地域の財産を発展させる	自治体や地域社会との連携を通じて、地域文化の発展に寄与する人材を育成する。
Assure 地域のいのちを守る	医療機関と連携したホスピタリティアート・プロジェクトの継続的な実施により、アートとケアを融合させた「金沢らしい医療」の発展を目指して、地域の医療に寄与する。
Develop 地域の可能性を開発する	地元企業へのインターンシップや商品開発への協力における実践を基に、学生目線による地域資源の発展・開発を行い、地域社会に寄り添う大学構想の確立を目指す。

金沢市と連携した総合戦略事業の推進



大学名	福井県立大学
-----	--------

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	福井の元気と持続可能性を支える大学として、県・市町、企業、団体と連携し、県内外の専門家、研究者など多彩な人とのネットワークを深め、地域・県民の幅広い取組みを支援する。
Enhance 地域の財産を発展させる	地域を支えるリーダーとして学生を社会に輩出するとともに、大学の教育・研究活動を活かして、県民各人のライフステージにおける“学び”を応援する。
Assure 地域のいのちを守る	看護、福祉の分野における自治体等と連携した取組みや、農業新時代の実学教育など地域が求める専門人材の養成により、県民の健康で安全安心な生活を支援する。
Develop 地域の可能性を開発する	地域連携本部を中心とした本学の研究シーズと地域ニーズに関する情報のマッチングにより、県・市町の政策サポート、企業の新商品開発など新たな可能性につなげる。

福井県立大学オープン・ユニバーシティ構想

県民のにわ

県民が集い交流できる楽しく創造的な活動拠点

キャンパスを「県民のにわ」として開放し、県民が県大とキャンパスに親しむことができる環境整備を進め、県大生が県民との交流を通じて物事を広く深く見ることを学ぶ場とする。

《具体的な取組例》

- 桜や果樹の植樹など県民の憩いの場づくり
- 県民が訪れる大学レストランづくり



キャンパス内での桜や果樹の植樹



壁に恐竜を展示した大学レストラン

県民の学び

生涯学習時代における公立大学ならではのサポート

意欲ある社会人の学習の場や生涯学習など、幅広い県民の教育の受け皿となるため、県大の研究力・教育力で、県民の各ライフステージにおける“学び”を体系的にサポートする。

《具体的な取組例》

- 地域の課題を考えるシンポジウムの開催
- 大学図書館ロビーでコーヒー等を飲みながら気軽に立ち寄り学べる「ライブラリーカフェ」の開催
- 聴講生、科目等履修生の受講料を大幅に減額



大学図書館ロビーでのライブラリーカフェ



地域の活動家10人と語るシンポジウム

**県民共有の財産として
福井の元気と持続可能性を
支える大学**

県民・地域とのつながり 大学と多彩な人々とのネットワーク

福井の持続的発展のため、福井県、県内市町、大学、企業、団体等のあらゆるセクターや研究者、専門家など県内外の有識者とのネットワークを強化し、県民の幅広いニーズに応えるとともに、県大生を地域のリーダーとして社会に輩出する。

- 《具体的な取組例》
- 地域連携本部を中心に地域ニーズと大学研究シーズをマッチング
 - キャンパス立地自治体(永平寺町、小浜市)と連携した地域の現状と課題を学ぶ講義の開催
 - 福井県や企業と連携した新ブランド「ふくいサーモン」の養殖研究
 - 客員教授など多彩な専門家とのネットワークづくり



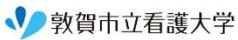
町役場の議場で行った「永平寺町学」講義



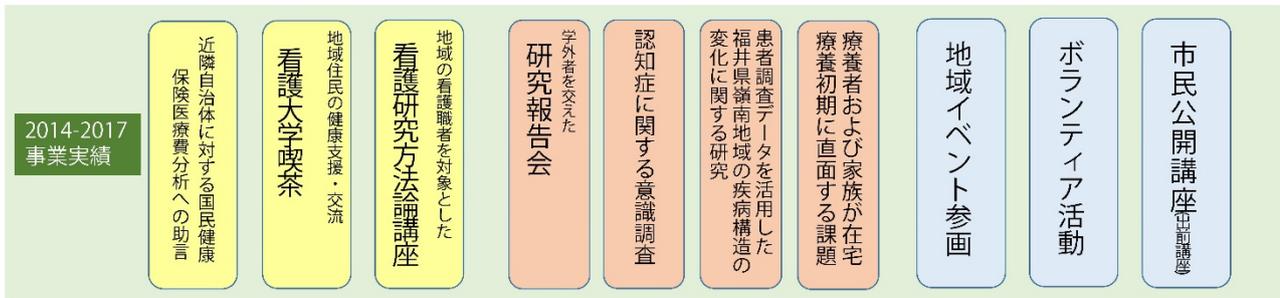
「ふくいサーモン」の養殖研究

大学名	敦賀市立看護大学
事例	地域・在宅ケア研究センター事業

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	市民公開講座(出前講座)の開催、地域イベント等への参画、ボランティア活動等を通して、地域・市民と大学とをつなぐ役割を担っている。
Enhance 地域の財産を発展させる	看護職者を対象とした看護研究方法論講座並びに研究報告会を通して、地域の看護人材の育成と看護の発展に取り組んでいる。
Assure 地域のいのちを守る	看護大学喫茶の開催、健康相談室の開室等による地域住民への健康支援を通して、地域の健康づくりに取り組んでいる。
Develop 地域の可能性を開発する	市民公開講座や看護大学喫茶の開催等を通して、健康知識の普及に取り組むと共に、地域看護支援のモデル開発や地域の健康評価に関する研究を行うことで、地域の看護の発展に取り組んでいる。



地域・在宅ケア研究センター



大学名	岐阜県立看護大学
事例	看護職の生涯学習支援活動

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	公衆衛生の推進を図る行政と連携して保健師研修を実施し、現場保健師を支援している。
Enhance	
Assure 地域のいのちを守る	保健師研修の支援を行うことで、県民の健康増進に貢献している。
Develop	

看護職の生涯学習支援活動



保健師の研修

1. 新任保健師研修

県内市町村・保健所にチェックシートが周知され、そのチェックシートを活用した指導が行われている。これによって新任保健師の実践能力の到達度の変化、到達度を高めた体験等が調べることが可能となり、実践能力の発展過程を明らかにすることができるようになっている。この結果、新任保健師の技術的なレベルの向上と、市町村間の地域による格差が無くなってきている。



2. ステップアップ研修(5年目)

ステップアップ研修は、前期研修、フォローアップ研修、後期研修に分かれており、中堅期にある保健師の実践能力の向上をめざした研修プログラムになるようになっている。保健師の個人差や施設間差はあるものの、2年間かけて取り組むことによって、保健師としての自信が高められ、保健事業の評価の重要性を学ぶことができている状況が確認できる。



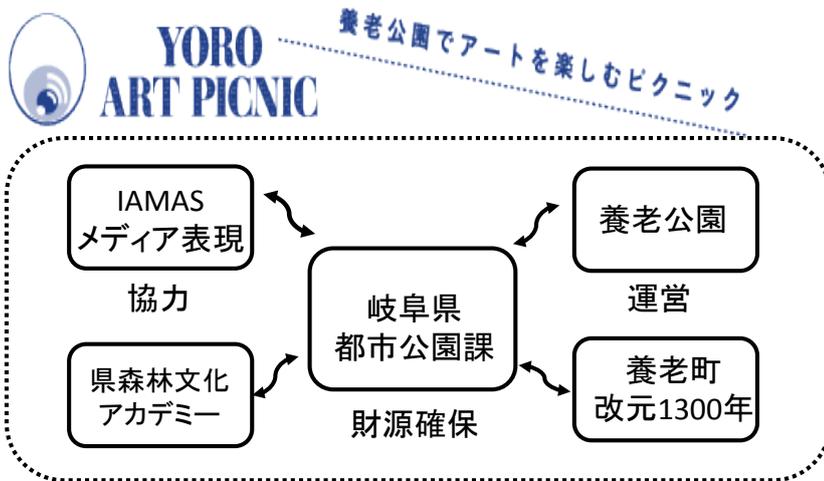
3. 管理者研修

現在は、県保健医療課が主体で実施しており、大学はそれに協力する形になっているが、今後は、県が行っている研修の実施評価を踏まえ、その実施方法や内容について、大学が積極的に企画・提案することを考えている。



大学名	情報科学芸術大学院大学
事例	養老ライト&アート・プロジェクト(仮称)

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link	
Enhance 地域の財産を発展させる	県の管轄する「養老公園」と、改元と伝説の由来となった養老町の「養老の滝」をはじめとする観光資源をIAMASの持つ先端的な芸術表現で飾り、人を呼び込む。
Assure	
Develop 地域の可能性を開発する	大学がこれまで蓄積してきたテクノロジーを基盤としたメディア表現の様々な研究成果を活用し、公園及び所在自治体の魅力を開発する。



養老公園

※養老町：元号を町名として取り入れる数少ない地方自治体の一つ。

養老改元と改元1300年祭 (養老町)

2017年は、養老改元から1300年という記念の年を迎える。イベントを通し、「健康と長寿のまち」としての町をPRする。
⇒養老公園ライトアップ&ひょうたんイルミネーション などを開催

岐阜県都市公園活性化基本戦略(岐阜県)

地域振興・観光振興の拠点としての機能を発揮...公園の魅力向上
⇒岐阜県都市公園課:養老公園を管轄、同公園でのアートプロジェクトの推進(財源確保)

IAMAS 総合ディレクター



👉 企画案の提示、プロジェクト推進

- ・AR(拡張現実)アートの展示
- ・「プロジェクト」(メディア表現の社会実践研究)と関連した自転車を用いたイベント
- ・養老の滝や養老天命反転地への光の演出(アート・ナイト)



養老公園: 明治に生まれ、100年以上の歴史を持つ公園。養老の滝、春の桜、秋の紅葉で有名。世界的アーティストの荒川修作により製作された「養老天命反転地」や児童の遊び場を併設。

大学名	岐阜薬科大学
事例	岐阜市の薬用作物産地化に向けて

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	本学の地域貢献理念である「『健康科学』を中心とした地域の知的クラスターとしての活動」により、地域の財産であるブランドを生かし、さらなる付加価値を与えて、新たな産業の創出のために産学官連携を推進する。
Enhance 地域の財産を発展させる	「日本書紀」に記述があるように、美濃の国「ぎふ」は製薬業発祥の地であり、また江戸時代の書物に織田信長公が岐阜城入城後に伊吹山麓に薬草園を作らせたとの記述も残っている。こうした地の利によるブランドを地域の財産として生かす。
Assure	
Develop 地域の可能性を開発する	大学と岐阜市および地域とが協力して薬用作物の新たな産地化とブランド化の確立を進める。



今後の活動内容

【薬用作物栽培推進会議】6名

《構成》田中俊弘座長、岐阜薬科大学(薬草・生薬分野)、岐阜大学、JAぎふ、岐阜農林事務所

《協議内容》栽培状況等の進捗管理、生産拡大や販売戦略などの方向性への検討、意見

【11種類の栽培品目】

キキョウ、オケラ、ホソバオケラ、カワラヨモギ、トウキ、ハトムギ、ジャクヤク、シマサイコ、ジャルヒゲ、ジオウ(カイケイジオウ、アカヤジオウ)、アミガサユリ ※黄色は生産体製品目

【東京生薬協会による岐阜市薬用作物栽培協議会(生産者9事業者)への栽培指導・勉強会】

- ①栽培指導(播種・植え付け、基肥・追肥、収穫、加工・調製等)
- ②勉強会(栽培品目の勉強)

JAぎふ薬用作物生産部会設立

新たな産地化とブランド化の確立

大学名	静岡県立大学
事例	「薬」と「食」の学問領域を融合した健康長寿科学の知見を地域に還元

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link	
Enhance 地域の財産を発展させる	本学の持つ健康長寿科学の知見を活用し、静岡県の誇る豊かな農産品、静岡県中部に集積する食品関連産業、東部に集積する医療関連産業の更なる発展を目指す。
Assure	
Develop 地域の可能性を開発する	「薬学」と「食品・環境」を融合した先端的な研究を進め、創薬や食品の機能性等に関する豊富な知見を産業界に還元し、新たな商品、事業の創出を支援する。

「薬」と「食」の学問領域を融合した健康長寿科学の知見を地域に還元 静岡県立大学 UNIVERSITY OF SHIZUOKA

静岡県の取組

静岡新産業クラスター

静岡県では、地域の資源と特徴ある産業基盤を活かし、ファルマバレー、フーズ・サイエンスヒルズ、フォトンバレーの3つの産業集積プロジェクトを推進している。クラスター間の連携や国内外の他地域との連携を進める一方、各クラスターに研究成果の事業化を図る推進機関を設置している。



フーズ・サイエンスヒルズ（食品関連産業）

「食」と「薬」の融合により、新たな機能性食品を創出します

- ・食品の機能性に係る研究開発
- ・新機能性食品の開発と地域産業の活性化
- ・食品関連産業を担う人材育成

ファルマバレー（医療・健康関連産業）

富士山麓から世界へ、「健康長寿」を発信します

- ・ベッドサイドニーズに応える“ものづくり”
- ・医療と産業を担う“ひとづくり”
- ・健康サービスが充実し高次都市機能が集積した“まちづくり”

静岡県立大学の主な取り組み

- 薬食研究推進センター、食品環境研究センター、茶学総合研究センター ほか
- ・茶をはじめとする地場産品の機能性研究
 - ・植物工場など生産技術の高度化に向けた研究
 - ・食品の機能性表示に係る支援(*) など
- 大学院薬食生命科学総合学府、食品栄養科学部 ほか
- ・健康長寿を科学的に捉える人材の養成
 - ・総合食品学講座（主催：静岡県産業振興財団） など

静岡県立大学の主な取り組み

- 創薬探索センター ほか
- 新しい創薬シーズの創出と創薬研究者の育成に取り組んでいる。複数の抗がん剤候補化合物の創出に成功し、国内製薬企業と共同で候補化合物の実用化に向けた研究も進めている。
- 平成28年度の事例
本学が有する「IDO/TDO阻害剤候補化合物」の構造最適化及び評価について企業と共同研究を実施

※食品の機能性表示に係る一貫した支援体制

静岡県、静岡県産業振興財団と静岡県立大学が連携し、機能性表示食品制度への届出を検討する事業者を支援



平成28年度の事例
「シーチキンのまぐろから搾ったDHA+EPA」
(はごろもフーズ)
→静岡県立大学がシステムティック・レビューを実施



静岡県立大学の取組

大学名	静岡文化芸術大学
事例	地域と大学を結ぶおもな取組

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	文化・芸術研究センターが中心となり、文化政策学部、デザイン学部との連携のもと、浜松商工会議所、浜松市とともに浜松市街地の活性化の推進に貢献する。
Enhance 地域の財産を発展させる	多くの外国籍の人が暮らしている地域特性を活かしたまちづくり、地域の伝統文化を活かした街の景観形成など、しずおか文化の充実について、本学の研究、教育、実践を通して地域人材を育成する。
Assure 地域のいのちを守る	自治体の防災施策への参画や、浜松医科大学、熊本県立大学などと連携した防災講座を開設し、県民の安心・安全に対する意識向上に貢献する。
Develop 地域の可能性を開発する	ユニバーサルデザイン普及、フェアトレード拡張、社会的包摂の充実などを推進する人材を育成し、地域社会の新たな輝きの創造に貢献する。

文化とデザインのかで 地域の魅力を拓く

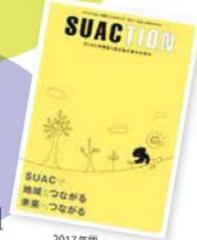
公立大学法人
静岡文化芸術大学
SUAC

- ◎多文化共生社会の形成
- ◎ユニバーサルデザインの推進
- ◎地域の多彩で魅力的な文化の創造と発信
- ◎多彩な人材を生む学びの場づくり



- ◎多文化共生都市
(インターカルチュラルシティ加盟※)
- ◎ユネスコ創造都市(音楽分野)
- ◎フェアトレードタウン宣言
※多文化共生に取り組む都市として
欧州評議会が推進

静岡文化芸術大学
文化・芸術研究センター等
がハブとなり地域と大学を結ぶおもな取組



2017年版
学生地域実践記録 全18件掲載

多文化共生に関する教育・研究

多くの外国籍の人が暮らしている静岡県、浜松市の施策への研究協力、自治体と連携した、外国籍の児童・生徒の学習支援や交流事業を実施。(2000年～)



静岡国際オペラコンクールの開催

静岡国際オペラコンクールは、国際音楽コンクール世界連盟に加盟している日本で唯一の声楽コンクール。静岡県、浜松市、本学が一体となってしずおか文化を世界に発信。(2007年～)



ユニバーサルデザインの推進、公共施設企画支援

ユニバーサルデザインを推進している静岡県、浜松市と連携した研究や関連プロジェクトを展開。公共施設の企画・設計などに際して学生とともに積極的に空間デザインを提案。(2000年～)



フェアトレード運動の推進

日本初のフェアトレード大学認定を目指し、フェアトレード大学憲章を作成。フェアトレードタウンを推進する浜松市と一体となって、フェアトレード運動を展開中。(2016年～)



中山間地域の振興、研究

急速な人口流出によって、農林業の担い手不足、耕作放棄地の増加などの課題を抱える中山間地域の課題解決の研究や実践、地域文化の保護・保存・伝承の実践研究の取組。(2011年～) 写真は、本学学生も耕作の一部を担う棚田(浜松市北区引佐町)



文明観光学コース、匠領域の設置

(平成31年度設置予定)

【文明観光学コース】優れた文化遺産、芸術文化を文明観光資源として評価し、世界に発信する人材を育成。

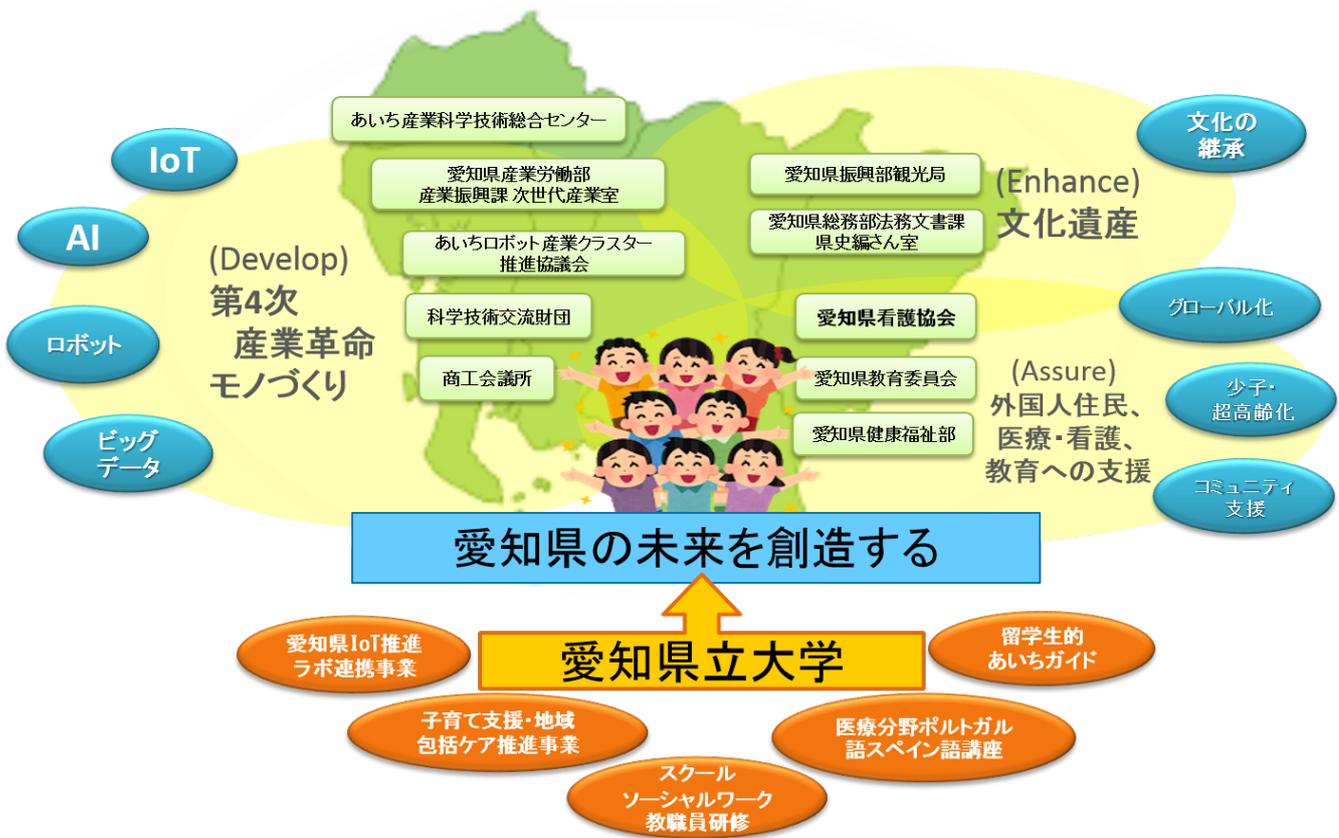
【匠領域】伝統建築・伝統工芸に関する歴史、文化、等の知識や技術を理解し、新しい空間や工芸品を提案できる人材を育成。



秋葉山本宮 火伏神事

大学名	愛知県立大学
事例	愛知県の未来を創造する —モノづくり・ヘルスケア・子育て支援・文化の継承を支える—

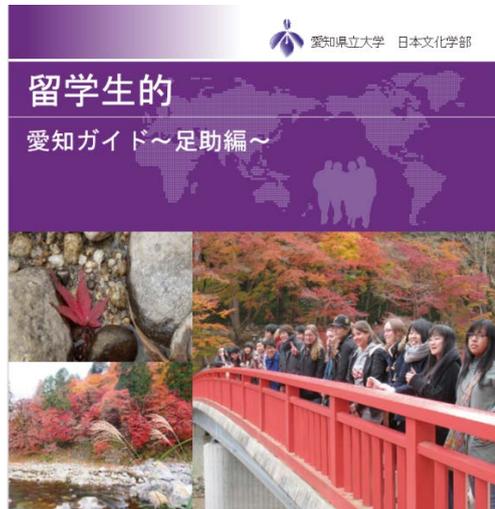
「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link	
Enhance 地域の財産を発展させる	留学生視点で捉えた愛知の多言語ガイドパンフレットを愛知県振興部観光局等と連携して作成し、地域の観光資源・文化遺産をさらに発展させる。
Assure 地域のいのちを守る	未来を創造する子どもの育成、県民の健康長寿および外国人のヘルスケアを支援し、地域の子育て支援、地域包括ケアの推進に貢献する。
Develop 地域の可能性を開発する	愛知県および地域企業等とともに、第4次産業革命の中核となるロボット、IoT等の共同研究を行うなど、次代のモノづくりのための連携を推進する。



次世代ロボット研究所 (2016.4 開設)



留学生的あいちガイド～足助編～



大学名	愛知県立芸術大学
事例	愛知県が主催する「あいちトリエンナーレ」などへの参加状況

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link	
Enhance 地域の財産を発展させる	地域の財産である芸術祭、文化祭を進展させ、地域のポテンシャルを高める貢献をしている。
Assure	
Develop 地域の可能性を開発する	県や他大学、地域社会との連携を通じて、地域文化を担う人材を育成するとともに、地域の芸術文化の発展に貢献する。

平成28年度に愛知県が主催した芸術祭等への本学の参加状況

あいちトリエンナーレ(愛知県芸術祭)

(1) 出品作家

美術学部彫刻専攻 森北伸 准教授

(2) 芸術大学連携プロジェクト

県内の3つの芸術大学(愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学)による合同企画展示
企画: 倉地久 教授(油画専攻)、森北伸 准教授(彫刻専攻)
会場: アートラボあいち大津橋、アートラボあいち長者町

・SKYOVER 3

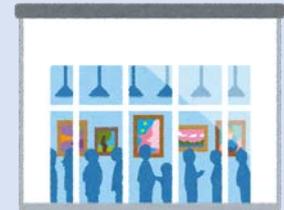
会期: 平成28年8月10日(木)～9月11日(日)
平成28年9月17日(土)～9月23日(日)

・SKYOVER 4

会期: 平成29年2月18日(土)～3月19日(日)

・Life is Beautiful

芸術大学連携プロジェクトの一環として開催される本学独自の企画展示
企画: 森北伸 准教授(彫刻専攻)
会期: 平成28年5月14日(土)～6月5日(日)
会場: アートラボあいち大津橋、アートラボあいち長者町



第16回全国障害者芸術・文化祭あいち大会

(1) オープニング コンサート「聞こえる色、見える音」

出演: 東京藝術大学(卒業生) & 愛知県立芸術大学オーケストラ
開催日: 平成28年12月9日(金)

会場: 愛知芸術文化センター

プログラム: J. シュトラウス I 世: 《ラデツキー行進曲》

J. シュトラウス II 世: 《春の声》

C. ドビュッシー/ビュッセル: 《小組曲》より

スメタナ: 連作交響詩《我が祖国》より「モルダウ」

松下功: 幻想曲《通りゃんせ》



(2) 展覧会「西村陽平と出会った子どもたち 越境する身体」

愛知県立芸術大学 愛知県陶磁美術館 主催

会期: 平成28年7月9日(土)～23日(土)

会場: 愛知県立芸術大学サテライトギャラリー

企画: 神田每実教授(彫刻専攻)

(3) 芸術講座「西村陽平トークイベント&交流会」

日時: 平成28年7月15日(金)

会場: 三井住友銀行SMB Cパーク栄

企画: 神田每実教授(彫刻専攻)



(4) あいちアール・ブリュット出前講座

講師: 愛知県立芸術大学 美術学部陶磁専攻 佐藤文子 准教授

障害のある方の創作活動を応援するため、芸術系大学の教員等が講師となり、9月から10月にかけて障害者支援施設等で出前講座を開催し、制作した風鈴等約150個をひとつの作品に仕上げ、第16回全国障害者芸術・文化祭あいち大会で展示した。

大学名	名古屋市立大学
事例	名古屋市とともに発展する名市大

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	子育て世代や高齢者の支援、地域の医療と健康・福祉の向上、都市魅力の向上及び国際化の推進など、名古屋市を取り巻く諸問題の分析・解決に寄与することを通じて、名古屋市とともに発展する大学としてさらなる飛躍をめざす。
Enhance 地域の財産を発展させる	
Assure 地域のいのちを守る	
Develop 地域の可能性を開発する	

名古屋市とともに発展する名市大

7学部7研究科および附属病院を有する都市型総合大学である名古屋市立大学は、名古屋市の様々な施策に積極的に連携・協力し、大学の教育研究成果を地域に還元しています。



大学名	三重県立看護大学
事例	地域課題解決にむけた設置団体との連携 ～認知症看護の質向上を目指して～

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link	
Enhance	
Assure 地域のいのちを守る	本学は、看護の発展並びに保健、医療及び福祉の向上に寄与する目的で設置された大学であり、地域のいのちを守るための人材育成の機関として地域貢献を担っている。特に、認知症看護ニーズのさらなる高まりへの対応や高い高齢者比率等、本県の課題解決にむけて設置団体と連携し、地域の課題解決を図っている。
Develop	

三重県立看護大学

地域課題解決にむけた設置団体との連携

～認知症看護の質向上を目指して～

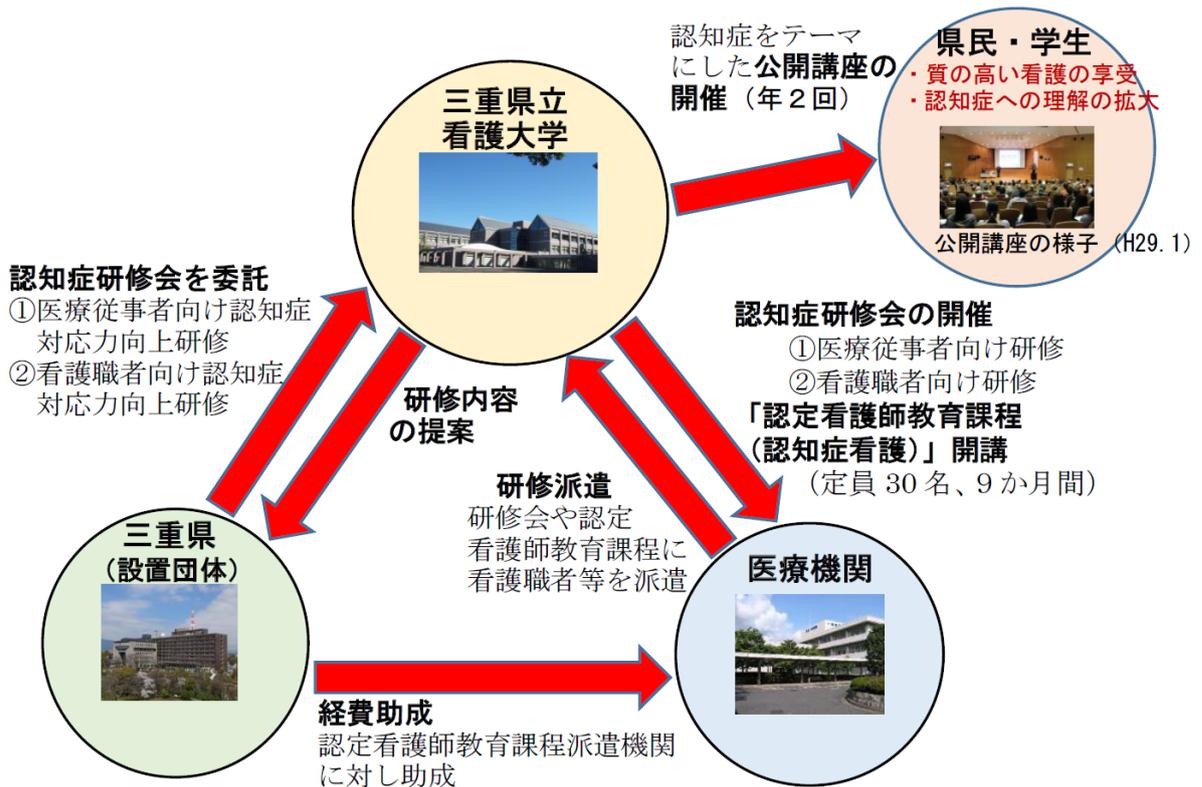
■ コンセプト

地域の現状課題

- ・認知症患者数 増加見込み→認知症看護ニーズへの対応が急務
- ・「認定看護師*1(認知症看護分野)」登録者数 5名(全国順位 38 番目) [H28.5 現在]
- ・三重県の高齢者比率 28.5%(全国平均 27.3%) [H28.10.1 現在] (総務省調査)
- ・28年10月「認知症サミット in Mie」を開催(県として非常に高い問題意識)

*1 認定看護師
日本看護協会が策定した資格で、特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護が実践できる看護師

地域課題解決に向けて設置団体と連携



大学名	滋賀県立大学
事例	地域ひと・モノ・未来情報研究センター

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	地域の諸課題に対してICTを用いて解決策を提示し、「スマート」を軸に分野横断型の連携を図る。
Enhance 地域の財産を発展させる	ICTにより持続可能な農業に関する教育研究を推進し、地域の特性を伸長する。
Assure 地域のいのちを守る	ICTを用いた地域看護について研究し、地域住民の健康・福祉システムの確立を実現する。
Develop 地域の可能性を開発する	ICTを用いて地域の観光について研究し、情報循環型の観光システムを開発し、地域の新たな価値を創造する。



大学名	京都府立大学
事例	地域貢献型特別研究(ACTR) 等

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	「地域貢献型特別研究(ACTR)」では、地域課題解決に向けて、大学と地域が連携・協働して取り組み、歴史、公共政策、生命、農学、食保健等の様々な分野で総合的に地域貢献を行っている。 平成 29 年度の主な研究テーマは以下のとおり。 ・「京料理」形成過程に関する歴史的考察 ・京都府産豆類を活用した新たな特産品の開発 ・「丹後の海」の歴史・文化に関する総合的研究 一丹後東部を中心にー ・早生樹の活用による森林資源の再造成・学校環境教育の実践 等
Enhance 地域の財産を発展させる	
Assure 地域のいのちを守る	
Develop 地域の可能性を開発する	

京都府立大学では、京都府の知の拠点として、府民、NPO、行政、企業等と連携して教育・研究を推進し、その成果を広く府民や社会に還元し、地域の文化及び産業の振興並びに地域社会の発展に寄与することを目的に京都地域未来創造センターを設置して、以下の取組を進めています。



1. 政策シンクタンク機能

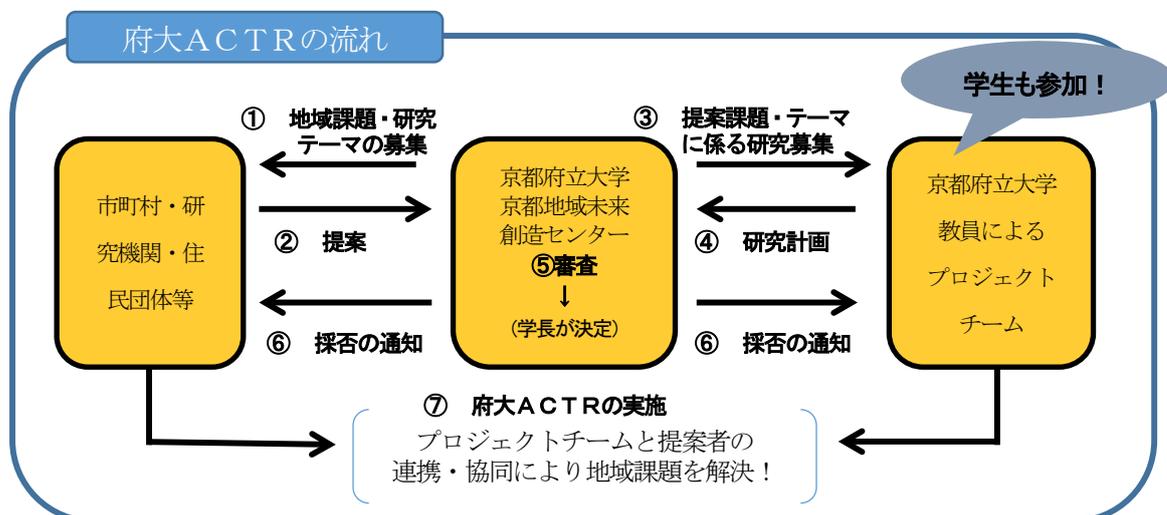
- 1) 京都府の重要政策課題について、行政職員・NPO等と協働研究する政策研究活動
- 2) 地方自治体や企業からの委託を受けた調査・研究活動
- 3) 連続自治体特別企画セミナー (28年度 4回開催)

市町村職員・議員、研究者、学生等を対象に、幅広い視野から地方自治に関する知識の習得と政策形成能力の向上を図るため、先進自治体の事例等を基に学識者や自治体の実務経験者を講師に開催。

2. 地域貢献型特別研究 (ACTR : Academic Contribution To Region)

・京都府域の課題に的確に対応し地域振興、産業・文化の発展等に貢献するため、地域課題を研究テーマとして公募、大学と地域が連携・協働して調査・研究を実施する。

(平成 29 年度 公募提案 50 件→採択された課題 28 件)



大学名	京都府立医科大学
事例	地域医療の推進<世界トップレベルの医学を地域へ>

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link	
Enhance 地域の財産を発展させる	新たに知の拠点を設け、最新の知見とともに地域に大学を投影することにより、地域の資源の活性化と高度化に資する。
Assure 地域のいのちを守る	地域医療を推進する拠点として、高度先進医療を提供するとともに、医師の育成や医師の配置、地域の医療ポテンシャルの高度化など地域医療全体の推進を図り、地域の安心・安全を確保する。
Develop	

地域医療の推進(京都府立医科大学)

<世界トップレベルの医学を地域へ>

京都府は京都市を中心として人口あたり医師数の多い地域とされるが、府中北部や南部地域には医師は少なく、医師偏在による弊害の克服が喫緊の課題となっている。こうした中、京都府立医科大学は、「世界トップレベルの医学を地域へ」を理念として、先進的医学・医療を推進する大学本部と、公衆保健の護り手である京都府との連携のうえにたち、高度医療・医科学研修と地域医療実践とを循環するかたちの卒後教育の場を若手医療人たちに提供する工夫など、様々な取組みを推進している。もって、医学の進歩に貢献し、磐石な地域医療を支える人材を育成・輩出する役割を果たしている。

1 社会人大学院の充実とリカレント教育の実践

○地理的ハンディキャップを克服して大学院の修学が可能となるよう、授業体系の見直し等を推進

- ・大学附属北部医療センターでの大学院講義の実施
- ・北部医療センターにおける研究機能の充実

○大学院講義を広く開放し、最新の知見を地域へ還元

- ・中北部地域で活動する医師・看護師等をはじめ大学院講義を広く公開する。



2 地域課題に対応した行政機関への医師配置

○医療保健行政等の分野で、医療に関する高度な知識や技能を地域社会に還元するために医療センターを設置。継続的に大学から医師を配置

府の医療機関、保健所などの行政機関に35名(平成29年4月現在)を配置

● 附属北部医療センター



3 地域医療教育の推進による府内医療課題の洗い出しと克服

○地域医療教育推進事業の実施

京都府からの助成を受け、府中北部地域の基幹7病院で医学科、看護学科の学生が合同で地域医療学習やチーム医療の観点からの滞在型実習(1週間)を実施

○北部地域の病院実習を必修化

臨床実習の72週化を契機に京都府北部にある大学附属北部医療センターでの実習を必修化、地域医療について学ぶ機会を拡大

○現地病院視察会の検討

早期体験実習として、1年生から3年生の臨床実習前の段階で、中北部地域の指定病院見学会等を実施し、地域に対する理解や関心を涵養



京都府立医科大学

大学名	京都市立芸術大学
事例	子育て世帯向け市営住宅リノベーション

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link	
Enhance 地域の財産を発展させる	既存の市営住宅に、「子育てしやすい間取り」という新たな価値を付加し、提案を行う。
Assure	
Develop	

子育て世帯向け市営住宅リノベーション

設置自治体である京都市が平成 28 年度に取り組んだ市営住宅のリノベーション事業に、本学美術学部環境デザイン専攻の坂東幸輔研究室の学生たちが協力しました。

京都市によるこの取組は、大学生の若い感性や発想を取り入れながら、市営住宅を子育てしやすい間取りにリノベーションを行うものです。

洛西ニュータウン内の市営住宅のリノベーションコンセプトや住戸プランを本学学生が提案し、実用性を高めた上で整備が進められ、改修工事が行われました。

また、改修案を考案した学生が京都市役所を訪問し、模型やパネルを使って門川市長へ説明も行い、後日、内覧会及び入居者の募集が行われました。

(リノベーションのテーマ)

- ・親にとって子育てしやすく、子どもにとっても暮らしやすい間取りや設備
- ・子どもの年齢や成長過程に応じて異なるニーズに対応した間取り
- ・日常生活の中で子どもが和の文化を実感し、触れることができるような仕様

(本学学生による検討状況)



京都市立芸術大学 坂東幸輔研究室

(実施した団地)



洛西ニュータウン

(門川市長への説明)



大学名	福知山公立大学
事例	実践教育における福知山アートプロジェクト「竹林と光のプロムナード祭」による観光資源開発

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	地域の伝統工芸である丹波二俣和紙の価値観や位置づけを変化させ、地域住民による自発的且つ継続的な整備・保護の推進を狙うと共に、リサイクルを通じて自然資源の価値を子ども達に伝え、環境意識を醸成するなど、学生と市民、各種団体との協働を推進する。
Enhance 地域の財産を発展させる	観光エリアの拡大や観光客の増加などを目指してアートプロジェクトを実施し、地域の観光振興を促進すると共に、地域の資源を活用した商品販売など、商工振興を促進する。
Assure	
Develop 地域の可能性を開発する	放置竹林を再生させ、その可能性を発揮する手法を開発する。

実践教育における福知山アートプロジェクト 「竹林と光のプロムナード祭」による観光資源開発



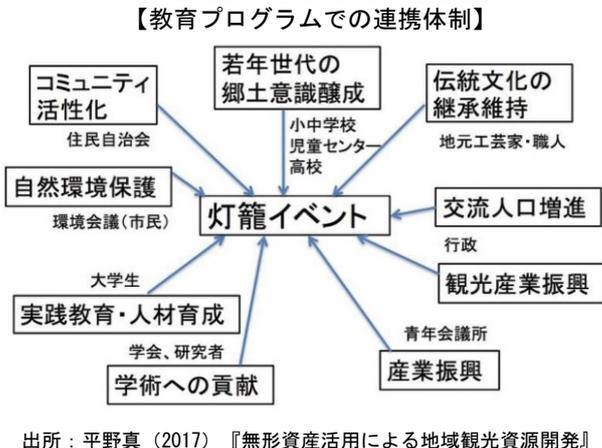
竹林と光のプロムナード祭の開催

制作した灯籠を蛇ヶ端藪の周辺に飾り、夜にライトアップするイベント「竹林と光のプロムナード祭」を開催している。蛇ヶ端藪に対する価値観や位置づけを変化させ、周辺地域住民による自発的且つ継続的な整備・保護の推進を図っている。

竹林整備により観光エリアの拡大・観光客の増加
⇒ **観光振興**

灯籠の販売やイベントによる地元資源を活用した商品の販売など、産業分野の拡大 ⇒ **商工振興**

- 【本事業に関わる団体】**
- ・ 福知山環境会議
 - ・ 福知山公立大学
 - ・ 福知山市役所環境政策室（行政）
 - ・ 福知山環境会議（市民）
 - ・ 地元の小中学校、幼稚園
 - ・ 福知山和紙伝承館（伝統工芸関係者）
 - ・ 福知山青年会議所（企業経営者）



出所：平野真（2017）『無形資産活用による地域観光資源開発』

大学名	大阪府立大学
事例	「高度研究型大学～世界に翔く地域の信頼拠点～」としての全学的な教育・研究・地域貢献

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	「大阪のシンクタンク」として、大阪府庁各部署と本学教職員が連携し、政策課題に対応した共同事業・共同研究等を実施するほか、キャンパス所在地である堺市や近隣自治体とも連携し、地域の課題解決や活性化に資する取組を推進している。
Enhance 地域の財産を発展させる	大阪及び関西圏の大手・中小企業と自治体・金融機関等で構成する連携体制を構築し、世界に通用する先端研究、異分野融合研究、後継者人材育成事業などを推進することで、オープンイノベーションの拠点として、地域の産業振興・地域活性化に貢献している。
Assure 地域のいのちを守る	自治体や地域住民と共同し、地域の防災、安心・安全、住民の生活・環境などの改善を支援している。特に、地域保健学域(看護・リハビリ・栄養・教育福祉)では自治体や地域住民と連携して、人の生命・健康・予防・包括ケアなどの支援を実施している。
Develop 地域の可能性を開発する	4学域・7研究科からなる教育研究組織と21世紀科学研究センター、URAセンター、ボランティアセンター等の学内専門機関が自治体や企業と連携し、高度専門人材の育成、地域の国際交流活動の推進、地域課題の解決や地方創生に資する取組を推進している。

「高度研究型大学～世界に翔く地域の信頼拠点～」 大阪府立大学の取組

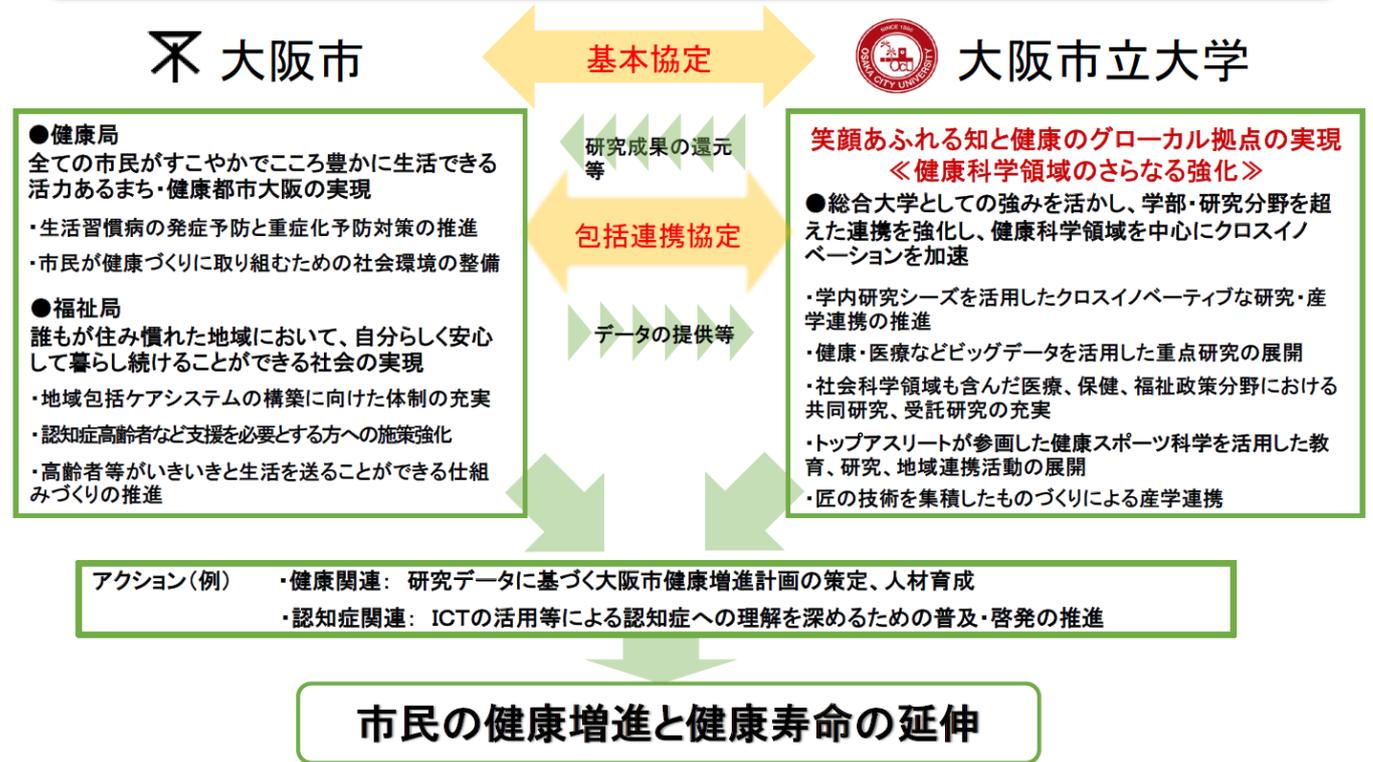
大学の教育力・研究力を活かし、国の研究機関・地方自治体・企業・金融機関等と連携し、地域社会・組織・人々の生活のさまざまな課題解決等に向けた幅広い取組を推進



大学名	大阪市立大学
事例	市民の健康増進と健康寿命の延伸(公共データ分析)

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	「笑顔あふれる知と健康のグローバル拠点」をスローガンに掲げ、総合大学としての強みを活かし、健康科学領域を中心に分野横断型研究を推進している本学の研究成果と、市の持つビッグデータを組み合わせることで、実効性のある行政サービスを実現させる。また行政だけでなく、産業界とも連携することで、産学官民連携のオープンプラットフォームを実現し、産学共生の成果を住民に還元することを目指す。
Enhance 地域の財産を発展させる	行政・地域の持つ膨大なデータと大学の研究成果を組み合わせ、健康・福祉・子育て・防災・環境・産業・観光・まちづくりなどの行政課題に対して、データに裏付けられた実効性のある施策の実施につなげる。
Assure 地域のいのちを守る	
Develop 地域の可能性を開発する	

**大阪市健康局・福祉局と大阪市立大学で
健康寿命の延伸に関する包括連携協定を締結**



大学名	兵庫県立大学
事例	先端研究をシームレスに地域創生につなげる取組

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	産学連携・地域連携の活動において、理学、工学、医療・看護、社会科学の先端研究をシームレスに地域創生へつなげる。
Enhance 地域の財産を発展させる	SPring-8、NEWSUBARU、京コンピューター等、兵庫県に設置されている先端設備で新技術を創出する。
Assure 地域のいのちを守る	阪神・淡路大震災を教訓とした減災復興研究や看護研究等による地域ケアで、地域の安全と健康を追求する。
Develop 地域の可能性を開発する	播磨、摂津、但馬、丹波、淡路それぞれの特長を踏まえ、地域の課題(ニーズ)と大学の資源(シーズ)をマッチングして、課題の解決に取り組む。

先端研究をシームレスに地域創生へ



連携機関

- ・先端研究の推進: 理化学研究所、株式会社ダイセル、AMPI、Karlsruhe Institute of Technology、Carnegie Mellon University等
- ・産学連携活動: 兵庫工業会、中小企業団体中央会、中小企業家同友会、神戸商工会議所、姫路商工会議所、はりま産学交流会、みなと銀行、池田泉州銀行、神戸信用金庫、姫路信用金庫、西兵庫信用金庫、播州信用金庫、兵庫信用金庫等
- ・地域連携活動: 姫路市、豊岡市、高砂市、宍粟市、淡路市、丹波市・兵庫県丹波県民局、神姫バス等

大学名	神戸市外国語大学
事例	神戸市教育委員会との連携協力とアクションプラン

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link	
Enhance	
Assure	
Develop 地域の可能性を開発する	神戸市内の小中高校で英語を教えている教員の知識と指導力の向上を目指し、大学教員による研修の実施や大学の授業を見学できる機会を提供し、教員の能力を高めることで、児童や生徒の英語への関心や学習意欲を高め、子どもたちが国際都市市民であることを自覚し、国際人としての意識づけや友好センスを高める一端を担っている。

神戸市外国語大学 神戸市教育委員会との連携協力とアクションプラン

神戸市外国語大学では、2008年8月27日に神戸市教育委員会と、相互の人的・知的資源の交流活用を図り、相互に有意義と認められる諸事業を行うことにより、相互間の教育・研究の充実及び発展に資することを目的に、連携協力に関する協定を締結しました。

その翌年(2009年)、この連携協定書の趣旨に基づき、双方がこの協定書に記された内容を推進していくにあたり、既に実施中の事業等も含め内容を具体化し、着実に実施するための計画を定めるものとして、アクションプランを策定しました。また最近の英語教育開会区の動向を踏まえ、当初のアクションプランを見直し昨年度(2016年)に改訂を行いました。

●アクションプランの体系

アクションプランは、4つの柱を中心に、具体的な15の実施項目により構成されています。

神戸市立学校の教員に対する英語及び英語教授法の学習機会の提供	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語指導及び教育実践に係る中・高教員研修の実施 2. 小学校における英語教育に係る教員研修の実施 3. リカレント教育の神戸市立学校教員への推奨 4. 英語科教員免許更新講習の実施
児童・生徒・学生らの国際交流に関する理解の推進	<ol style="list-style-type: none"> 5. サマースクールなどによる生徒の国際理解の促進 6. 近隣小学校の大学訪問等による児童の国際理解の推進 7. ALTの協力による学生の語学力向上
大学院学生・学部学生等による神戸市立学校教育活動への支援の推進	<ol style="list-style-type: none"> 8. 市教委の制度による外大生の市立学校への派遣 9. 外大生による小学校英語教育活動支援
神戸市立高等学校教育の振興	<ol style="list-style-type: none"> 10. 外大教員・学生による幅広い領域での市立高校授業支援 11. 市立高校生の外大訪問の積極的受入れ
その他の連携	<ol style="list-style-type: none"> 12. 教員間の交流の推進 13. 外大生の教員養成における連携 14. 教育内容の充実に向けた共同の取り組み 15. その他の幅広い交流

●過去の実施例



小学校外国語活動基本研修



中学生イングリッシュ・サマースクール



近隣小学校の大学訪問



英語教育オープンクラス



神戸イングリッシュ・フェスティバル

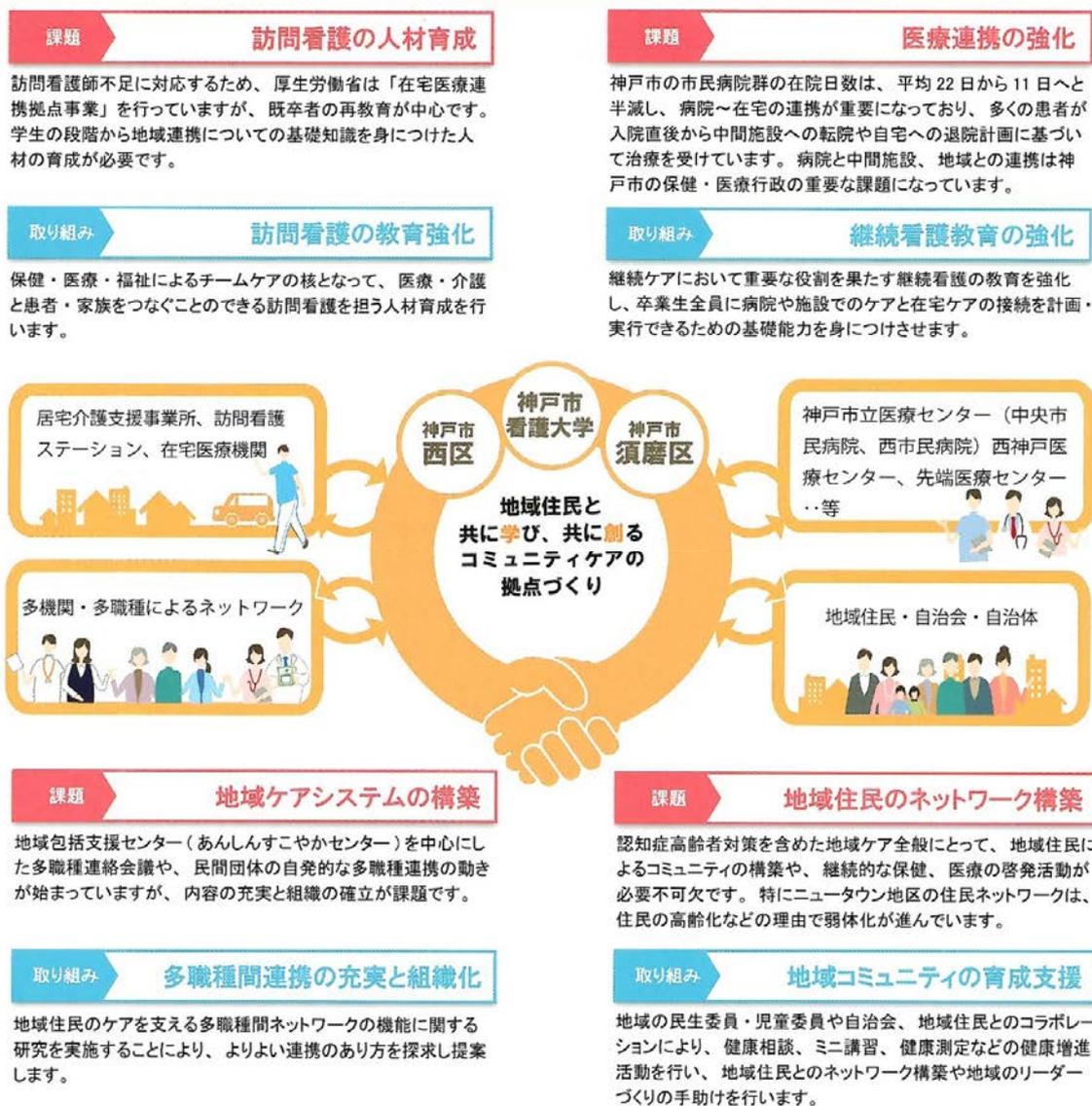


クリスマスチャリティイベント

大学名	神戸市看護大学
事例	「地域住民と共に学び共に創るコミュニティケアの拠点づくり」の取り組み

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	大学が、地域団体・自治体と連携し、「地域住民と共に学び共に創る」ことで、地域包括システムや住民ネットワークを構築する。
Enhance 地域の財産を発展させる	大学における訪問看護や継続看護、多職種間連携の研究、専門看護師の育成などによって地域住民のネットワークを構築し、コミュニティケアの拠点づくりを行う。
Assure 地域のいのちを守る	地域住民の暮らしを理解できる人材を育成し、地域住民の健康を守る。
Develop 地域の可能性を開発する	地域住民とのコラボレーションにより地域のリーダーづくりの手助けを行うことで、新たな地域コミュニティの育成を支援する。

「地域住民と共に学び共に創るコミュニティケアの拠点づくり」の取り組み



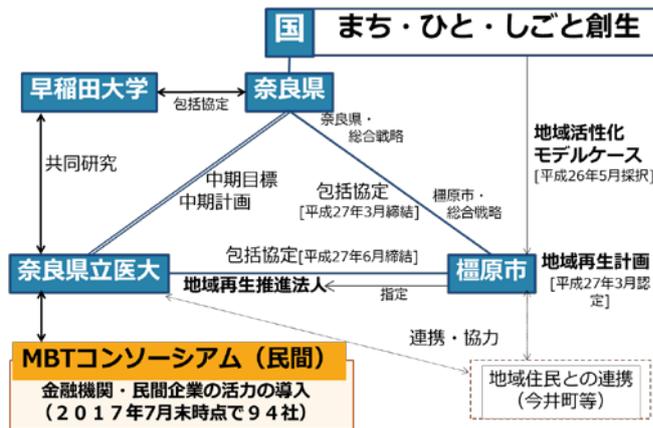
※平成27年度からは「大学による地域創生推進事業」にも参加しています（～平成31年度）

大学名	奈良県立医科大学
事例	MBT – 医学を基礎とするまちづくり

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	医療・介護・交通・観光を統括するプラットフォームを提供することにより、地域内、地域間をつないだ地方創生を実施することとしており、持続可能な社会の実現を目指している。
Enhance 地域の財産を発展させる	ライフログデータを活用し、共同研究を促進するとともに、奈良医大や関連施設をあらゆる産業の実証の場として提供し、企業誘致を促進している。
Assure 地域のいのちを守る	病院近接型まちづくりの構築、未病・急性期・回復期・維持期・退院後の生活までを担う地域包括ケアの実践、次世代の在宅復帰支援モデルや在宅医療モデル、遠隔医療モデルの提案を行っている。
Develop 地域の可能性を開発する	MBT の概念は世界に類の無いものであり、成果を世界に発信することとしており、これまで存在しなかった新たな価値を創造し、地域を開発している。

MBT (Medicine-Based Town) – 医学を基礎とするまちづくり

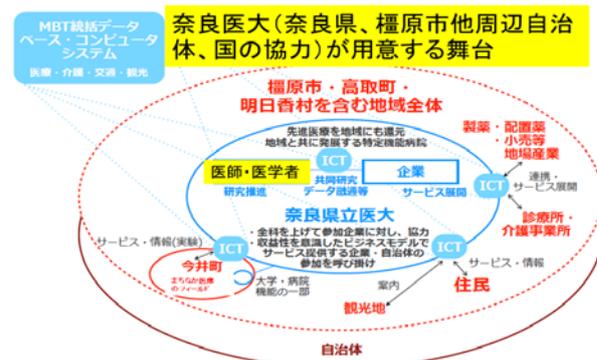
MBT (Medicine-Based Town, 医学を基礎とするまちづくり) は、「住居医学」と「MBE」(Medicine-Based Engineering, 医学を基礎とする工学・産業) の体系の統合であり、超高齢社会に対応したまちづくりを行うと共に、新産業創生と、地方創生を行うことを目的としている。これまで医師は患者に対し一対一で対応してきたが、医師・医学者の持つ知識は膨大であり、この医学的知識を新しいコンセプトのまちづくりを通して、新しい製品開発をはじめ産業そのものの創生に生かす。



MBT の実行項目

- 1. 未病・急性期・回復期・維持期・退院後の生活までを担う地域包括ケアの実践**
地域コミュニティやプライマリケアを担う病院・診療所と連携し、切れ目のない医療・介護・日常生活のサービスを提供し、さまざまな健康・医療に関するデータを蓄積・解析し、地域住民の健康増進のモデルをつくる。
- 2. 次世代型ICT システムの導入**
ICT 分野で実績のある企業と協力し、次世代の在宅復帰支援モデルや在宅医療モデル、遠隔医療モデルを提案する。
- 3. MBT バンクのデータ活用・民間企業との医工連携の促進と企業誘致**
健康・医療に関するさまざまなデータを活用し、共同研究を促進すると共に、奈良医大や関連施設をあらゆる産業の実証の場として提供する。企業誘致を促し、現場でのニーズを吸い上げ、企業と地域、双方が成長できる場を構築する。
- 4. 医療と観光**
医療(健診)と観光を一体化し、飛鳥地域における医療ツーリズムを促進する。重要伝統的保存地区内の町家を再生し、人も家もコミュニティも元気にするまちづくりを進める。
- 5. 病院近接型まちづくりの実践**
奈良医大のキャンパス移転に伴い、関連施設を病院周辺に整備し病院と結ぶ。

MBT実現のプラットフォーム



大学名	奈良県立大学
事例	県内大学生による小規模宿泊施設支援事業

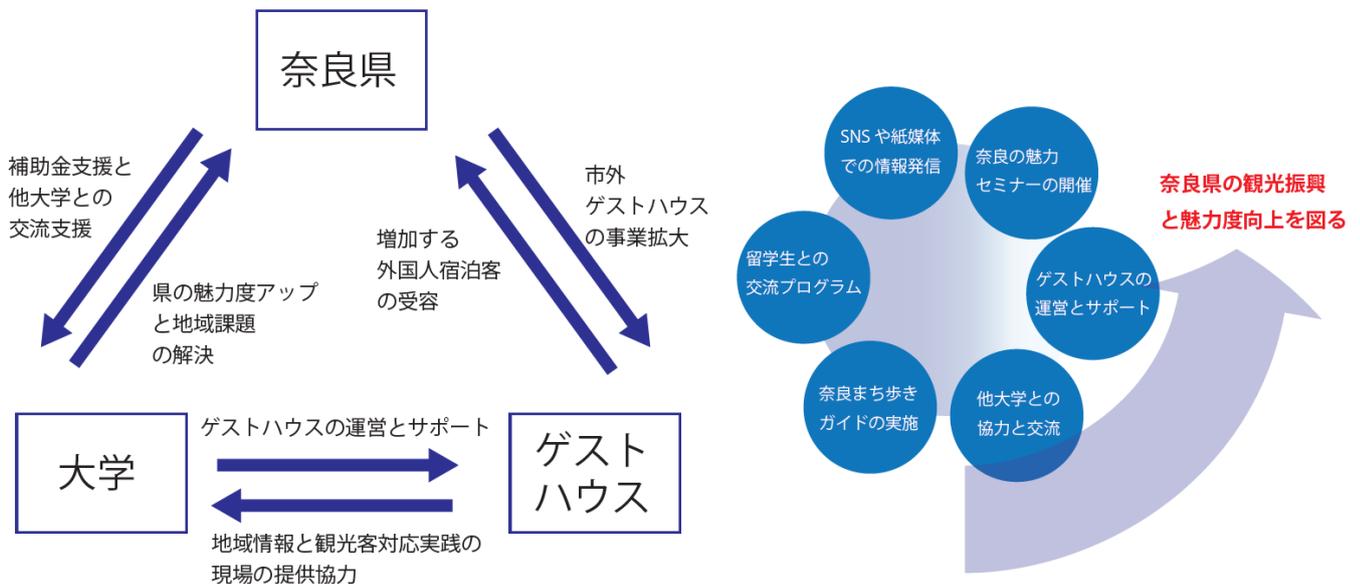
「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	地域のゲストハウスと連携し、その魅力を伝えることで、近年急増している観光客の利用を促す一助としている。
Enhance 地域の財産を発展させる	数多くの社寺や文化財の価値を全国各地や世界の旅行者に理解してもらうことで、地域財産の付加価値を高めている。
Assure	
Develop 地域の可能性を開発する	増加する外国人旅行者に対して、小規模宿泊施設がどのような役割を果たすことができるのか、その可能性を見出している。

県内大学生による小規模宿泊施設支援事業

奈良県のゲストハウスの魅力を向上することで、奈良県の観光振興を目指す取り組み。

本学学生有志 23 名からなる団体「ならなら」と奈良県による共同事業として、ゲストハウスの運営サポートのほか、外国人宿泊客（バックパッカー）を対象にゲストハウスを起点とした「奈良まち歩きガイド」を企画・実施するなど、小規模宿泊施設を活用した奈良県独自の観光のあり方を考案した。

現在は「奈良まち歩きガイド」がサークルとして活動を継続し、近年急増する外国人観光客に対して「魅力ある奈良」を提供している。



大学名	和歌山県立医科大学
事例	緊急時医師派遣・若手医師支援事業(地域医療学講座)

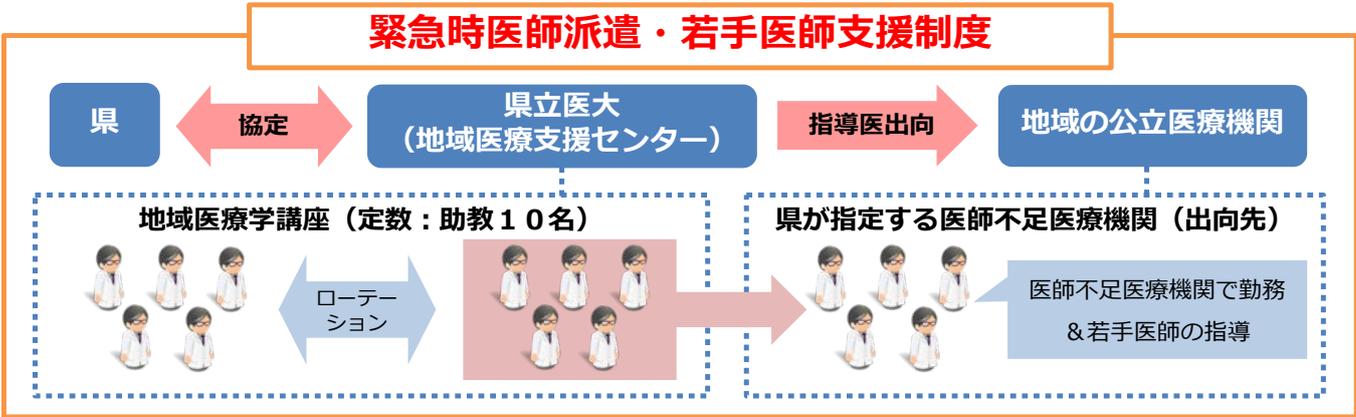
「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link	
Enhance	
Assure 地域のいのちを守る	本学の教員等が自治医科大学や本学地域医療枠等を卒業した若手医師が勤務する医師不足医療機関にローテーションで出向し、当該医療機関で勤務するとともに、同じく勤務する若手医師の指導を行うことにより、若手医師のキャリア形成及び医師不足医療機関を支援する。
Develop	

＜和歌山県立医科大学＞ 緊急時医師派遣・若手医師支援事業(地域医療学講座)

本学医師が各地の医療機関で勤務し、医師不足解消や若手医師のキャリア形成支援に貢献

- 県内医師の約55%が和歌山市（県庁所在地）に集中し、医師の地域偏在が顕著
 - ① 県内公立病院の医師不足
 - ② 県内のへき地等で勤務する本学地域医療枠卒業医師等の指導医不足

【概要】
 本学の教員等が自治医科大学や本学地域医療枠等を卒業した若手医師が勤務する医師不足医療機関にローテーションで出向し、当該医療機関で勤務するとともに、同じく勤務する若手医師の指導を行うことにより、医師不足医療機関及び若手医師のキャリア形成を支援する体制を構築しています。



大学名	島根県立大学
事例	しまね地域マイスター認定制度

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	しまね地域マイスター認定制度は、島根県立大学地域のあらゆる分野へ精通した学生を認定する本学独自の制度である。卒業時に、自ら地域の課題に対して向き合い、考え、課題解決に向けた行動力のある人材として、社会に飛び出すことができることを目標にしている。
Enhance	
Assure	
Develop	

地域で活躍する人材を育てる「しまね地域マイスター」認定制度

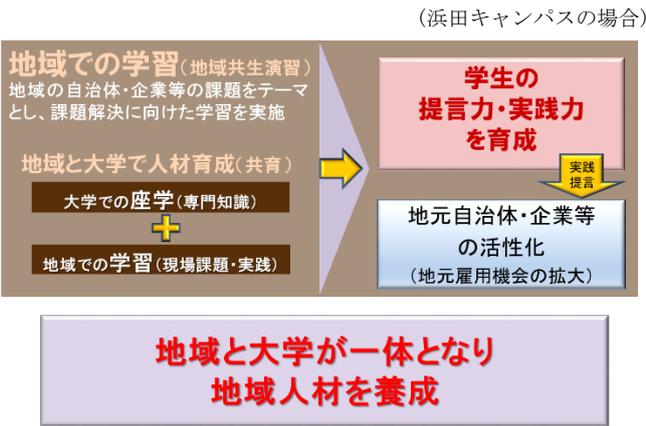
島根県のさまざまな分野において、課題解決能力をもった学生を認定する、本学独自の制度。

目標

卒業時には、自ら地域の課題に対して向き合い、考え、課題解決に向けた行動力のある人材として、社会に飛び出すことができること。

島根県との連携

- 「しまね地域マイスター」認定制度
「しまね地域共生学入門」「地域課題総合理解」「地域共生演習」「地域共生卒業研究」等での教育・研究連携
- 「島根県・島根県立大学連携企画会議」「島根県・島根県立大学連携調整会議」を通じた連携の強化
- 「インターンシップ等受入企業改善提案事業」等による企業の活性化、学生の地元定着、産学連携強化



《認定制度の位置付け》

「しまね地域マイスター」認定制度が地域との関係において果たす役割

- 地元地域と大学(学生)との連携の拡大・強化
- 地域における学生の「共育」の実践
- 地元地域への就職の促進 など

地元就職への環境づくり

地元自治体・企業等	島根県立大学
<input type="checkbox"/> 課題の提供 <input type="checkbox"/> 地域学習での連携 <input type="checkbox"/> 卒業後の受け皿の整備	<input checked="" type="checkbox"/> 島根地域の課題に精通し実践力のある人材を育成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学習を通じて島根に愛着を感じる学生を増やす

↓

地域学習を経た学生の地元就職ルートの開拓

↓

地域と学生の共通意識の醸成

↓

県内就職の促進へ

その実現のため、本学では……

- 「島根県立大学支援協議会」への支援要請
- 企業・自治体等への制度説明 などを行っています。

大学名	岡山県立大学
事例	地域で学び地域で未来を拓く‘生き活きおかやま’人材育成事業

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	様々な関係機関を結んでネットワークを構築するとともに、地域の価値をつなげる人材の育成を行っている。
Enhance 地域の財産を発展させる	地域の歴史資産、伝統的な文化、食文化を発展させ、観光、街づくりを行い、地域資源を活用した活性化の活動を行うとともに、地域の財産を発展させる人材の育成を行っている。
Assure 地域のいのちを守る	地域の包括ケアシステムの改善、実施などを行い、安全・安心な生活基盤づくりを行うとともに、地域のいのちを守る人材の育成を行っている。
Develop 地域の可能性を開発する	地域産業の振興、企業人の経営力の向上、技術力の向上を支援するとともに、地域の可能性を開発する人材の育成を行っている。

地域で学び地域で未来を拓く ‘生き活きおかやま’人材育成事業

若者の地域定着率向上

岡山県立大学モデルの構築

学 官
民 産

教育 産学 域学

地域を志向する人材の輩出とその受け皿づくり

副専攻カリキュラム「岡山創生学」

学士の学位を取得するために学部、学科で設定された主要専攻のカリキュラムとは別に、社会に対する視野を広げ、柔軟な発想力や応用性を養うことを目的に設定された副専攻のプログラムです。主体的に興味のある分野について、地域で学際的、横断的に学びます。

課題発見と解決への動機付けに始まり、課題解決に向けた実践的な取組、そして学部教育への連携へと、年次による段階的なカリキュラムを編成しています。

定められた科目を履修して、単位を取得し、修了が認定されると「地域創生推進士」の称号が授与されます。社会の中で地域が果たす役割を考え、地域のニーズや課題を発見し、その課題に向き合い、解決できる知識や技術を身につけ、社会で活躍することが期待されます。

副専攻修了 ▶ 「**地域創生推進士**」の称号
—地域「おかやま」で専門分野を活かす—

「高める」	地域インターンシップ エンタテインメント チームカバ/ナビリティ演習 デザインプロジェクト演習
「学ぶ」	地域再生実践論 地域協働演習 地方自治論 他
「知る」	おかやまを学ぶ おかやまボランティア論 おかやまボランティア演習

【主専攻】 学士課程カリキュラム

地域活動の拠点「地域創生commons」

地域創生commons まいわ (H28.4 設置)

地域創生commons ひげん (H28 年度予定)

地域創生commons そらじや (H28 年度予定)

地域創生commons かさおか (H28.12 予定)

地域創生commonsは、事業協働機関である総社市、笠岡市、備前市、真庭市に設置され、参加大学や自治体、NPO 団体等が連携して、活動する拠点となるものです。

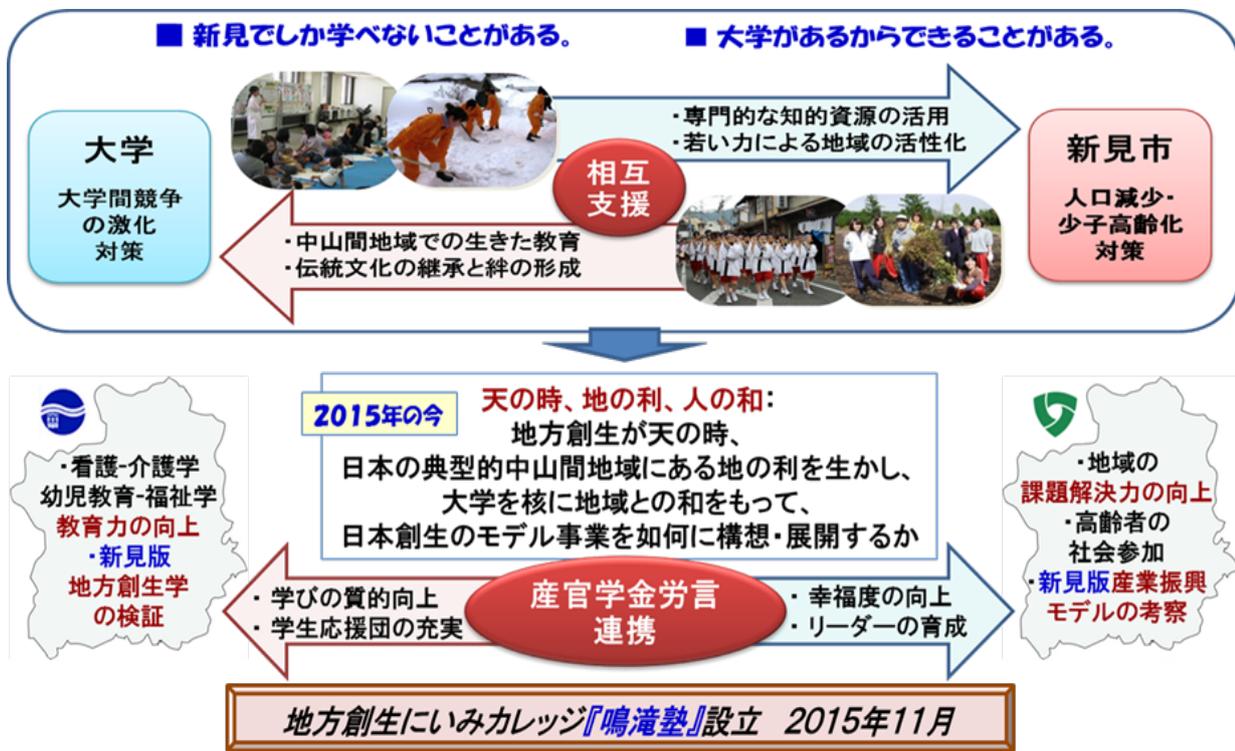
地域課題の掘り起こしや解決策に対して、岡山創生学の地域実践科目との連携も図りながら学生の参加を促し、地域を志向した教育を推進します。

また、地域の様々な分野の方々との交流の場としての機能を構築し、地域や産業のニーズに対して、参加大学の持つ研究シーズを有効活用しながら、地域活性化に貢献します。

大学名	新見公立大学
事例	産官学民連携による地方創生への取り組み

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	人口3万人、高齢化率40%の中山間地域にある公立大学として、大学が核になって諸機関との連携を進め、中世新見庄からの歴史・文化を継承した街づくりに取り組む。
Enhance 地域の財産を発展させる	地域の「お宝」の再発見とその活かし方を新たな視点で検証し、地方創生モデル事業を構想・展開する。
Assure 地域のいのちを守る	こどもの健やかな成長・発達、心の豊かさの向上、高齢者の健康寿命の延伸を目指し、地域住民の心と体の健康を支援する。
Develop 地域の可能性を開発する	課題先進地域にある地の利を生かし、産官学民の連携で中山間地域のモデルとなる地域包括ケアの深化・地域共生社会の構築を行う。

新見市と公立大学の発展に向けて - 新見市全域を学びのキャンパスに -



『鳴滝塾』: 毎月の定期塾、隔月の特別講演(新見市からの委託事業として実施)

地方創生にいみカレッジ設立記念特別講演会
地域連携の継続実現に向けて

第3回 地方創生にいみカレッジ『鳴滝塾』特別講演
お宝探しと生の生かし方
お宝のアランピングには固有名詞!

第9回 地方創生にいみカレッジ『鳴滝塾』特別講演
竹ノ谷養牛和牛ルネサンス
～岡大農場の試み～
和牛のルーツ千屋牛の振興策

第10回 地方創生にいみカレッジ『鳴滝塾』特別講演
「ないものはない」
新見市からの試み

第11回 地方創生にいみカレッジ『鳴滝塾』特別講演
『新見公立大学からのメッセージ』
新見市と大学の持続可能な未来に向けて

講師のご紹介

- 小嶋 光彦 (新見市市長)
- たま 駅長 (JR新見駅)
- 杉山 慎爾 (新見公立大学学術交流センター長)
- 地域デザイン学会理事
- 舟橋 弘晃 (岡大農場)
- 岡大農場発「千屋牛」
- 山内 雄謙 (農林水産省)
- 海士町町長
- 公文 裕巳 (新見公立大学学長)

大学名	県立広島大学
事例	経営系専門職大学院の設置

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	“コモンズマネジメント”の分野では、ネットを含めた共有の場としての「コモンズ」のマネジメント能力を養成する。
Enhance 地域の財産を発展させる	“地域資源マネジメント”の分野では、農林水産業を含む地域の自然資源のマネジメント能力を養成する。
Assure 地域のいのちを守る	“ヘルスケアマネジメント”の分野では、人々の多様なニーズに応えた医療介護保障のマネジメントの能力を養成する。
Develop 地域の可能性を開発する	本学経営専門職大学院では、上記の3分野に加えて、社会のスピードに合わせてアドホックに設定された“特別テーマ”を通して、地域あるいは世界で求められる次世代型リーダーの育成・輩出を目指す。

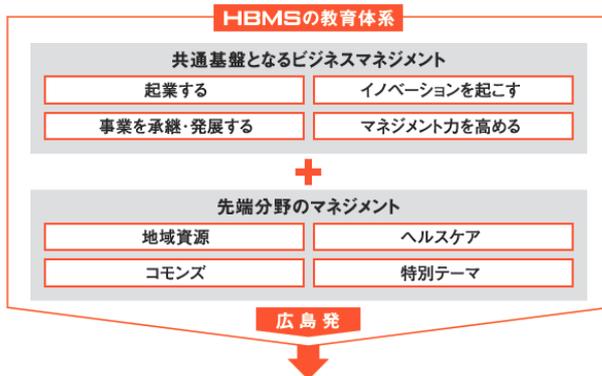
中国地方初の「経営系専門職大学院」を開設(平成28年4月)



Mission Statement

ミッションステートメント

HBMS(Hiroshima Business and Management School)では、<起業する>、<イノベーションを起こす>、<マネジメント力を高める>、<事業を承継・発展する>といったビジネスパーソンのニーズに応えたマネジメント力の育成に加え、社会の大きな変化を捉えた先端的マネジメント力の開発によって、日本の地域あるいは世界で求められる次世代型リーダーを育成、輩出することを目指します。



多様性と共有価値をマネジメントする次世代ビジネスリーダーの育成

地域資源マネジメント	農林水産業を含む地域の自然資源のマネジメント
ヘルスケアマネジメント	人々の多様なニーズに応えた持続的な医療介護保障のマネジメント
コモンズマネジメント	ネットを含めた共有の場「コモンズ」のマネジメント
特別テーマ	専門的かつ先端的なビジネスやマネジメントを極めるための時代を捉えたテーマ

【参観者】43名

広島県7名、広島市5名、三原市2名、府中市3名、庄原市3名、府中町2名、坂町2名、北広島町1名、大崎上島町1名、県内医療機関関係者15名 等

(写真は講義の様子)



◆HBMS概要

- 入学定員：25名
- 修了要件単位数
34単位(論文提出不要)
- 学位名称
経営修士(専門職)
Master of Business Administration (MBA)
- 授業時間：平日18:30-21:30
土曜 9:00-19:30

〔横山禎徳 研究科長メッセージ(抜粋)〕

HBMSは、新たな時代の到来に回答するビジネスやマネジメントを組み立てることを目指しています。分断された領域の協働や再統合を行うことで、昔からの生活基盤であった地域の「コモンズ」に加え、グローバルに展開する新たな「コモンズ」の形成に貢献する人材を輩出するためのプログラムを多面的に提供します。

◆事例◆〔ヘルスケア〕

「地域の医療介護総合確保のマネジメントを考える」

授業(集中講義)の一部を県内の自治体及び医療介護機関の関係者が参観できる特別企画(H29・9)

【参観講義のテーマ】

- 地域医療改革の行方
- 医療介護総合確保推進
- 医療介護需給のマッチングを支援するITシステム
- 地域医療構想推進時における病院経営の在り方
- 医療システム・デザインについて

講師はHBMS教授陣に加え、厚生労働省において地域包括ケアシステム構築の法令を指揮された元老健局長、静岡県で医師会と協働して地域包括ケアを支援する情報システム開発の実績を有する企業の顧問、全国的に名の知られる病院経営のコンサルタントなど、医療介護総合確保に助言する第一人者が担当

大学名	広島市立大学
事例	基町プロジェクト

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	広島開基の地という「地域の視点」においても、また、被爆地という「世界史的視点」においても、基町に学ぶべきことは多く、それらをデザイン・アート視点から再価値化するために、広島市、地域住民と連携したプロジェクトを進めている。
Enhance	
Assure 地域のいのちを守る	基町アパート設計時の歴史的な創意工夫や、同地区成立の社会的背景・意義を、被爆 100 周年に向けて再構築して地域の活性化に寄与し、地域住民の文化的生活を支援している。
Develop 地域の可能性を開発する	住宅地区の活性化という視点に加え、広島の復興の歴史を未来の創造に連結する視点を組み合わせ、若者が地域において新しく魅力的な活動を行うための環境づくりを行っている。

広島市立大学 基町プロジェクト

「基町プロジェクト」は、若者が主体となった創造的な文化芸術活動や地域交流を通じた、まちの魅力づくりや、基町住宅地区の活性化を目的とします。平成 25 年 7 月に広島市が地元住民と連携しながら策定した「基町住宅地区活性化計画」に掲げている「基町アートロード、アートによる魅力づくり」の実現を目指す取組です。実施にあたり広島市立大学と広島市中区役所が連携し、平成 26 年度から試験的な活動を開始し、「基町プロジェクト～施策展開を図っていくための方向性と基本コンセプト～」を策定しました。平成 27 年度より同書に基づいて長期的な目標を見据えたプロジェクト活動に取り組んでいます。また、本プロジェクトは、広島市が平成 27 年に被爆 70 周年を迎えるにあたり、被爆 100 周年を見据えて実施する「まちづくり先導事業」の 1 つに選定されました。さらに、平成 27 年度より、本学が実施校である文科省 COC+ 事業の取組の 1 つとしても位置付けられました。motomachiproject.net

基町住宅地区：原爆ドームの北側約 1km に位置する、広島における戦後復興を象徴する地区。全体が市営住宅を形成。市営アパートに加え、商店街や病院、学校なども配されるが、近年は、少子高齢化や商業停滞など様々な地域課題がある。歴史的には、広島城の一部（基町の名前の由来）であり、また、陸軍第 5 師団（住宅地区周辺は陸軍病院）が置かれ、被爆後は、応急住宅が立ち並ぶなど、平和記念公園と並んで広島重要な地区。

取組事例（一部抜粋）

- もとまちカフェ**
本学と広島修道大学の学生が協働し主体的に取り組む、基町地区内外交流カフェ（イベント型）の企画・運営。
- トークイベント・シンポジウム**
気軽に参加できるトークイベント（月 1 回）や、市職員や専門家を交えたシンポジウム等を実施。
- 基町、昔の写真展**
戦後復興の現場であった、基町地区の古写真を住民等から提供いただき展示（H29 度 3 回目）。
- 建物ツアーの実施**
広島の復興の総仕上げと言われる「基町高層アパート」は、それ自身が広島を象徴する地域資源の 1 つ。
- 基町 Re: デザイン**
基町住宅地区内のサイン等リニューアル提案プロジェクト（H29）。H30 年度以降、サイン設置を目指す。
- 作品展示**
使われていないショーウィンドウを、学生・留学生・若手クリエイターの展示会場として整備・運営（H29 より）。

実施実績 平成 26 年度：モデル事業プログラム（15 プログラム）、地域交流プログラム（6 プログラム）、地域行事への参加（3 プログラム）
平成 27 年度：《学びの場》創出プログラム（23 プログラム）、《創造の場》創出プログラム（3 プログラム）、《交流の場》創出プログラム（3 プログラム）
平成 28 年度：《学びの場》創出プログラム（25 プログラム）、《創造の場》創出プログラム（6 プログラム）、《交流の場》創出プログラム（9 プログラム）

大学・行政・地域の関係



【時系列ビジョン】3 つの場《学びの場》、《創造の場》、《交流の場》を作ることで、地域の魅力作りや活性化を目指す。芸術学部の強みを生かし《創造の場》に注力する。

1. 《学びの場》	2. 《創造の場》	3. 《交流の場》
<p>若者の連携・交流 地域の人材育成</p> <p>短期</p> <p>2015 →</p>	<p>（クリエイターの滞在制作）の整備</p> <p>中期</p> <p>← 2020 →</p>	<p>若者が創出し、長く基町</p> <p>長期</p> <p>← 2045</p>
<p>大学・学校間の連携・交流（授業内外での協働体制を構築）</p> <p>●広島修道大学と連携し、モバイルカフェイベント実施。</p> <p>●基町小学校生徒対象、ワークショップ等実施。</p> <p>●地域住民や専門家等を交えたトークイベント等実施。他</p>	<p>大学・学校間の連携・交流（授業内外での実習体制の整備）</p> <p>●国内外他都市の大学との交流連携：地域交流を通して、地域課題に取り組むプロジェクトを実施。展示など外部にも開かれた成果発表を行う。他</p>	<p>若者が創出し、早く基町</p> <p>○広島市被爆後復興の現場を、体系的に伝える拠点整備。及び、基町住宅地区の総課題に取組むことを通じ、多様な若者が多く集まり交流する拠点を形成。他</p>
<p>商店街の公共デザイン整備</p> <p>●学生・若手クリエイター対象、実践型プログラム実施。</p> <p>●高層ビル新設直後の設置（若者が活動する空間）</p> <p>●創作・交流・展示空間等のデザイン・整備。他</p>	<p>（クリエイターの滞在制作）の整備</p> <p>○アーティストやクリエイター等が、基町住宅地区に滞在し作品制作し、最後に作品展示を行う。クリエイターによるワークショップ等、地域還元をセット行う。他</p>	<p>若者が創出し、長く基町</p> <p>○創造的な文化芸術活動を支援する環境を整備。商店街などを活用し、若者が仕事（特に創造的な文化芸術活動）を行うことで、収入を得ることが出来る環境をつくる。他</p>
<p>作品展示（基町について幅広い人に知らせる）</p> <p>●基町、昔の写真展（基町歴史トーク、ワークショップ）。</p> <p>○制作をテーマにしたシンポジウム作品制作。</p>	<p>来訪者の呼込（学びの場）創出の場から得られる成果を発信）</p> <p>○道具の歴史を伝える基町の紹介（展示やイベント）。</p> <p>○若者を中心とする創造的文化芸術活動の発信。</p>	<p>若者が創出し、長く基町</p> <p>○学生・若年世代にも魅力のあるアパートの運営。ホテルの運営：コルビュジエのユニニ・タピシオン（マルセイユ）の事例でアパートのモデル活用事例がある。他</p>
<p>地域資源の再発見と活用により人の交流を促進</p>	<p>広島市 被爆 70 周年</p> <p>東京オリ・パラ</p>	<p>広島市 被爆 100 周年</p>

ビジョンにした項目は、公営住宅にかかわる規制に際して、広島市が国と関係機関と折衝して条件が整うことを待つ必要があるものや、財源が確保できないと実施できないものも含んでいる。

大学名	尾道市立大学
事例	地元尾道市との地域連携

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	過疎化が進む尾道で若者と地域を結びつけるために、授業や課外活動で地域課題と向き合い、地域活性化について学生が主体となって取り組むように働きかけている。
Enhance 地域の財産を発展させる	公開講座「尾道学入門」や「尾道文学談話会」で、地元尾道についてオムニバス形式で学び、地域の更なる魅力の発見に貢献している。
Assure 地域のいのちを守る	災害時において、地域との協力体制を明確にし、迅速に対応できるよう協定化し、住民の安心・安全の促進に取り組んでいる。
Develop 地域の可能性を開発する	学生目線で尾道の地域資源の開発に取り組み、新たな尾道の魅力の発掘や創造を行っている。

尾道市立大学～尾大地域活性化、地域連携プロジェクト～ 尾道市立大学

地域活性化事業

- 地域活性化企画
美術学科デザインコースの3年生が尾道をテーマに作品を制作。今年度15回目の開催となり、毎年継続的に行っています。平成28年度には学生が「尾道の色」をデザインし、地元企業によってマスキングテープとして商品化されました。
- 空き家再生プロジェクト
地域課題の一つである空き家再生プロジェクトに学生・教員が一丸となって参加し、課題解決に取り組んでいます。
- 灯りまつり
今年度で14回目となる、尾道のまちを約3万4千個のぼんぼりが彩る「尾道灯りまつり」で本学光アート研究部の学生がぼんぼりの配置をデザインしています。
光アートの研究でぼんぼり配置のデザインを行っていた光アート研究部の活動が発端で、尾道市と連携して開催しています。



公開講座

地元住民を対象とした公開講座を定期的で開催。平成28年度は44講座を開講し、地元尾道市について、歴史・文化、経済の面からオムニバス形式で学ぶ「尾道学入門」や「尾道文学談話会」などを開催し、積極的に地域の情報発信に取り組みました。

- 平成28年度公開講座
- ・尾道学入門公開授業 囲碁の魅力 — 本因坊秀策の生地にて —
 - ・尾道学入門公開授業 尾道の思い出
 - ・尾道文学談話会 人にもものを頼む表現 — 『放浪記』から —
 - ・尾道文学談話会 和田竜『村上海賊の娘』の魅力について
 - ・公開ゼミナール 尾道の古文書解説講座（初心者対象）



尾道市との災害協定の締結

平成29年1月27日、尾道市と災害時における協力体制に関する協定を締結しました。災害時に避難所等への学生・教職員ボランティアの派遣、また、避難場所として施設・設備を提供していきます。



大学名	福山市立大学
事例	「知(地)の拠点」福山市における連携事業の推進

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	福山市の持続可能な発展に向けたまちづくり関連情報の体系化など、高大連携事業(大学と高校が連携・協力して取り組む教育活動)に取り組んでいる。
Enhance 地域の財産を発展させる	高齢化が進む郊外団地における多様な居住スタイルの開発と地域再生に寄与している。
Assure 地域のいのちを守る	福山市における子どもの生活実態調査・発達支援の研究などを通して、地域の子どもの生活支援を行っている。
Develop 地域の可能性を開発する	福山市の産業において多文化共生と国際交流を推進し、地域における新しいビジネスを探究している。

キャンパスは街 多様な主体との連携



地域連携 (中心市街地の活性化)



大学間連携 (グローバル海外研修)



市との連携 (子育て支援事業)

■企業と学生のコラボで不動産ビジネスの新展開

福山市東部の伊勢丘団地内にある「スターハウス」。
市内の宅地開発会社と連携し、学生によるアイデアでシェアハウスにする事業が実施されました。
完成後は学生たちが実際に暮らしながら改善点などを探っています。



スターハウス



リノベーション研究会

■新しい交通政策「モビリティ・マネジメント」と福山市における取り組みの紹介

福山都市圏交通円滑化総合計画推進委員会事務局(国土交通省福山河川国道事務所、広島県東部建設事務所、福山市都市交通課)との協働により、本学教育研究交流センター公開講座「新しい交通政策『モビリティ・マネジメント』と福山市における取り組みの紹介」を開催するなど、新しい交通政策「モビリティ・マネジメント」の市民への理解を広げています。



公共交通網に対する意見出し

■産学官共同研究～水道事業の経営健全化に向けて～

- ◇研究テーマ「福山市水道施設におけるエネルギー最適化ソリューションに関する研究」
- ◇研究者(産・学・官) JFE エンジニアリング株式会社・福山市立大学・福山市上下水道局
- ◇研究成果目標
 - 福山市水道施設における最適運転管理システムの確立
 - 電気・薬品使用量削減による究極の省エネを実現
 - 運転自動化による安定的な運転管理の実現



学生とともに水質調査

■高大連携事業「地元高校生が考える福山駅前再生計画！」

「大学の知」を生かした連携プログラムを実施することにより、高校生に大学への理解を深め、さまざまな学問領域への興味や関心を育てることや、学習意欲の向上など、次代の人材育成に取り組んでいます。「地元高校生が考える福山駅前再生計画！」をテーマに、大学教員による出前講座や大学生とのワークショップ、キャンパスツアー、福山駅前周辺でのまち歩き、大学祭で学習成果の最終発表など、多様な学習プログラムを展開し主体的に学びを深めています。



高校生とのワークショップ

大学名	山口県立大学
事例	健康福祉社会づくり研究

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link	
Enhance	
Assure 地域のいのちを守る	県政の重要な課題である「県民の保健・医療・福祉を支える人材の確保と質的向上」に対応して、「地域における包括的ケアシステムの構築」など、県民の健康づくりに資する総合的な研究を行い、県民のための健康福祉社会づくりに貢献している。
Develop	

【共生研究部門】

健康福祉社会づくり研究

中山間・過疎地域の「地域包括ケア」を展開する「地域ケア会議」の組織化・運営の実践モデルと人材育成プログラムの開発

山口県の中山間地域における「地域包括ケア」の基盤構築支援に関する総合的研究

2 012年の介護保険法改正により、県及び市町には高齢者支援の仕組みとしての「地域包括ケア」を推進することが求められ、まず推進拠点となる地域包括支援センターの機能強化の支援をすることが喫緊の課題となっています。

「地域包括ケア」とは地域住民に対し、保健サービス(健康づくり)、医療サービス及び在宅ケア、リハビリテーション等の介護を含む福祉サービスを、関係者が連携協力して、地域住民のニーズに応じて一体的・体系的に提供する仕組みです。すなわち、ソフト(事業)面では、その地域にある保健・医療・介護・福祉の関係者が連携してサービスを提供するものであり、ハード面では、そのために必要な施設が整備され、地域の保健・医療・介護・福祉の資源が連携、統合されて運営されていることです。

支援策の枠組みとしては、「地域包括ケア」の基盤となる「システム・ネットワークの構築」「人材の育成及び支援技術の開発」及び「地域住民の主体的参加の促進」等があげられますが、それらは地域の実状や特性に合わせて、官民一体となって構築する必要があります。特に山口県は中山間地域を広く有していることから、地域の特性を考慮した、都市型とは異なる「地域包括ケア」のあり方をあみ出していくことが必要となります。

そこで、本研究では、中山間地域における「地域包括ケア」の推進を支援するための具体的な支援モデルを構築・実施し、その妥当性と効果を検証することを目的としました。

本年度は、地域包括支援センターの職員の皆さんの協力を得て、県内及び先進地における「地域ケア会議」の実態調査を行うとともに、「模擬地域ケア会議」を実施し、その効果測定を行いました。また、現場における実践課題を検討するための公開研修会として「地域包括ケアフォーラム」を山口県との共催で実施しました。

地域ケアフォーラム

やまぐち県民みんなで考える老後の暮らし
～地域包括ケアシステムについて考える～



平成26年2月2日

〈於〉山口県立大学



熱心にメモをとりながら聴く
約400名の参加者

【基調講演】

「地域包括ケアシステムについて考える」
ケアタウン総合研究所 所長 高室 成幸

【事例紹介】

地域包括ケアシステムの構築に向けての取組み
長門市地域包括支援センター 保健師 上野 丘恵

【シンポジウム】

「各職種の取組から考える地域包括ケア」

山口県医師会 専務理事 河村 康明
山口県介護支援専門員協会 会長 佐々木 啓太
下関市豊北地域包括支援センター センター長 吉村 直美
岡山県美咲町社会福祉協議会 地域福祉主任 丸本 幸子
ケアタウン総合研究所 所長 高室 成幸
山口県立大学 社会福祉学部 教授 横山 正博

横山 正博 (社会福祉学部)
加藤 田 恵子 (附属地域共生センター)
坂本 俊彦 (附属地域共生センター)
藤村 孝校 (看護研修センター)
前田 哲男 (附属地域共生センター)
吉村 直理 (看護栄養学部)

大学名	下関市立大学
事例	下関地域商社

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	下関市内の製品・商品の海外への販路拡大や PR に積極的に取り組むことを目的に、市内に拠点を置く「産・官・学・金」の各主体がそれぞれのノウハウを持ち寄って連携し、海外展開に関する一貫した支援を行っている。
Enhance	
Assure	
Develop 地域の可能性を開発する	下関市内の企業においても海外への販路拡大を志向する企業が増えており、アジアと近接する地理的特性の中で育まれてきた優れた製品の海外展開などを、「下関地域商社」が支援している。

下関地域商社

下関地域商社は、下関市で海外展開や貿易を進める企業を、「産・官・学・金」が一体となって、マーケティング、販路開拓、商流の構築などのノウハウや、各種技術を持ち寄り支援することにより、中小企業の体力強化や市内の雇用拡大、海外ビジネスに精通した人材育成に取り組み、地域産業の活性化に資することを目的としたバーチャル(擬似的)商社である。

下関市立大学は、ASEAN 最大級の日本食総合見本市「Food Japan 2017」において、下関地域商社が出展する下関ブースの一員として、下関市や企業と連携を図り魅力ある食品の PR と、当日会場に出展している他ブースやその国の市場リサーチを実施し、「海外の人を惹きつけるために必要な諸条件」という視点からまとめ、関係機関向けのプレゼンテーションを行う。

商金融 工機 団機 体関	<ul style="list-style-type: none"> ■ 営業 (有望企業発掘、海外展示商談会出展支援など) 金融機関や商工会議所等のネットワークを駆使し、有望企業の掘り起こしを行う。また、海外展示商談会情報や海外展開支援施策について、各取引先に必要な情報を提供し、企業と貿易関係機関との橋渡し役を担う。
貿易 団 体	<ul style="list-style-type: none"> ■ マーケティング (市場調査などの現地情報収集) 貿易関係機関が、「有望企業の現在」をリサーチ。ジェットロの持つ世界の情報ネットワークを活用した市場調査や、山口県国際総合センターを通じて、現地からの最新情報を提供。
貿易 サ ル 体	<ul style="list-style-type: none"> ■ 技術支援 (貿易相談、海外展示商談会出展支援など) 「輸出したいけど手続きがわからない」などの初期の相談から、販路開拓のキーマンとなるパートナー紹介や商談、マッチングなどのコーディネートを行う。また、海外展示商談会出展支援では準備段階から商談、フォローアップまでの実務サポートを行う。
IT 企 業	<ul style="list-style-type: none"> ■ IT戦略 (外国語翻訳やウェブサイト構築、EC展開支援など) 企業・製品情報を外国語に翻訳するサービスや、ウェブサイトでの情報発信、EC を利用した販売力強化のための情報提供や構築支援のサービスを提供。
金融 機 関	<ul style="list-style-type: none"> ■ 財務 (企業の体力診断、金融支援など) 海外展開を志向する企業の財務状況の分析や事業性の評価を行い、必要なアドバイスや融資を行う。また、海外企業との決済に関する情報提供等のサービスを提供。
市 内 大 学	<ul style="list-style-type: none"> ■ 人材育成 (市内大学との連携) 留学生や海外展開に興味のある市内大学生に向けた海外展示商談会への参加機会の提供を通じて、海外ビジネス実務の体験や市内中小企業への理解を深めるなど、人材リソースの有効活用と人材の育成を図る。

■ **プラットフォーム提供** (下関市)
下関地域商社が市内事業者の海外展開を支援する各種サービスを円滑に提供できるようにプラットフォーム機能を果たすほか、業務内容の周知を行う。



下関地域商社参画メンバー



下関地域商社
プラットフォーム
下関市産業振興部

JETRO
日本貿易振興機構(ジェトロ)



西中国信用金庫

grow LOGISTICS

GMO
クラウド

公立大学法人
下関市立大学
Shimonoseki City University

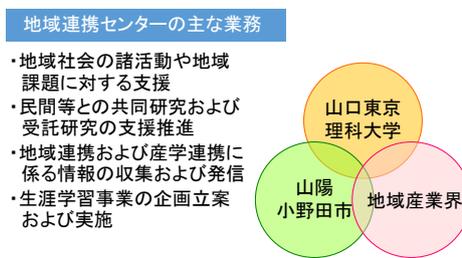
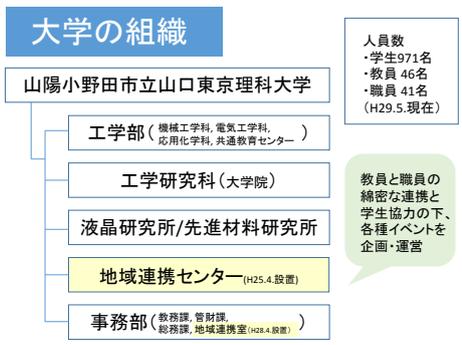
一般財団法人
山口県国際総合センター

下関商工会議所
Shimonoseki Chamber of Commerce and Industry

大学名	山陽小野田市立山口東京理科大学
事例	地域連携センター ～教職協働による地域貢献の取組事例～

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	設置団体である山陽小野田市と包括的連携協定を結び、各種の地域連携事業を自治体と共同で実施することにより、大学の取組や成果を市民と共有している。
Enhance 地域の財産を発展させる	工学系大学・研究機関として、地域企業との共同研究や技術相談により、企業の抱える課題解決を図り、地域産業の発展に貢献している。
Assure 地域のいのちを守る	平成30年度に薬学部の開設を予定しており、薬学人材の育成を通して、地域の健康寿命延伸に寄与する。
Develop 地域の可能性を開発する	「かがく博覧会」、「ほんものの科学体験講座」などを通じて、地域の子供たちに科学技術の面白さや深さを体験させることにより、その人的資質を発見・開発し、地域の人材育成の一端を担っている。

山陽小野田市立山口東京理科大学 地域連携センター ～教職協働による地域貢献の取組事例～



- ### 設置自治体との連携
- ・山陽小野田市と包括的連携協定を締結 (H18.2, H28.4.)
 - ・山陽小野田市・山口東京理科大学連携協議会を設置 (H18.6, H28.4.)
 - ・山陽小野田市産学官連携推進協議会を設置 (H28.7.)

技術相談会

- ・地域連携センターが主催
- ・企業を対象に研究室を公開
- ・地域産業界の活性化と大学の知的資源を有効活用が目的
- ・これまでに3回、年1回程度を大学にて開催
- ・技術紹介プレゼン、研究室見学ツアー、パネル展示、相談窓口などを実施
- ・市商工労働課、山陽・小野田両商工会議所の協力の下、新たな産学連携の構築を図る

かがく博覧会

- ・山陽小野田市・山口東京理科大学連携協議会が主催
- ・科学を学ぶ楽しさや驚き、感動を体験できるイベントとしてこれまで8回開催
- ・おのだサンパークにて市内の小・中学生の科学作品の展示や、市内の高校、大学、企業による実験ブースなど約30ブースを出展
- ・科学作品約200点の中から「学長賞」を授与
- ・毎年秋の土日2日間で約3,000人が来場

ほんものの科学体験講座

- ・山陽小野田市と本学との連携事業
- ・科学実験を通じて児童生徒たちにほんものの科学の楽しさを体験してもらおうのが狙い
- ・市内の小・中学生を対象に年間15回程度開催
- ・大学教員や学生を学校へ派遣、もしくは大学の実験室にて体験講座を開催
- ・これまで11年間で延べ4,000人以上が受講 (H27: 752名、H28: 646名)

- ### その他の活動
- ・理科教員のためのリカレントセミナーの開催
 - ・教育文化講演会の開催
 - ・研究シーズ集の作成、商工会会報へ記事掲載
 - ・市立図書館との相互協力、サイエンスカフェ開催
 - ・地元の祭「住吉まつり」の龍舞へ学生参加
 - ・地域密着型卒研テーマの募集
 - ・地域技術学など、地域の課題を教育へ反映 等

大学名	香川県立保健医療大学
事例	大学コンソーシアムの設置(大学等魅力づくり支援事業)

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	県内の他大学等と連携し、大学コンソーシアム香川を設置している。
Enhance	
Assure 地域のいのちを守る	効果的な広報活動や地域連携活動を推進し、保健医療における地域に根差した人材を育成することで、地域住民の健康増進に寄与している。
Develop	

大学コンソーシアムの設置 (大学等魅力づくり支援事業)

○コンソーシアムの目的
県内の大学、短期大学及び高等専門学校(県内大学等)が相互に連携・交流し、県内の教育の質的向上を推進するとともに、地域社会の発展に寄与することを目的とする。(平成27年9月設置)

○構成

大学コンソーシアム香川

香川大学	県立 保健医療大学	四国学院大学	高松大学・ 高松短期大学
徳島文理大学 (香川キャンパス)	香川短期大学	香川高等専門 学校	

会長 香川大学学長(任期29年3月31日まで)
副会長 徳島文理大学学長(任期29年3月31日まで)
事務局 香川県政策部地域活力推進課

※事務局
事務局は、コンソーシアム立ち上げのため、3年間(27～29年度)は、県に設置する。

○29年度事業内容

広報活動

- ・新聞広告、情報提供事業、情報提供スペース
- ・出前講座等の情報提供等

県内大学等合同進学説明会

○経費負担
事業の実施に必要な経費は、県及び県内大学等の負担による。

大学の魅力づくり補助金 (香川県事業)

補助金の特長

- 対象: 県内大学等(県内大学、短期大学、高等専門学校)
- 目的: 若者の県内定着の促進
- 内容: 大学等が提案する各校の特長を活かした「魅力づくり」に対し補助
- 補助率: 10/10
- 大学等は、具体的な数値目標(県出身入学者割合、県内就職率)を設定するとともに、5年間(平成27年度～平成31年度)の全体計画を作成(PCDAサイクルを確立し、継続的に改善)

「魅力ある大学づくり」
に向けた取組みを提案

県

←

県内大学等

補助等 →

補助事業イメージ

- 授業内容、カリキュラムの充実・強化
- キャリア形成支援の充実・強化
- 課外活動等の充実・強化
- 地域貢献活動の充実・強化
- その他特色をアピールした学生の確保 など

本学における魅力づくり事業

- ・看護実践能力を重視した新カリキュラム導入事業
- ・魅力づくりのためのとことん調査とホームページを中心とした発信力強化事業



大学名	愛媛県立医療技術大学
事例	地域交流センター

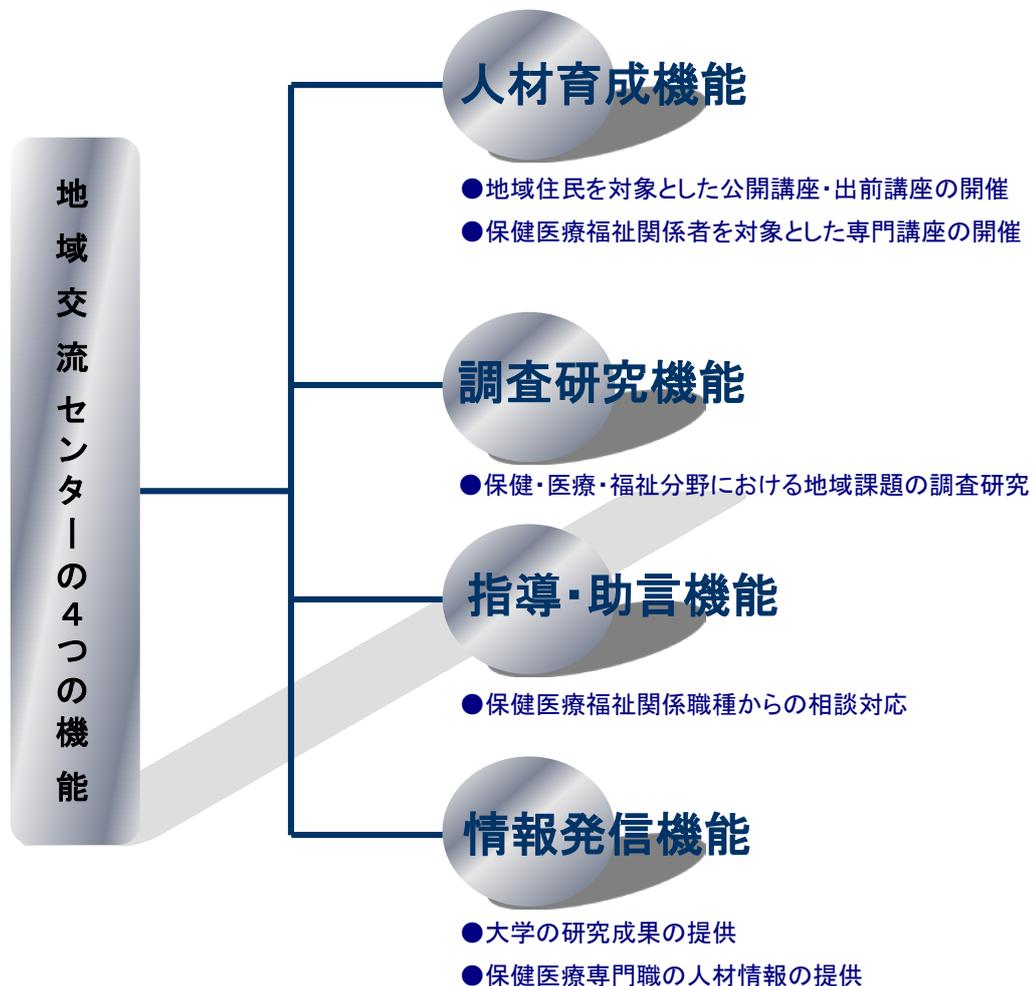
「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	県・西予市と協働で、「地域包括ケアシステム人材育成支援事業」(平成 27 年度～)を実施し、在宅ケアを支える人材の研修会を開催して、在宅ケア等の技術向上に努め、持続可能な地域社会の実現に寄与している。
Enhance	
Assure 地域のいのちを守る	「地域交流センター」が、地域住民を対象とした公開講座や出前講座や、保健医療福祉関係者を対象とした専門講座等を開催し、大学の研究成果や保健医療専門職の人材情報の提供等を行うことを通じて、地域のいのちを守るためのセーフティネットを強くしている。
Develop	

地域交流センターの設置目的及び機能

1 設置目的

愛媛県立医療技術大学が、地域に開かれた大学を目指し、大学の教育研究機能と市町村をはじめ地域の関係機関・団体等との連携強化を図り、医療の高度化や地域ニーズの多様化に対応できる質の高い保健医療従事者の育成を行うとともに、大学が保有する専門的な知識や技術を地域に還元することにより、県民すべての保健・医療・福祉の増進に寄与することができるよう、県民及び保健・医療・福祉専門職の交流の拠点となる地域交流センターを、大学の開学と同時に、平成 16 年 4 月に設置した。

2 地域交流センターの 4 つの機能



大学名	高知県立大学
事例	地域教育研究センター並びに健康長寿センターによる全学的な地域貢献の活動

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	「地域教育研究センター」では、全学実習科目「地域学実習」や地域課題解決プロジェクト「立志社中」等を通じて、学生が積極的に地域課題の解決に向けた取り組みや地域の魅力を発見する取り組みを展開している。
Enhance	
Assure 地域のいのちを守る	看護、社会福祉、健康栄養の強みを連携させ、高知県民の健康向上に寄与するとともに、「健康長寿センター」を中心として医療専門職者のスキル向上に全学で積極的に取り組んでいる。
Develop	



大学名	高知工科大学
事例	草の根 ITS ～地域に根差した地域 ITS の取組み～

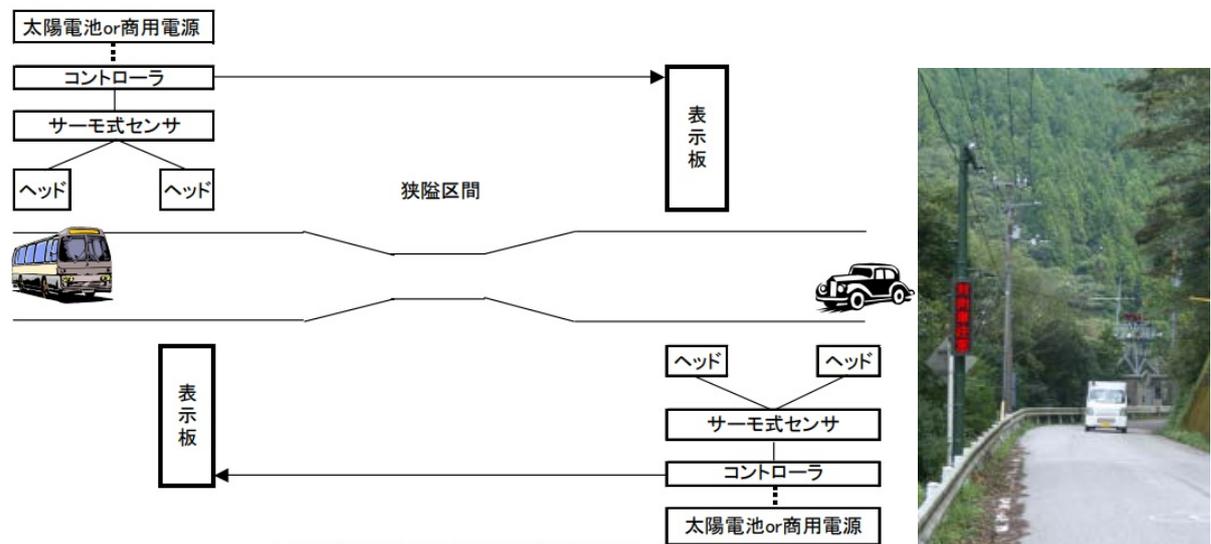
「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link	
Enhance	
Assure 地域のいのちを守る	都市部では見られない地域特有の交通問題に対して、低コストで、かつ安心・安全で効果的な方法を提案し、同様の問題を抱える他県についても多数採用され、“技術の力で地域のいのちを守る”という働きに貢献している。
Develop	

草の根 ITS～地域に根差した地域 ITS の取組み 高知県土木部道路課＋高知工科大学 熊谷靖彦

高知県の中山間地域の道路では、全国一律の規格（2車線歩道付）ではなく、地域の実情にあった規格（ローカルルール）で整備する1.5車線の道路整備を進めている。しかしこの整備手法においても、視距確保のために施工する突角剪除等の局部改良には多額の工事費が必要であることから、県内には1.5車線の道路で整備を予定している路線でも、未着手のため見通しが悪く事故発生の危険性が高いカーブ区間が数多く残っている。そこで、道路幅員が狭くカーブが連続する中山間地域の未改良道路において、対向車の有無をドライバーに知らせることで、安全かつスムーズな行き違いを誘導する、安価で信頼性の高い中山間道路走行支援システムを開発した。

□中山間道路走行支援システムの概要

このシステムは、車の接近をセンサで検知し、相手側の表示板に情報を提供するもので、カーブミラーでは対向車の接近を的確に認識できないカーブ等に設置するものである。



本システムでは、電源供給が困難な中山間地域でも太陽電池で稼働するサーモセンサーを採用している。その他、機能面でも連続車両検知機能や車種判別機能を追加するとともに、現場状況によりデータ伝送方式や警告表示方式を選択できるようにしている。また、仕様を標準化することで地場企業の積極的な参入を促しコスト削減を図っている。

現在、高知県及び他の6県（徳島、愛媛、岡山、島根、大分、静岡）を含め約77箇所では本システムの採用を受け、地域の道路交通の安全性及び円滑性の向上に貢献している。

また、高知県と本学との共同出願の特許が成立、本学に特許料収入をもたらしている。

◎平成21年度、高知県、連携する県内企業とともに、「国土交通大臣賞」受賞

◎平成25年度、「第15回国土技術開発賞 地域貢献技術賞」受賞

大学名	九州歯科大学
事例	口腔保健・健康長寿推進センター

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link	
Enhance	
Assure 地域のいのちを守る	政令指定都市で最も高齢化率の高い北九州市において、歯科医療を通じた県民の健康長寿促進のために、県および地域歯科医師会と連携しつつ、口腔保健・健康長寿推進センター(DEMCOP)というシステムを構築し、超高齢社会に適應できる歯科医療人を輩出するためのリカレント教育を行っている。
Develop	

超高齢化社会に対応できる歯科医療人材の育成を目的として

公立大学法人九州歯科大学

口腔保健・健康長寿推進センター

Dental Center for the Medically Compromised Patient (DEMCOP)



大学名	福岡女子大学
事例	ふくおか創生人材育成事業

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link	
Enhance 地域の財産を発展させる	本学は福岡県における知の拠点であり、また「次代の女性リーダーを育成」することを建学の精神として、国際的な視点を持ち、活躍することのできる人材(財産)を育成している。
Assure	
Develop	



公立大学法人
福岡女子大学
FUKUOKA WOMEN'S UNIVERSITY

国際的な視野を持ち、活躍する人材育成を目指す福岡県の「ふくおか創生人材育成事業」の一環として、県における知の拠点であり、「次代の女性リーダーを育成」を建学の精神とする福岡女子大学が、2つの人材育成事業を実施

ASEAN-EU域内大学 コンソーシアム福岡

ASEANとEU地域の有力大学とコンソーシアム(連携体制)を構築し、教育・研究における連携を促進し、国際的な視野を持ち、地域に貢献できる人材育成の推進を図ることを目的とする事業

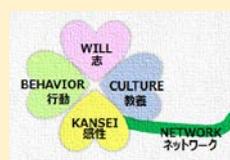


- 平成28年度から平成31年度までの4か年に亘り
- ①国際共同研究
 - ②若手研究者支援のためのネットワーク形成
 - ③国際的人材育成プログラム
 - ④遠隔会議システム導入
 - ⑤交換留学制度に基づく大学院生の研修プログラムと大学事務系職員研修
- の5つの活動を展開する



福岡女子大学 女性トップリーダー育成研修

産学官の超一流トップリーダーとの講演と対話を通じて、感性と人間性の陶冶を目指す研修を実施



「志」「感性」「教養」「行動」を身につけ、トップリーダーとしての心構え、資質開発に取り組む戦略プログラムを構築



大学名	福岡県立大学
事例	不登校・ひきこもりサポートセンターによる子ども支援活動

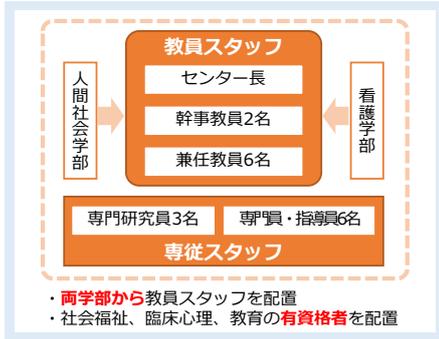
「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link	
Enhance	
Assure 地域のいのちを守る	不登校・ひきこもりの子どもたちに対する地域の専門的支援ニーズに応えるため、学生が中核となったサポートセンター事業を展開し、地域の子どもの生活向上を支援している。
Develop 地域の可能性を開発する	地域の子どもの未来を保証するため包括支援体制を構築している。


福岡県立大学
 不登校・ひきこもりサポートセンターによる子ども支援活動

▶▶▶ センターの目的

福岡県立大学「不登校・ひきこもりサポートセンター」は、不登校やひきこもりに悩む子どもたちの将来の社会的自立を目標にした、専門的な支援をおこなう機関です。
 子どもの状態に応じた個別や集団による直接的な支援とともに、保護者や家庭への支援、学校への支援、他の専門支援機関との地域連携ネットワークの強化など、子どもとその環境の双方に必要な支援をします。

▶▶▶ センターの構成員



▶▶▶ センター主要活動の平成28年度実績

相談支援事業	延3,766件
子どもサポーター派遣事業※1	延2,571名
キャンパススクール事業※2	在籍数25名 登校開始65%
家庭訪問	延176回
研修受け入れ・派遣	対象者4,329名

※1 大学生ボランティアによる不登校児童生徒への支援活動
 ※2 大学内に設置したフリースクール

▶▶▶ 包括支援体制の構築

- ・福祉系総合大学の特性を生かし、子どもを**包括的に支援**できる仕組みを整えている。
- ・**社会福祉、臨床心理、学校看護**の3つの視点から、運営会議では全相談事例についてディスカッションを行い、包括支援を実行に移している。
- ・**学生の援助力養成**のため、学生のボランティア段階を把握し、活動をステップアップできるよう学生一人一人に合わせ、教員スタッフとコーディネーターが調整している。
- ・要保護児童地域対策協議会に参画し、地域の関係機関とともに**虐待児童の包括支援**にあたっている。

▶▶▶ センターにおける学生の活動の特色

- 県大子どもサポーターの養成**
- ・1年前期授業「不登校・ひきこもり援助論」を修得し、申請した学生がサポーターとして活動する。**ボランティア活動に単位は出ない。**
 - ・新入生の約90%が「不登校・ひきこもり援助論」を履修、うち約100人がサポーターとなる。
- 県大子どもサポーターの派遣**
- ・学生派遣の調整にあたるコーディネーターが、**学生一人一人の特性と派遣先のニーズをマッチング**した上で派遣する。
 - ・派遣先は学校(保健室等の別室や教室)や教育支援センター等で、話し相手や学習支援、発達障害傾向の子どもの支援もおこなう。



大学名	北九州市立大学
事例	まちなか ESD センターを核とした実践的人材育成

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	複雑かつ多岐にわたる課題に向き合うために、北九州市内にある 10 大学が擁している多様な専門性を集結させ、より質の高い地域活動を展開している。環境教育を推進し、地域課題の解決と大学生教育を両立し、win-win の関係を構築している。
Enhance 地域の財産を発展させる	新しい発想力と行動力を持った学生たちが地域で活動することで、その地域に新しい風を吹き込み地域の運営に寄与している。まちなかの賑わいづくりを創出することで、地域の財産を発展させている。
Assure	
Develop 地域の可能性を開発する	地域での実践型教育を実施することで、学生たちが地域に入り込み、地域の中で役割をもって活動できる機会が増え、地域愛やシビックプライドを持つようになっていく。地元就職や地域の活力向上につながる仕組みを創造・開発する。



公立大学法人
北九州市立大学
THE UNIVERSITY OF KITAKYUSHU

市内 10 大学の学生が集まる拠点に、市民が集い、新しいネットワークが形成されることで、ESDに資する新しい活動が始まった

「街なか」を学びの舞台として10大学の学生が地域課題を解決する

★持続可能な社会づくりへの挑戦

平成24～28年度 文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」採択
『まちなかESDセンターを核とした実践的人材育成』

北九州市

北九州市教育委員会

北九州市ESD協議会

市内中心市街地に設置した
まなびとESDステーション

市内10大学連携の
キャンパス

若手起業家や手に職を持った社会人が集まるこの場を拠点にすることで、学生たちとのコラボレーションが実現！

北九州活性化協議会

北九州商工会議所

北九州まちづくり応援団

★にぎわいづくりへの挑戦

「あつまる・ひろがる・動き出す。」

学びたい人が自由に学ぶ場所を提供。まち全体を教室に、誰もが先生に、生徒になれる場所。
持続可能な地域社会を担っていく人材を育成することこそ、ESDの本質であり、地域に関わり、様々な地域課題の解決に活動する学生を増やしていくことが使命！

<主要事業>

- ①まなびとプロジェクト
学生たちが地域をフィールドに、地域や企業、まちの人との協力のもと、地域課題に実践的に取り組む。(のべ29プロジェクト)
- ②まなびと講座(H26年度～連携校による単位互換講座)
ESDに関する学びを、学生だけではなく幅広く市民に提供。大学教員など専門性を持った講師陣がESDに関して講義。(のべ68回)
- ③まなびとキャンパス
地域のリソースを教材にし、誰もが先生になり誰もが学生になれるような相互学習で地域のことを考える場。(のべ156回)
- ④まなびとマイスター制度
「講座」の履修や「プロジェクト」の活動を通してESDの実践的な知識・スキルを身に付けた学生を表彰・認定し、地域でのESD活動のリーダーとして活躍してもらう。

《成果》

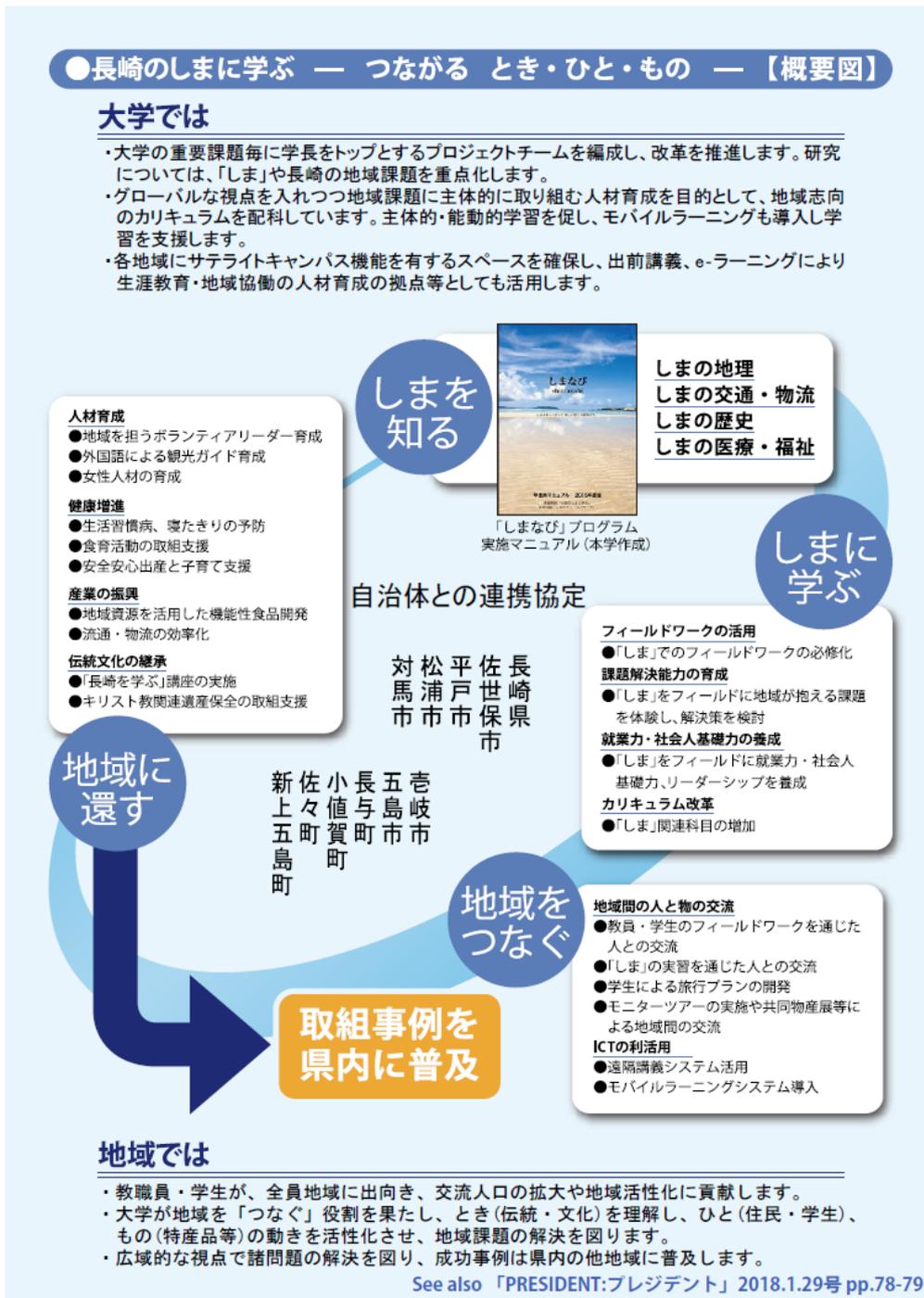
- ✓学生の成長(ESD人材の育成)
学生がステーションでの活動を通じ課題発見能力・解決能力・高度な協働的コミュニケーション能力を修得。
- ✓市民へのESDの普及
地域のまちづくりについて考えるきっかけの提供及び小・中・高等学校へのESD教育の普及。
- ✓地方創生・地域活性化への寄与
学生たちは、地域の中で役割を担い地域のために活動することで地域運営の主体者となることができた。

このステーションがESDの普及啓発と学生の教育の場としての役割を果たし、北九州市になくてはならない存在になることが、地域に根ざす大学として、新たなひとつの実践型教育のモデルとなることを意味する。



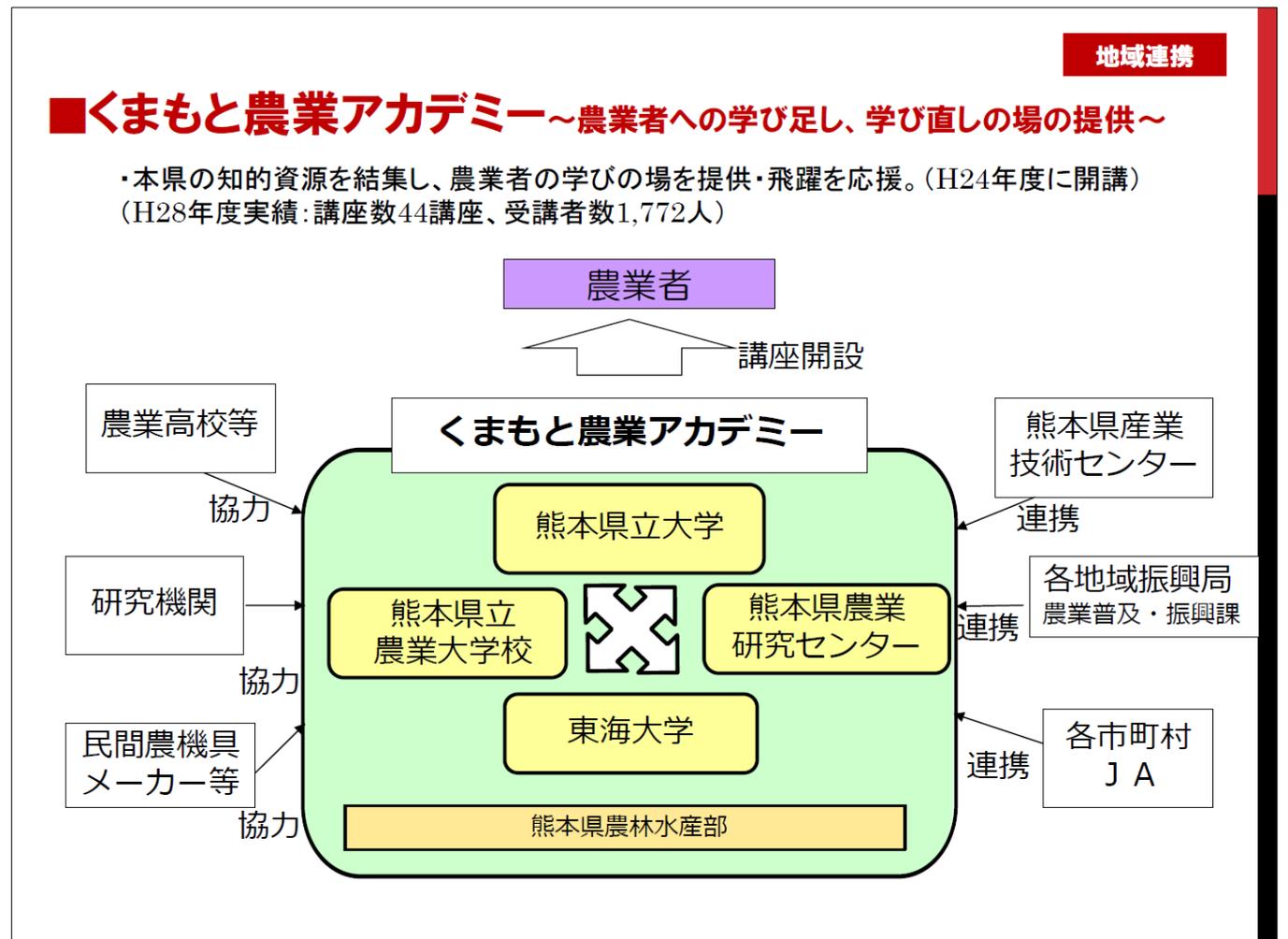
大学名	長崎県立大学
事例	長崎のしまに学ぶ — つながる とき・ひと・もの —

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	学生のPBLによる「しま」の課題設定、「しま」でのフィールドワーク、地域住民との協働、全島をつなぐ報告会などにより、「とき・ひと・もの」をつなぐ役割を果たしている。
Enhance 地域の財産を発展させる	地域の特産品の高付加価値化、機能性探索を行い、地域産業の振興を行っている。
Assure 地域のいのちを守る	看護学科の離島での看護実習、災害看護学実習、多職種協働コンソーシアム形成などを通して、地域住民の健康増進を支援している。
Develop 地域の可能性を開発する	教員の専門性を活かした地域企業との連携により、地域の可能性を創造・開発している。



大学名	熊本県立大学
事例	くまもと農業アカデミー ～農業者への学び直し、学び直しの場の提供～

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	自治体や企業など県内の諸機関と連携して講座を開設し、その英知を結集して新たな可能性を創造する。
Enhance 地域の財産を発展させる	全国有数の食糧生産基地である熊本の農業を支えるため、最新の農業知識や農業技術等の学びの場を提供し、農業経営の課題解決や農業者の能力向上を支援する。
Assure 地域のいのちを守る	農業関連分野のうち、特に食の栄養、食の健康などの研究成果を提供し、食の面から地域の健康増進を支援する。
Develop 地域の可能性を開発する	農産品の付加価値を高め、6次産業化に向けた開発支援を行い、産業の創生に貢献する。



大学名	大分県立看護科学大学
-----	------------

事例	魅力ある大学づくり・人づくり事業
----	------------------

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	自治体や企業、関係団体などと連携して地域住民の生活習慣や環境と健康の関係を解明し、保健的価値を再発見する。
Enhance	
Assure 地域のいのちを守る	保健医療福祉を総合的に考える大学として、地域住民の健康の保持増進のための新しい試みを県・市町村や住民に提案する。
Develop 地域の可能性を開発する	看護を通じたものづくりを提案し、産学官連携の新しいプラットフォームを構築する。

＜大分県立看護科学大学＞ 地域の包括的な保健医療福祉との協働



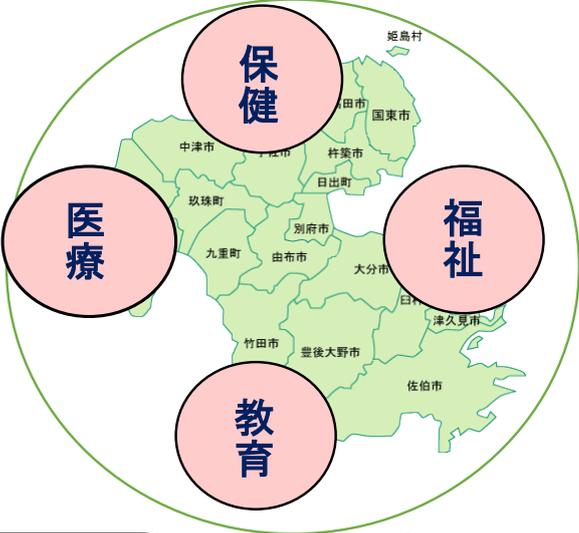
健康増進プロジェクト

介護予防プログラムの提案、
体力チェックサポーター養成、
スポーツ救護ナース養成、
ヘルスポランティア養成

予防的家庭訪問実習

1~4年生の全80チームが、
在宅高齢者を定期的に訪問、
健康維持のための方策を
協力者・地域と共に考える

地域・時代の
ニーズにマッチ
した優秀な看
護職者の養成



県・市町村の保
健医療福祉計
画立案や推進
に協力

**Nurse Practitioner
プロジェクト**

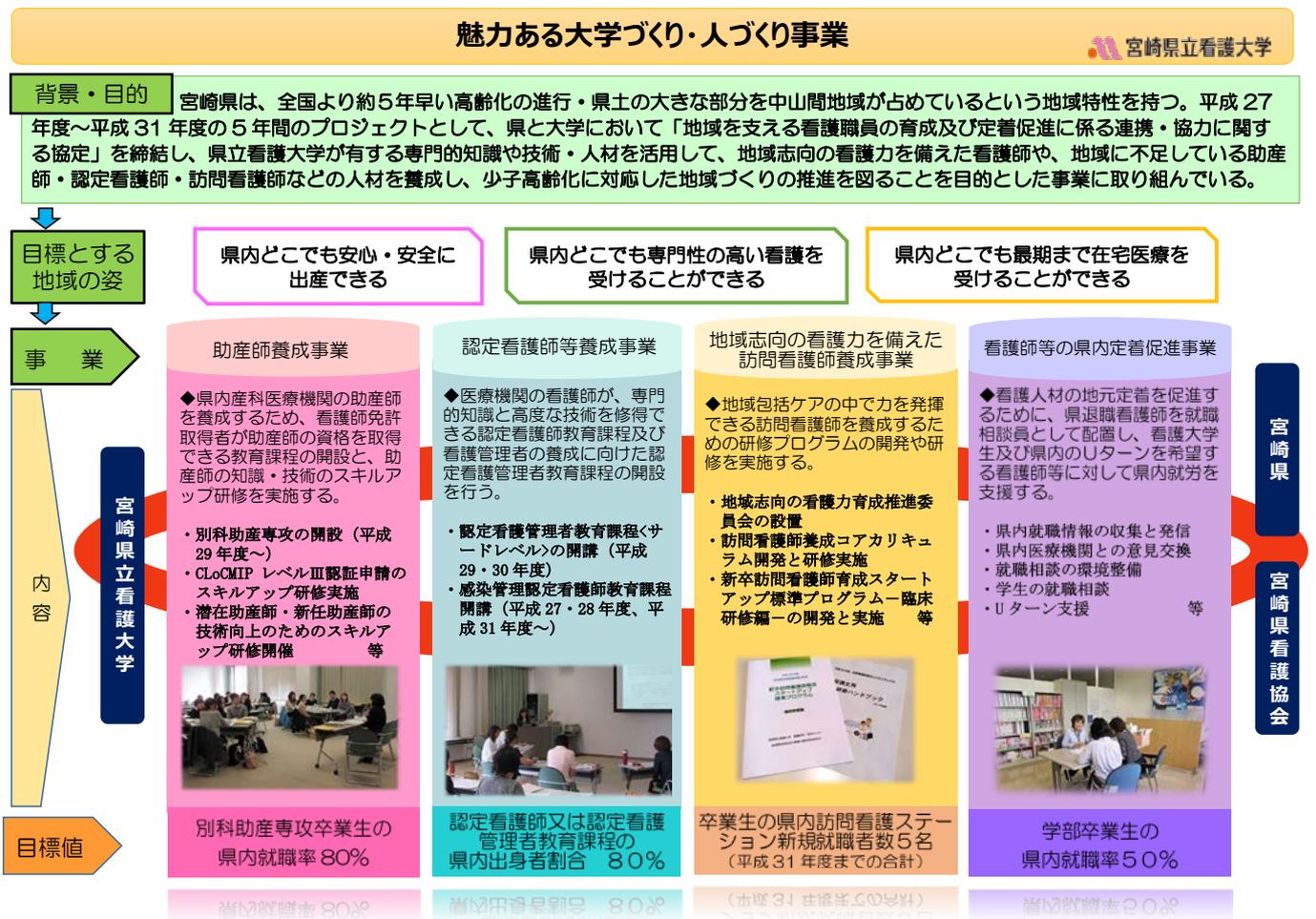
県と看護協会や地域基幹病
院・訪問看護ステーション等
と協働して、地域医療の申し
い形を提案

**看護を通じた
ものづくり**

医療現場や家庭でのニーズ
と県内企業の力をつなぐ
プラットフォームの構築

大学名	宮崎県立看護大学
事例	魅力ある大学づくり・人づくり事業

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	健康にかかわる県政課題の解決のため、関係機関の役割分担と協働の要となる。
Enhance 地域の財産を発展させる	潜在化している看護職者の力を引き出し、地域の看護人財の量と質の確保に貢献する。
Assure 地域のいのちを守る	看護職者のキャリアアップ教育体制構築や看護職者の実践力強化のプログラム開発などに取り組み、実践現場の看護の質の向上を図ることを通して、地域住民の保健・医療・福祉の向上に寄与する。
Develop 地域の可能性を開発する	中山間地域を含む全県下への看護人財の供給により、地域格差のない地域包括ケアシステムづくりの実現に貢献する。

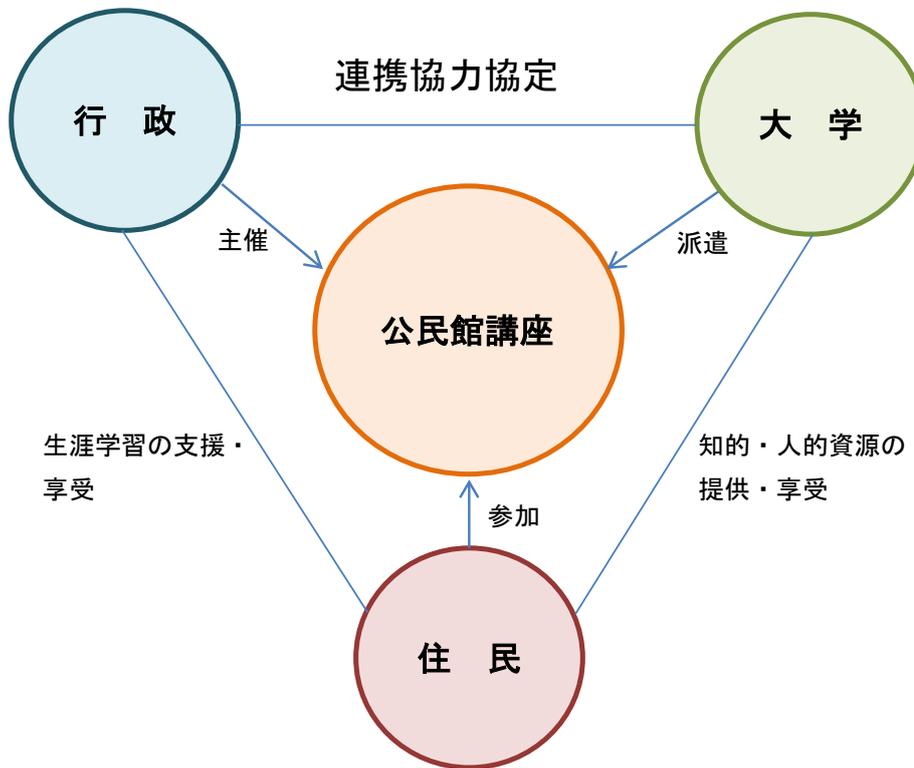


大学名	宮崎公立大学
事例	公民館講座

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	大学がこれまで蓄積してきた様々な研究成果を相互に連携させ、大学と地域住民、行政とを結び付けながら、生涯学習支援を行っている。
Enhance	
Assure	
Develop	

宮崎公立大学「公民館講座」

本学の教職員の幅広い知的・人的資源を活用した市民への生涯教育をより一層推進するため、「宮崎市教育委員会との連携協力に関する協定書」の「生涯教育の推進に関する事項」に基づき、宮崎市教育委員会が所管する宮崎市公民館講座に教職員を派遣した講座を行っている。

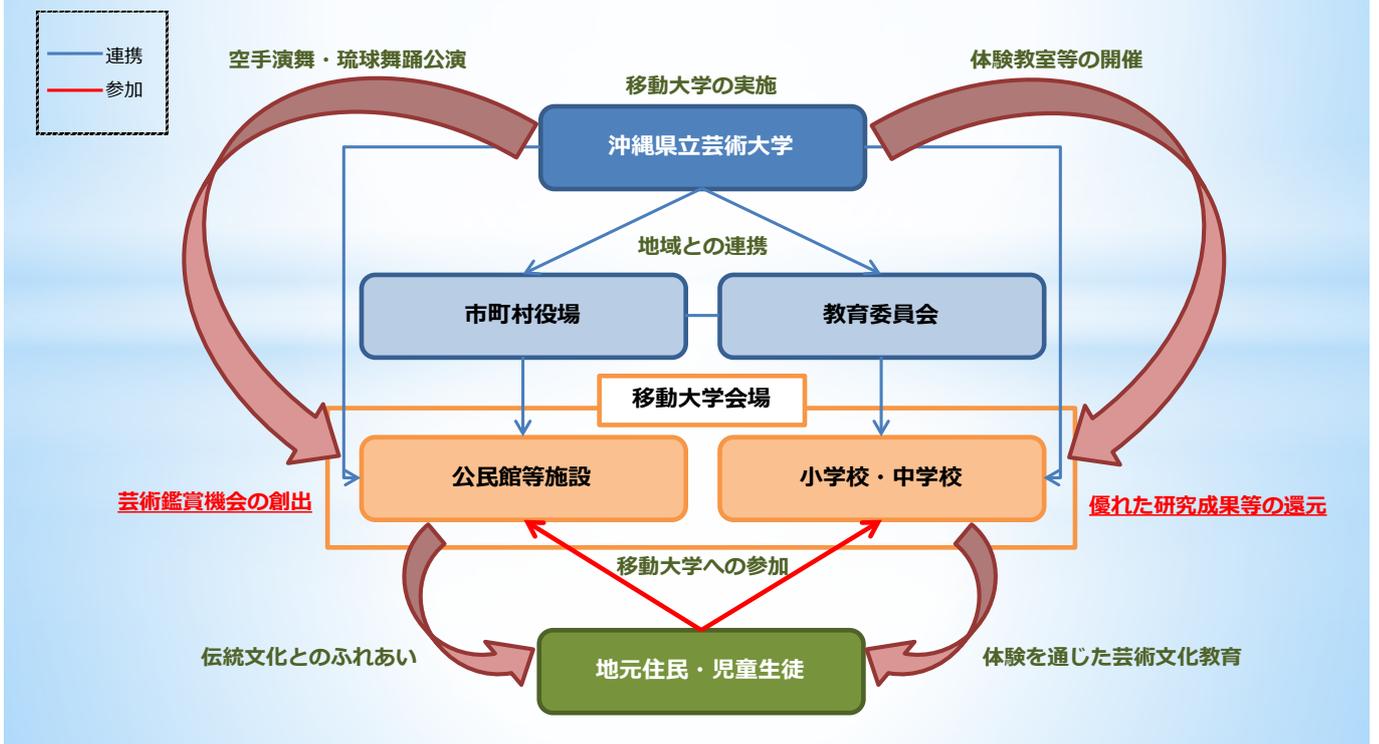


大学名	沖縄県立芸術大学
事例	地域と連携した移動大学の実施

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	県立大学として、独自の歴史と風土の中で培われた琉球芸能を始めとした音楽や美術工芸の分野で幅広く活躍できる人材の育成に努めるとともに、各種団体と共同することで、地域社会の芸術文化活動にも貢献している。
Enhance 地域の財産を発展させる	
Assure	
Develop	

* 地域と連携した移動大学の実施

沖縄県立芸術大学移動大学 実施スキーム図



沖縄県（設置自治体）の中長期計画「沖縄 21 世紀ビジョン基本計画」で掲げる課題において、その解決に向けた施策（実施計画）の一つとして、本学の取組みが記載されている。本学の移動大学は、周辺離島や都市部から離れた地域で開催している。移動大学の実施により、地域と大学とのネットワークを構築するほか、地域住民や児童生徒に対し、沖縄固有の風土によって培われた個性的な芸術文化とふれあう機会を創出し、さまざまな芸術文化の研究成果を還元している。

また、移動大学のほか、国や県が主催する観光イベントなどで公演を行い、沖縄へ来訪する国内外の方々に向け沖縄の芸術文化を発信している。

大学名	沖縄県立看護大学
事例	島しょ・へき地の地域包括ケアシステム構築支援事業

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	島しょの専門職が島しょの課題を共有し、その課題解決のために島内外の専門職間の連携を強化する取組みの中核的な役割を果たしている。
Enhance 地域の財産を発展させる	地域ケアを支える島内の人材育成のみならず、次世代を含めた地域の人々の自主性・主体性を育んでいる。
Assure 地域のいのちを守る	島しょ・へき地で暮らす人々が、生涯にわたり住み慣れた地域社会で安心して生活し続けられるように、保健医療福祉職と住民との協働により、島内で包括的に一時医療や介護サービスを受け、島での看取りができるように支援している。
Develop 地域の可能性を開発する	多様な保健医療福祉専門機関や専門職を有する都市地域の地域包括ケアシステムとは異なる現況を把握して、島しょにある人材を活かした「島しょ型地域包括ケアシステム」を構築している。

島しょ・へき地の地域包括ケアシステム構築支援(沖縄県立看護大学)

島しょの強みである人と人とのつながりの広さと深さを活かし、互助の活性化による「島しょ型地域包括ケアシステム構築」の支援を展開

年度	支援目標
平成26年度	現状分析とモデル島の選定
平成27年度	モデル島での実施と支援プログラムの開発
平成28年度	モデル島での支援プログラムの実施と評価及び波及プログラムの開発
平成29年度	波及プログラムの実施と評価
平成30年度	「島しょ型地域包括ケアシステム」の構築支援と継続支援の提案

沖縄県立看護大学

学内推進会議
(学長、事務局長、管理者)

第三者評価会議 (行政(県・市町村)有識者) → 他者評価 → 報告 → 調整 → 助言 → 構築支援会議 (行政、島しょ看護実践者、保健・医療専門職、福祉・介護専門職、有識者、大学教員)

モデル島ワーキング会議
(学内教員)

協働・連携 → 報告・調整 → モデル島の住民会議 (住民、行政、専門職)

モデル島の住民会議のメンバー: 老人会代表、区長・公民館長、小中学校長、青年会代表、民生委員、医師、診療所、保健師、役場職員、婦人会代表、小中

モデル島の住民会議の様子

モデル島の風景

大学名	名桜大学
事例	地域連携機構による「COC+未来叶いプロジェクト—新たな地域社会を創造する」

「LEAD」の分析枠組みによる事例分析	
Link 地域の価値をつなげる	産学官協働によるネットワークを構築し、県北部 12 市町村の諸機関が連携して、「地域の価値をつなげる」ことに中核的な役割を果たしている。
Enhance 地域の財産を発展させる	産学官協働によるネットワークを構築し、地域の歴史・文化・エコツーリズム・健康長寿ブランドを活かした観光産業など、「地域にある財産を発展させる」取組みを行っている。
Assure 地域のいのちを守る	地域連携機構では、健康長寿・サポートセンター、看護実践教育研究センターを中心に、地域住民に向けた科学的根拠に基づいた健康・運動支援活動を行っている。また、県内保健・医療・福祉関係者を対象とした専門講座の開催など、「地域のいのちを守る」ための各種事業を推進している。
Develop 地域の可能性を開発する	地域連携機構では、外国語講座(中国語や英語)を中心とした観光産業支援人材の育成、地域活性化にむけた産業振興を担う「地域の可能性を開発する」人材の育成を行っている。

未来叶いプロジェクト

ミライカナイ 新たな地域社会を創造する



名桜大学
Meio University

「未来叶いプロジェクト」が叶える 2020 年の未来



学

- (例) 田中さんは、マリンスポーツを一年中楽しめる常夏の「ヤンバル」で興味と実益を満足できる仕事に就く。
- (例) 大城さんは、沖縄にいながら世界最先端のデータ分析・機械学習・人工知能の技術者になり、地元で暮らす。
- (例) 具志堅さんは、沖縄で会社を起業し、ヨットを買う。

産

- 地域資源を活用した特産品開発、付加価値を生み出すら次産業化に向けた取り組み、エコツーリズム、健康・長寿ブランドを活かした観光産業への課題等を産学官で解決。
- 2020年の企業ニーズを反映したカリキュラムで学んだ名桜大学・琉球大学の未来人材を採用。
- 現場の抱える課題(ニーズ)解決に名桜大学と琉球大学が貢献。
- 名桜大学と琉球大学の持つ研究成果(シーズ)を地元企業等に提供。

官

- 産学官連携でIT企業の誘致や地域の観光産業等を活性化
- 若者の流入による人口増加や経済活性化による税収増
- 1ターン・リターンを含めた若者の定住により長期的かつ安定した経済発展が可能に

地域住民

- 子どもや孫らが地域に残り安心した老後と子育てが可能に
- 住み慣れた地域で安心した生活を続けることが可能に
- 地域内や近隣の職場に通うことにより余裕のある生活が可能に

未来叶いの工程表(例)

学



産



官



Present

2016年 ニーズの把握と最適な新カリキュラム設計 ~叶えてほしいこと~

田中さん
沖縄で趣味と実益を満足できる仕事に就きたい

大城さん
世界最先端のデータ・統計分析技術を身につけ、沖縄で暮らしたい

具志堅さん
沖縄で起業し、ヨットを買いたい

健康・長寿ブランド を活かした観光ビジネスを発展させたい

地域資源を活用した特産品 を開発したい

エコツーリズム を実現したい

point 策定したカリキュラムが実現する4年後に卒業する人材像の青写真を企業に示し、地元企業を始め県内外・国内外の企業へインターンシップ・就職・企業誘致を開始

名桜大学の卒業生に定住して欲しい

持続的な経済発展を望む

田中さん
沖縄の健康・長寿ブランドを活かした観光マーケティングのプロジェクト学習を実施

大城さん
課題解決型のインターンシップで、顧客データの統計分析を元に、地域資源を活用した特産品の開発を支援

具志堅さん
大学教授とアメリカのエコツーリストの支援の元でマーケティング・資金調達を含む本格的なエコツーリズムの起業シミュレーションを実施

point PDCAサイクルによるカリキュラム・授業・学習方法・広報等の改善を行う

産学官連携の成果を広報し地元企業を始め県内外・国内外のインターンシップ・企業誘致を継続

フェイスブックやweb動画を積極的に活用して途中成果を積極的に発信

田中さん
健康長寿ブランドを活かした大手旅行業社名議支店に就職し、マリンスポーツを楽しむ

大城さん
本部に誘致したIT企業でシニア・データ分析エンジニアとして働き、結婚し親元で暮らす

具志堅さん
起業シミュレーションを元にエコツーリズムの会社を起業し、軌道に乗る

健康・長寿ブランド → 学生のアイデアによるWEBマーケティングで地元資本による観光ホテル開業

地域資源を活用した特産品 → 熱帯果実等のブランド化が大学との連携により実現

エコツーリズム → ヤンバルが世界的な観光地に

point 名桜大学の若者が地元企業に就職・定住

1ターン・リターン移住者が沖縄県北部地域に定住し、持続的に経済発展

名桜大学の卒業生に定住して欲しい

持続的な経済発展を望む

田中さん
健康長寿ブランドを活かした大手旅行業社名議支店に就職し、マリンスポーツを楽しむ

大城さん
本部に誘致したIT企業でシニア・データ分析エンジニアとして働き、結婚し親元で暮らす

具志堅さん
起業シミュレーションを元にエコツーリズムの会社を起業し、軌道に乗る

健康・長寿ブランド → 学生のアイデアによるWEBマーケティングで地元資本による観光ホテル開業

地域資源を活用した特産品 → 熱帯果実等のブランド化が大学との連携により実現

エコツーリズム → ヤンバルが世界的な観光地に

point 名桜大学の若者が地元企業に就職・定住

1ターン・リターン移住者が沖縄県北部地域に定住し、持続的に経済発展

名桜大学の卒業生に定住して欲しい

持続的な経済発展を望む

- ### 未来人材育成します
- #### 7つの戦略
- 1: 業種が弱く～地域の弱点を強みにする工夫 ■
 - 2: 先進技術で地域の課題を解決する工夫 ■
 - 3: カリキュラム設計の工夫 ■
 - 4: パソコン1台で地域で高付加価値の仕事をする工夫 ■
 - 5: 地域のベンチャー起業を大学が支援する工夫 ■
 - 6: インターンシップで新技術を地域に導入する工夫 ■ ■ ■ ■
 - 7: 世界と地域をサテライト授業・YouTubeでリンクする工夫 ■
- 能力力 ■ 分析力 ■ 解決力 ■ 伝達力



公立大学の地域貢献機能

地域貢献プログラムの“LEAD”による事例分析

■ 2018年1月

一般社団法人 公立大学協会

〒105-0001 港区虎ノ門 2-9-8 郵政福祉虎ノ門第二ビル 2階
TEL 03-3501-3336 FAX 03-3501-3337
E-mail jimu@kodaikyo.jp